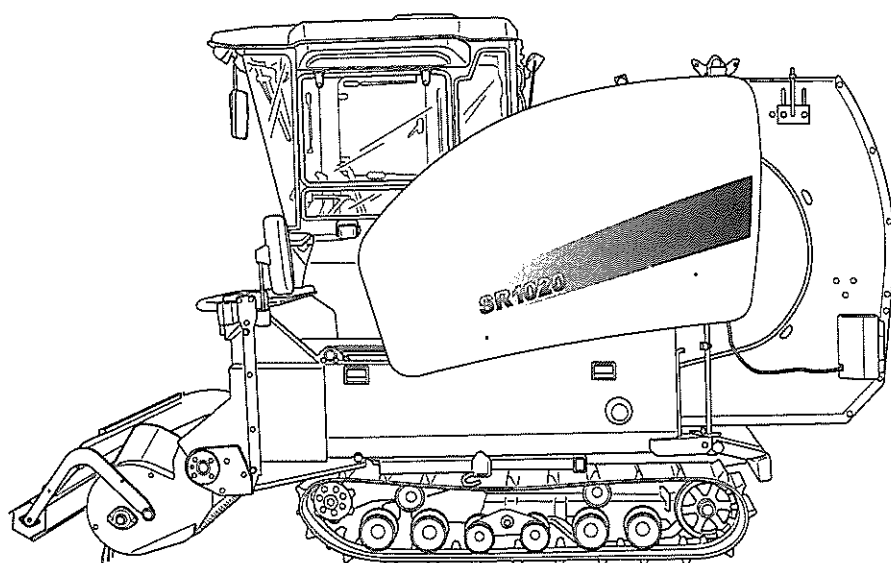


Takakita

SR1020

取扱説明書



⚠ 本製品をご使用の皆さまへ

本製品を安全に、また正しくお使いいただくために、必ず本取扱説明書をお読みください。

お読みになった後も大切に保管してください。

本取扱説明書は、お手持ちのスマートフォンやタブレットからQRコードを読み込んでアクセスすることができます。

取扱説明書QRコード

P1~113

P114~213



はじめに

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、自走ロールペーラの取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取り扱いいただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**《参考》**・**《重要》**として、知っておくとお得な製品の性能や、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いてあります。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行なうことがあります。お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

▲ 警告サイン

▲ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

▲ 危険 その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

▲ 警告 その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

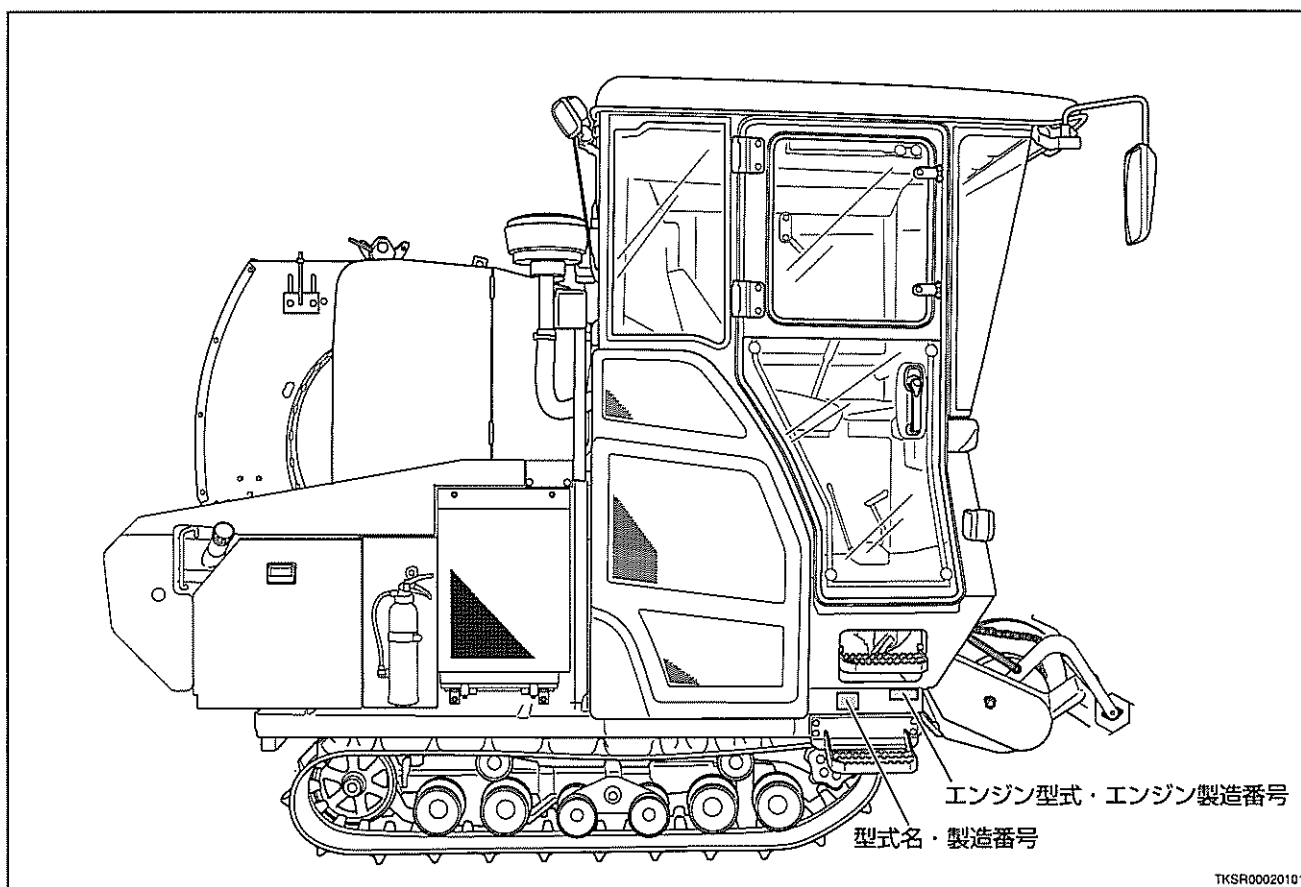
▲ 注意 その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

型式と装備内容について

◆ 商品の使用にあたって

お買い上げいただきました自走ロールベアラの型式・製造番号を、機体に貼付してあります銘板で確認してください。

◆ 銘板の位置



目次

はじめに 1

型式と装備内容について 2

目次 3

1. 使用上のポイント 7

- 1.1 使用上のご注意 7
 - 1.1.1 本機を使用するにあたって 7
 - 1.1.2 作業をする前に 8
 - 1.1.3 走行する場合には 9
 - 1.1.4 運搬時の注意事項 10
 - 1.1.5 作業中は 11
 - 1.1.6 毎日の作業後は 13
 - 1.1.7 定期点検・整備について 13
 - 1.1.8 電気配線点検時の注意事項 16
 - 1.1.9 格納・保管時は 17
 - 1.1.10 バッテリ取り扱い時の注意事項 18
 - 1.1.11 ブースタケーブル使用時の注意事項 19
- 1.2 警告ラベルについて 20
- 1.3 警告ラベル貼付箇所 21

2. 保証とサービスについて 25

- 2.1 商品の保証 25
- 2.2 サービスネット 25
- 2.3 銘板の位置 25
- 2.4 補修用部品供給年限について 26

3. 各部の名称とはたらき 27

- 3.1 各部の名称 27
 - 3.1.1 本機前方 27
 - 3.1.2 本機後方 28
 - 3.1.3 レバー・ペダル関係 29
 - 3.1.4 スイッチパネル 30
 - 3.1.5 スイッチ関係 31
 - 3.1.6 コンビネーションメータ 33
 - 3.1.7 マルチアイ 34
 - 3.1.8 コントロールボックス 44

4. 作業前点検 52

- 4.1 運転席にすわって 52
- 4.2 運転席にすわって 53
- 4.3 メインスイッチキーを「入」位置にして 53
- 4.4 エンジンを始動して 53

5. 運転のしかた 54

- 5.1 新車時の取り扱い 54
- 5.2 運転席の調節のしかた 55
- 5.3 エンジン始動と停止のしかた 56
 - 5.3.1 エンジン始動のしかた 56
 - 5.3.2 エンジン停止のしかた 59
 - 5.3.3 エアー抜きのしかた 60
- 5.4 走行のしかた 61
 - 5.4.1 パワーステアリングレバーの使いかた 61
 - 5.4.2 走行のしかた 62
 - 5.4.3 停車・駐車のしかた 64
 - 5.4.4 駐車ブレーキの解除のしかた 66
 - 5.4.5 チャンバーの開閉のしかた 67
- 5.5 自動車等への積み・降ろしのしかた 68

6. 作業前の準備 70

- 6.1 自走ロールベアラの準備 70
 - 6.1.1 注油箇所 70
- 6.2 ほ場への出入りのしかた 71
- 6.3 作物の拾い上げ 72
 - 6.3.1 ウインドローの作りかた 72

7. 作業前の準備 73

- 7.1 ピックアップの調整 73
 - 7.1.1 ピックアップの高さ調整 73
 - 7.1.2 クロップカバーの調整方法 73
- 7.2 コントロールボックスの使いかた 74
 - 7.2.1 各レバーの名称とはたらき 74
 - 7.2.2 コントロールボックスの使いかた 75
- 7.3 ネット交換のしかた 77
 - 7.3.1 ネットの通しかた 77

8. 作業のしかた 79

- 8.1 ウインドロー拾い上げ作業のしかた 79
 - 8.1.1 作業手順と要点 80
 - 8.1.2 回行のしかた 81
 - 8.1.3 作業速度の選びかた 82
 - 8.1.4 エンジン回転の合わせかた 82
- 8.2 ベールのつくりかた 83

9. 自動装置について 85

- 9.1 IQ アクセル装置 85
 - 9.1.1 機能について 85
 - 9.1.2 取り扱い時の注意事項 85
 - 9.1.3 操作のしかた 85
- 9.2 車体水平および平行制御装置 86
 - 9.2.1 機能について 86
 - 9.2.2 操作のしかた 86
 - 9.2.3 取り扱い時の注意事項 88
- 9.3 刈高さ制御装置 89
 - 9.3.1 機能について 89
 - 9.3.2 取り扱い時の注意事項 89
 - 9.3.3 操作のしかた 89
- 9.4 バックリフト（自動上昇装置） 91
 - 9.4.1 機能について 91
 - 9.4.2 操作のしかた 91
- 9.5 センサチェックモード（コンビネーションメータ） 92
 - 9.5.1 機能について 92
 - 9.5.2 センサチェックのしかた 92
 - 9.5.3 センサのチェック項目 93
- 9.6 センサチェックモード（コントロールボックス） 94
 - 9.6.1 機能について 94
 - 9.6.2 センサチェックのしかた 94
 - 9.6.3 センサのチェック項目 95

10. メンテナンスモード 96

- 10.1 メンテナンスモードについて ... 96
 - 10.1.1 メンテナンスモードの内容 96
 - 10.1.2 各モードについて 96
 - 10.1.3 メンテナンスモードの切り換えかた 97
- 10.2 エンジン始動設定と始動のしかた 98
 - 10.2.1 エンジン始動設定のしかた 98
 - 10.2.2 エンジン始動設定時のエンジン始動のしかた 100
- 10.3 液晶コントラスト調整のしかた 102
- 10.4 メンテナンス情報表示のしかた 104
- 10.5 メンテナンス案内について ... 107
- 10.6 メーカーセッテイモードについて 109
 - 10.6.1 メーカーセッテイモードの内容 109
 - 10.6.2 メーカーセッテイモードへの切り換えかた 109
 - 10.6.3 画面表示の切り換えかた 109
 - 10.6.4 設定値の変更のしかた ... 110

11. 各部の開閉のしかた 114

- 11.1 エンジンカバー 114
- 11.2 ラジエータ前カバー 115
- 11.3 チェンカバー 117
- 11.4 左サイドカバー 118
- 11.5 ベルトカバー 119
- 11.6 右駆動カバー 120
- 11.7 ネット駆動カバー 121
- 11.8 キャビンカバー 122
- 11.9 ピックチェンカバー 123

12. キャビンについて 124

- 12.1 各部の名称 124
- 12.2 各部の使いかた 125
 - 12.2.1 ドアの施錠・解錠 125
 - 12.2.2 ドアの開けかた 126
 - 12.2.3 サイドウインド（左側）... 127
 - 12.2.4 サイドウインド（ドア側） 128
 - 12.2.5 リヤハッチ 129
 - 12.2.6 バックミラー 130
 - 12.2.7 ルームランプ 130
 - 12.2.8 作業灯 131
 - 12.2.9 ワイパ・ウォッシャ 132
 - 12.2.10 ウォッシャタンク..... 133
 - 12.2.11 CD ラジオ 134
 - 12.2.12 バックガイドモニター... 135
- 12.3 エアコン 136
 - 12.3.1 各部の名称 137
 - 12.3.2 エアコン操作パネル 137
 - 12.3.3 エアコンの使いかた 138

13. 点検整備 140

13.1 定期点検一覧表	141
13.2 燃料給油	143
13.3 オイル交換のしかた	144
13.3.1 給油一覧表	144
13.3.2 エンジンオイル	145
13.3.3 延長フランジオイル	146
13.3.4 走行メインギヤケースオイル	147
13.3.5 油圧オイル	148
13.3.6 逆転ミッションオイル	149
13.3.7 チェンオイル	150
13.4 グリース注入のしかた	152
13.4.1 使用グリース一覧表	152
13.4.2 HSTテンションアームのグリースアップ	152
13.4.3 転輪関係のグリースアップ	152
13.4.4 車体水平および平行制御装置軸受のグリースアップ	153
13.4.5 ピックアップ部のグリースアップ	154
13.4.6 チャンバー部のグリースアップ	155
13.5 ベルトの点検と調整のしかた	156
13.5.1 ベルトの点検と調整一覧表	156
13.5.2 エンジン出力ベルト	157
13.5.3 HST ベルト	158
13.5.4 作業ベルト	159
13.5.5 ネット用ベルト	161
13.5.6 クーラベルト	162
13.5.7 ファンベルト	163
13.6 チェンの点検と調節のしかた	164
13.6.1 チェンの点検と調整一覧表	164
13.6.2 ベーラ駆動チェン	165
13.6.3 中間チェン	165
13.6.4 タイトチェン	166
13.6.5 かき込み駆動チェン	167
13.7 ワイヤの点検と調整のしかた	168
13.7.1 アクセルワイヤ	168
13.8 その他の点検と調整について	170
13.8.1 駐車ブレーキの調整	170
13.8.2 燃料フィルタの清掃と交換	171
13.8.3 エンジンオイルフィルタの交換	172

13.8.4 油圧オイルフィルタの交換	172
13.8.5 エアクリーナとプレクリーナの清掃	173
13.8.6 ホース類の点検と交換	174
13.8.7 バッテリーの点検	175
13.8.8 ラジエータの清掃	177
13.8.9 配線・ヒューズの点検と交換	179
13.8.10 クローラの点検と調整	183
13.8.11 冷却水の点検と交換	184
13.8.12 エアコン部品の配置	186
13.8.13 エアフィルタの清掃	187
13.8.14 コンデンサの点検と清掃	188
13.8.15 冷媒量の点検	189
13.8.16 リレー・ヒューズの点検	190
13.8.17 ネット切断ナイフの点検	191
13.8.18 シェアボルトの点検と交換	192

14. 格納時の手入れ 193

14.1 清掃のしかた	194
14.1.1 清掃箇所	194
14.2 その他の手入れのしかた	195

15. 不調時の診断と処置 196

15.1 異常発生時の処置	196
15.2 異常表示時の処置（自動制御関係）	202

16. 付表 203

16.1 主要諸元	203
16.2 付属品一覧	204
16.3 推奨潤滑油一覧表	205
16.4 主要消耗品	207
16.5 オプション	211
16.5.1 灰皿	211
16.6 配線図	212
16.6.1 ロールベラコントロールボックス部	212
16.6.2 ロールベラ 電装配置図	213

1. 使用上のポイント

1.1 使用上のご注意

この自走ロールペーラを正しく御使用になるために、必要な情報が記載されています。

この自走ロールペーラを正しくお使いいただくために、ここで説明する注意事項をよく読んで理解し、正しく活用してください。

1.1.1 本機を使用するにあたって



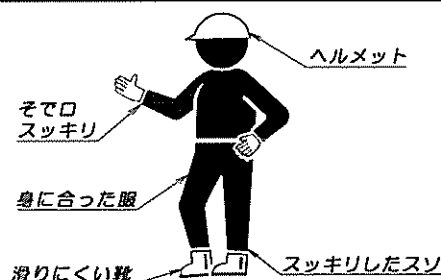
こんなときは、運転をしないでください。

- 16歳未満の人
 - 飲酒したとき
 - 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により正常な運転ができないとき
 - 妊娠しているとき
 - 取扱説明書を熟知していない人
- ※ 守らないと、誤操作しやすく、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



作業に適した服装をしてください。

はち巻き・首巻き・腰タオルは厳禁です。
ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、作業に適した防護具等を付けて、だぶつきのない服装をしてください。
※ 守らないと、本機に巻き込まれたり、すべて転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

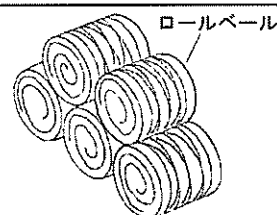


本機に運転者以外は、乗せないでください。

本機の乗車定員は、1名です。
運転者以外は、乗車させないでください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

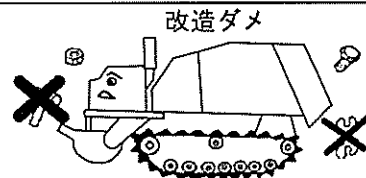
使用目的以外への使用禁止。

本機は、稲わら・麦わらのロールペール梱包を目的として作られた機械です。
他の目的以外で、本機を使用しないでください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



本機を改造しないでください。

純正部品や指定以外の部品を取り付けたり、本機を改造しないでください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



本機を貸すときは、正しい使い方を指導してください。

取り扱いの方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を、必ず、読むように指導してください。
※ 守らないと、借りた人が機械の運転に不慣れなため、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



1. 使用上のポイント

1.1.2 作業をする前に

⚠ 危険

燃料補給は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

くわえタバコやマッチ・ライターなどの裸火照明は、絶対にしないでください。

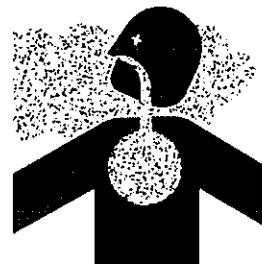
※ 守らないと、燃料に引火し、やけどや火災の原因になります。



閉め切った屋内などでは、エンジンを始動しないでください。

エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

※ 守らないと、排気ガスによる一酸化炭素中毒を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあります。



本機を常にきれいにしてください。

エンジン・マフラ・ベルトカバー・バッテリーなどにたまっている枯草などを、きれいに取り除いてください。

※ 守らないと、おもわぬ火災の原因となります。



注油・給油をするときは、必ず、エンジンやその他の駆動部が、完全に停止してから行ってください。

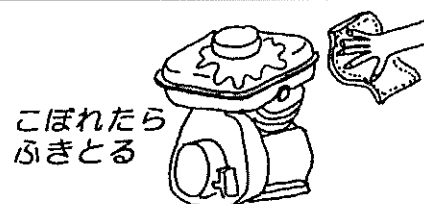
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



こぼれた燃料は、拭き取ってください。

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。

※ 守らないと、おもわぬ火災の原因となります。



⚠ 警告

駐車ブレーキの効きや各レバー類の作動点検を行う

駐車ブレーキの効き具合や、各レバー類に著しいガタや遊びがないか点検し、ガタがある場合は、必要な処置をしてください。

※ 守らないと、正常な走行ができず、傷害事故、機械の破損を引き起こすおそれがあります。

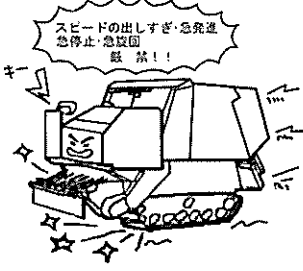
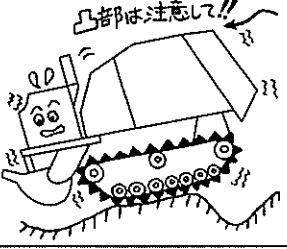
始業時・終了時は、必ず、点検・整備を行ってください。

※ 守らないと、傷害事故や、機械の故障を引き起こすおそれがあります。

無理・無駄のない、ゆとりある作業計画をたててください。

※ 守らないと、あせり等から傷害事故を引き起こすおそれがあります。

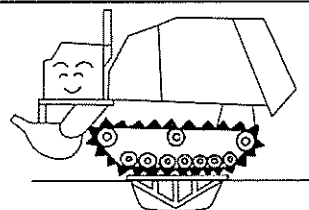
1.1.3 走行する場合には

 警告	運転者は、運転席に座って運転してください。 ※ 守らないと、転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
	運転席には、運転者以外は乗せないでください。 また、機体の上には、いかなる場合も、絶対に人は乗せないでください。 ※ 守らないと、転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
	エンジンを始動するときは、各レバーを「切」位置にし、主変速レバーを「中立」位置にして、周囲の人に合図をして、安全を確かめてから、エンジンを始動してください。 ※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	安全確認 
	寒冷時には必ず暖気運転を行う 寒冷時に運転する場合は、エンジンを始動してから暖気運転（10～15分）を必ず行ってください。 ※ 守らないと、駐車ブレーキワイヤーなどが凍結していると、誤作動する可能性があります。	
	スピードの出し過ぎや、急な発進・停止・旋回は事故の原因となるだけではなく、本機の寿命を縮めますので、行なわないでください。 また、起伏の多いほ場や傾斜地は、危険ですので、作業スピードを極力低くして、作業を行なってください。 ※ 守らないと、衝突・転倒・転落などの傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
	非常の場合を除いて、通行中や作業中の自走ロールベアラに飛び乗ったり、飛び降りたりしないでください。 ※ 守らないと、転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
	農道では、路肩に注意してください。 側溝のある農道や、両側が傾斜している農道を走行するときには、速度を落として十分注意して走行してください。 ※ 守らないと、路肩が崩れて、転倒・転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
	あぜを横断するときは、回転部を止めて、低速で、あぜと直角にゆっくり走行してください。 あぜの高さが高いところ（段差が10cm以上）でのほ場の出入りでは、必ず、アユミ板を使用してください。 ※ 守らないと、バランスがくずれて転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	

1. 使用上のポイント



溝を横断したり軟弱な場所を通るときは、スリップや転倒事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あり、すべり止めのある、基準に合ったアユミ板を使用し、最低速度で通過してください。
※ 守らないと、バランスがくずれて転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

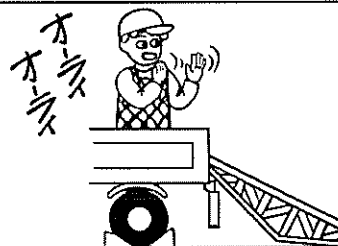


1.1.4 運搬時の注意事項



本機で、公道走行をすることはできません。
● 本機で公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。
● 公道を移動するときは、トラックなどで運送してください。
※ 守らないと、法令により処罰されます。

本機の積み・降ろし時、トラックが動かないように、平坦な場所でエンジンを止めて、変速を「低速」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。
※ 守らないと、積み・降ろし時、トラックが動いて転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



本機の積み・降ろしは、長さ・強度・幅の十分あるアユミ板を使用してください。アユミ板は丈夫ですべり止めのある、基準に合ったものを使ってください。
※ 守らないと、アユミ板が折れて転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

本機の積み・降ろし時は、誘導者を付け、周囲の状況を十分に確認してください。本機の周辺には、絶対に立たないでください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

本機の積み・降ろし途中では、パワーステアリングレバーや副変速の操作、進路変更をしないでください。
※ 守らないと、バランスがくずれて、転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

トラック等で運搬するときは、必ず、本機に駐車ブレーキをかけ、強度が十分にあるロープで、荷台に確実に固定してください。
また、運搬中は不用意な急発進・急旋回・急ブレーキをしないでください。
※ 守らないと、自走ロールベアラが動き出し、転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

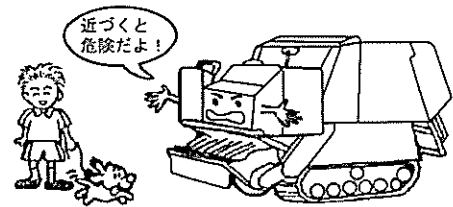


自動車等で運搬するときは、外装カバーの取付を確実に行ってください。
また取扱説明書の「自動車等への積み・降ろしのしかた」を遵守してください。
※ 守らないと、障害事故の原因になります。

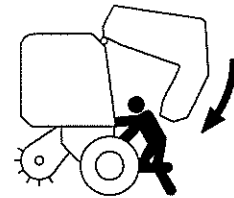
1.1.5 作業中は



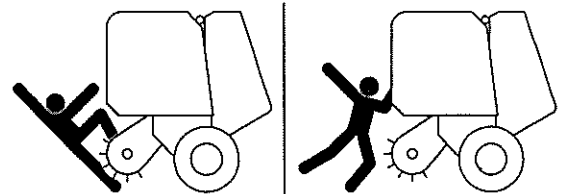
作業中は、回りの人に注意（特に子供）してください。
作業中は、作業員以外の人を本機に近づけないでください。
作業を開始するときは、周囲の状況を確認し、特に補助者とともに作業するときは、ホーン等で合図してから行ってください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



チャンバーを開けて掃除や点検等をするときは、必ず、シリンダストッパーを、左右共にセットしてください。
※ 守らないと、重大な傷害を受けるおそれがあります。



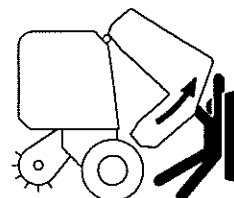
回転部や作業部、マフラ・ラジエータ・エンジンなどの過熱部、バッテリー端子などの通電部に、手や足で絶対に触れないでください。
※ 守らないと、重大な傷害を受けるおそれがあります。



後進して作業をするときは、後方に障害物のないことを十分に確認し、本機と障害物の間に人や、動物を挟まないようにしてください。
※ 守らないと、重大な傷害を受けるおそれがあります。

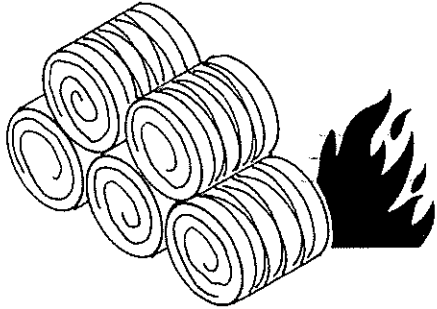
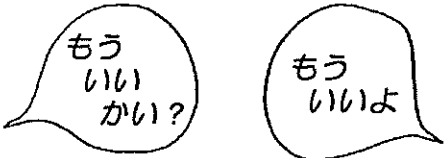


ボールの放出は、後方に人や障害物がないことを十分に確認して、放出距離を考慮して放出してください。
※ 守らないと、重大な傷害を受けるおそれがあります。



1. 使用上のポイント

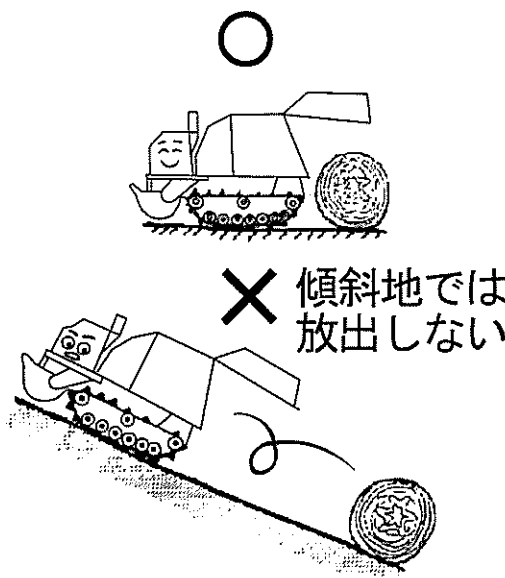


	乾燥火災に、注意してください。 乾燥不十分な材料をロールベールで成形すると、ロールベール内部からの発火により、火災が発生する危険性があります。 ロールベール成形後 2 ～ 3 日間は、風通しのよい屋外に仮置きしたのち、屋内に収納してください。 ※ 守らないと、火災につながるおそれがあり危険です。	
	2 人以上で作業するときは、お互いに声を掛け合い、安全を確認しながら、作業を行ってください。 ※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
	ドアを開放したまま作業しない ※ 守らないと、作業中の衝撃などにより、不意にドアが閉まって手や身体が挟まれるおそれがあります。	
	自走ロールベールを発進するときは、周囲の状況を確認し、自走ロールベールの近辺に人を近づけないようにして、ゆっくり発進してください。 ※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
	作業途中で、運転席より離れる場合やシェアボルトの交換・巻き付き草などを取り除くときは、平坦な場所に停止し、各レバーを「切」位置にし、エンジンを止めて、駐車ブレーキを掛けてください。 ※ 守らないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。	
	異常と思ったらエンジンをすぐに停止する 異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業関係のレバーを全て「切」位置にしてから点検をしてください。 ※ 守らないと、思わぬ破損、傷害事故になります。	



傾斜地で作業をする場合は、次の事柄を必ず、守ってください。

- 斜面の等高線に平行、または斜めに走行すると、横転する危険があります。
 - 傾斜地で旋回するときは、速度を落とし、急旋回をしないでください。
 - 本機を駐車する場所は、平たんで広い地面の硬い場所を選んでください。やむを得ず坂道で駐車するときは、駐車ブレーキをかけ、さらに木片等で車止めをしてください。
 - 傾斜地でのバール放出は、谷側にバールが転がって危険です。必ず、平坦地まで移動して、安全な場所でバールを放出してください。
- ※ 守らないと、横転したり、バールに巻き込まれる等の傷害事故を引き起こすおそれがあります。



やむを得ず、作業が夜間に及ぶときには、あたりが暗くなってきたら、早めに作業灯を点灯してください。

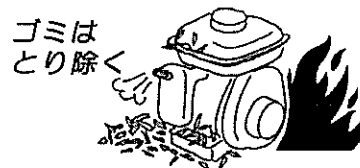
- ※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1.1.6 毎日の作業後は



エンジン本体、マフラ周辺、ベルトおよびプーリ周辺、バッテリー周辺にたまっているワラくずは、きれいに取り除いてください。

- ※ 守らないと、火災の原因となります。



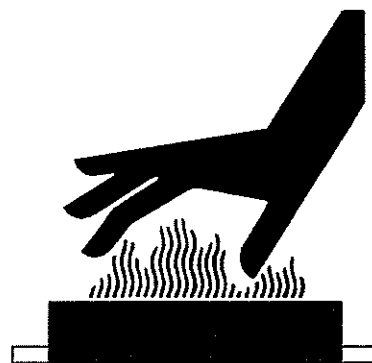
1.1.7 定期点検・整備について



過熱部分の点検・整備は、十分冷えてから行ってください。

- エンジン停止後すぐに、点検・整備をしないでください。エンジン等の過熱部分が十分に冷えてから行ってください。
- ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。運転停止後、十分冷えてから注意して開けてください。

- ※ 守らないと、熱湯が噴出してやけど等、傷害事故の原因になります。



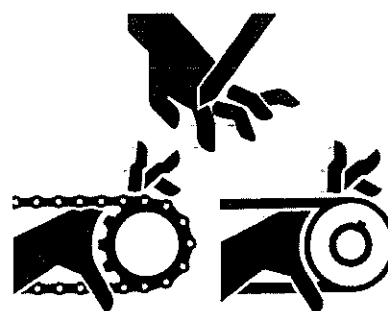
1. 使用上のポイント

警告

カバー類は、必ず、取り付けてください。

- カバー類などの防護装置を取り外す場合は、必ず、各レバーを「切」位置にし、エンジンやその他の駆動部が、完全に停止してから行ってください。
- 取り外したカバー類は、必ず、元通りに取り付けてください。

※ 守らないと、本機に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



高圧油に、注意してください。

- 油圧がかかり噴出した油は、皮膚に浸透する程の力があり、高圧油による傷害を防止するため、配管・ホースなどの取り出し前には、必ず、残圧を抜いてください。
- 圧力をかける前に配管・ホースなどは、正しく確実に締め付けてください。
- 非常に小さな穴からの油漏れは、ほとんど目に見えないことがあります。
- 手で油漏れを探すことは、やめてください。必ず、保護メガネをかけ、紙などを使用して調べてください。
- 万一、油が皮膚に浸透したときは、強度のアレルギーを起こすおそれがあるので、すぐ医師の診療を受けてください。

※ 守らないと、傷害事故の原因になります。



高温油に、注意してください。

- 高温油による障害を防止するために、作業直後の注油やミッションのオイル交換は、しないでください。温度が十分下がった状態で、作業をしてください。
- やけどやケガを負った場合は、速やかに医師の診療を受けてください。

※ 守らないと、やけど等、傷害事故の原因になります。

高温のときは
やめて!!



ナイフには、十分注意してください。

ナイフ類は、絶対に素手で触れないで、必ず、手袋などの保護具を着用してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



燃料パイプの破損や、燃料漏れがないか必ず、点検してください。

※ 守らないと、やけどや火災の原因になります。

ピックアップ部を上げて点検・整備する場合には、必ず、ロック装置を「ロック」位置にし、さらにピックアップ部の下に木片、ブロック等のしっかりした台を敷いて固定してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



駐車ブレーキや操作レバー・スイッチ類は、必ず点検整備をする

駐車ブレーキや各操作レバー類に、著しいガタや遊びがないか点検し、ガタある場合は、必要な処置をしてください。

※ 守らないと、正常な走行ができず、傷害事故、機械の破損を引き起こすおそれがあります。

高い場所の整備や手入れを行う場合は、脚立などを使用する

※ 守らないと、高いところから落ちてけがをするおそれがあります。

オイル交換時は、次の事柄に注意してください。

- 本機から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
- 廃液、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、または産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。

※ 守らないと、廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

1年毎の定期点検・整備をしてください。

整備不良による不具合や事故を防止するため、1年毎に定期点検・整備を受け、本機が最良の状態で作業ができるようにしてください。

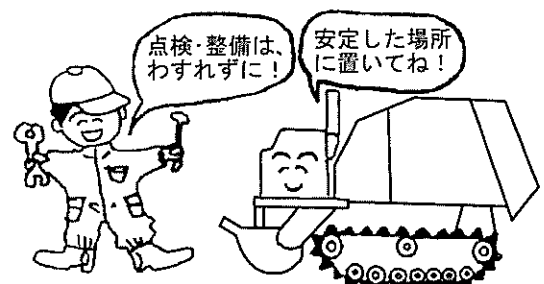
※ 守らないと、傷害事故や機械の故障を引き起こすおそれがあります。



点検・整備・清掃をするときは、次の事柄を必ず、お守りください。

- 点検・整備は明るく、地面が平坦で硬く、広い場所を選び、ピックアップ部を地面に降ろし、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチキーを抜いて行ってください。
- 各レバーを「切」位置にし、エンジンやその他の駆動部が、完全に停止してから行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

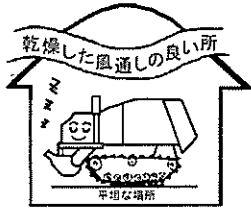


1. 使用上のポイント

1.1.8 電気配線点検時の注意事項

⚠ 危険	バッテリー、電気配線およびマフラやエンジン周辺部のフラクズ・ゴミ等は、きれいに取り除いてください。 ※ 守らないと、火災の原因になります。	
	配線の端子や接続部のゆるみ、および配線の損傷は、早めに交換・修理してください。 ※ 守らないと、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電し、火災・傷害事故の原因になります。	
⚠ 警告	電気配線の点検は、必ず、エンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いて行ってください。 ※ 守らないと、手や衣服を回転部に巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
	接続部の点検は、メインスイッチを「切」位置にし、バッテリーの⊖コードを外して行ってください。 ※ 守らないと、スパーク（火花がとぶ）・感電し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	

1.1.9 格納・保管時は

! 危険	長期格納するときは、本機を清掃し、回転部には十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。 ※ 守らないと、火災の原因や傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
	長期格納する場合は、バッテリーケーブルを取り外してください。 取り外すときは⊖コードから取り外してください。 ※ 守らないと、ネズミ等がかじったりしたとき、ケーブルがショートして発火し、火災の原因になります。	
	長期格納するときは、燃料タンクを満タンにしてサビや水の発生を防いでください。 ※ 守らないと、やけどや火災の原因になります。	
	マフラ周辺部、ベルトカバー内、バッテリー周辺にたまっているワラくずは、きれいに取り除いてください。 ※ 守らないと、火災の原因になります。	
	エンジンが過熱している間に、シートをかけないでください。 ※ 守らないと、火災の原因になります。	
! 警告	取扱説明書に従って、定期点検を実施してください。 ※ 守らないと、整備中の傷害事故や整備不良による傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
	点検・整備は、適正な工具を正しく使用してください。 また、自走ロールベアには、点検・整備に必要な工具類を常備してください。 ※ 守らないと、整備中の傷害事故や整備不良による傷害事故を引き起こすおそれがあります。	
	格納時は、メインスイッチのキーを抜いてください。 ※ 守らないと、機械の盗難やいたずら等で重大な事故を引き起こすおそれがあります。	

1. 使用上のポイント

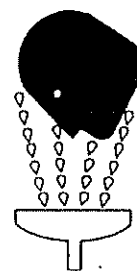
1.1.10 バッテリー取り扱い時の注意事項

危険

警告

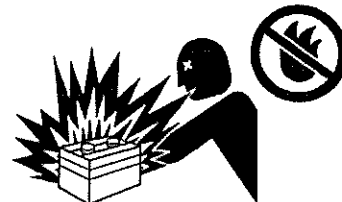
バッテリーの点検時に、ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。
※ 守らないと、引火爆発の原因になります。

バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇物です。
● バッテリー液を身体や衣服に付けないようにしてください。
● もし、目・皮膚・服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。
※ 守らないと、失明ややけど等、傷害事故の原因になります。



バッテリーの吸気孔は、ふさがないようにしてください。
※ 守らないと、爆発して、やけどや火災の原因になります。

バッテリーは、充電中に可燃性ガスが発生します。充電中は、タバコや火気を近づけないでください。
※ 守らないと、引火し爆発するおそれがあります。



バッテリーの充電は、通風のよいところで行ってください。
※ 守らないと、引火爆発の原因になります。

バッテリーの取り付け・取り外しは、正しい手順で行ってください。
● バッテリーの取り外しは⊖コードを取り外した後、⊕コードを取り外してください。
● 取り付けは⊕コードを付けた後、⊖コードを取り付けてください。
※ 守らないと、ショートやスパークして、やけどや火災の原因になります。

バッテリーの交換は、指定された型式のバッテリーを使用してください。
● 65D23R
※ 守らないと、ショートして、やけどや火災の原因になります。

バッテリーの脱着および点検をするときは、エンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。
※ 守らないと、電気部品を損傷したり、傷害事故の原因になります。



1.1.11 ブースタケーブル使用時の注意事項

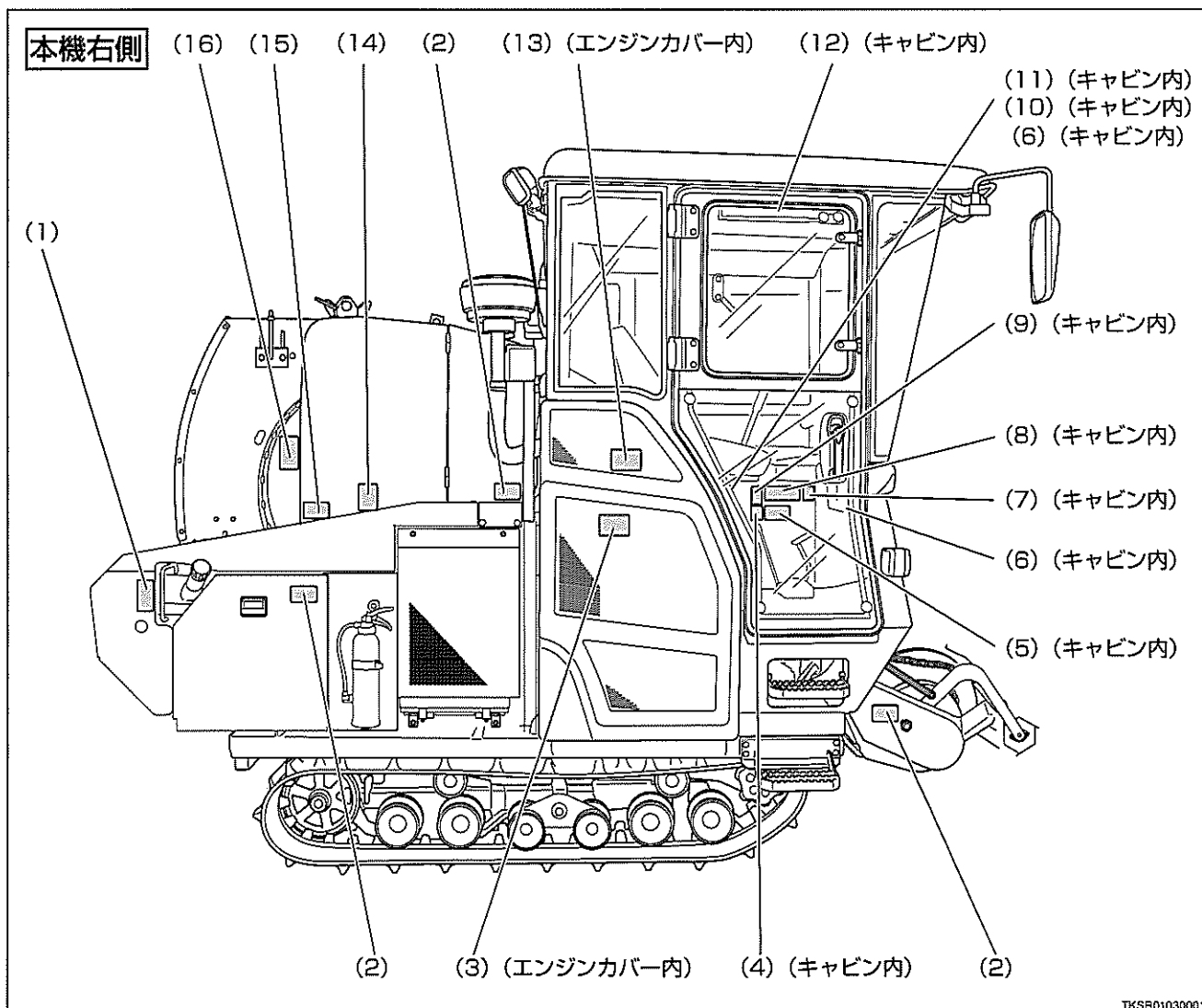
 危険	ブースタケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで、使用してください。 ※ 守らないと、ブースタケーブルが熱をもったり、火災や焼損するおそれがあります。	
 警告	ブースタケーブル接続前に、エンジンを停止してください。 ※ 守らないと、電気部品を損傷したり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。	

1. 使用上のポイント

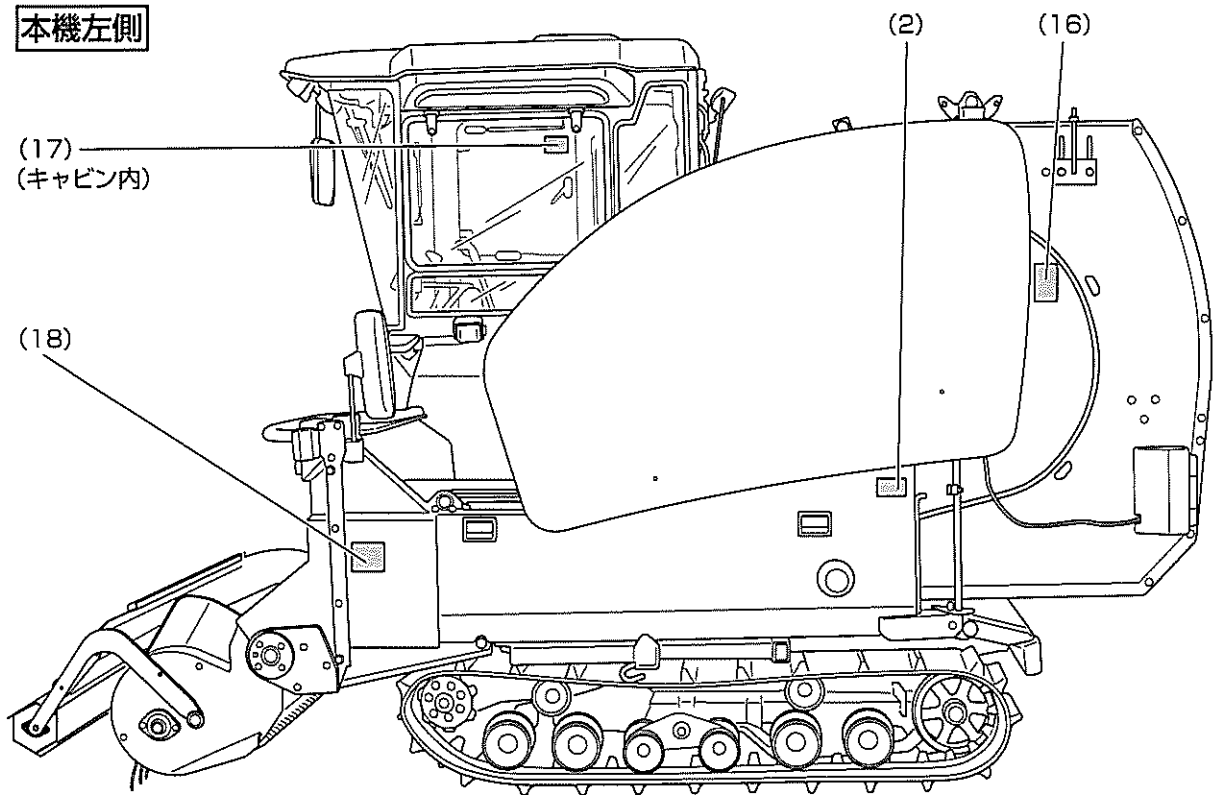
1.2 警告ラベルについて

- この自走ロールベアラには、正しく作業をしていただくため、警告ラベルが貼付してあります。必ずよく読んで、これらの注意に従ってください。
- 警告ラベルが破れたり、はがれたり、読めなくなった場合は、新しいラベルを注文し貼り替えてください。
- 汚れた場合は、きれいに拭きとり、いつでも読めるようにしてください。
- 高圧洗浄機等で、洗車すると、警告ラベルがはがれるおそれがあります。圧力水を直接警告ラベルにかけないでください。
- 警告ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に警告ラベルもお買いあげ先へ注文してください。

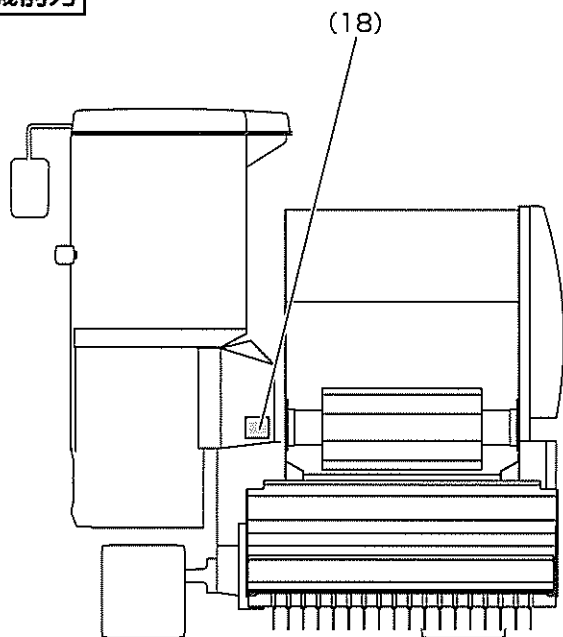
1.3 警告ラベル貼付箇所



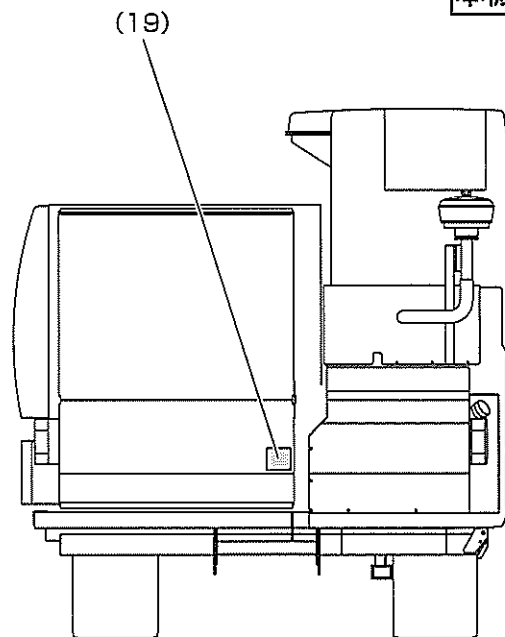
本機左側



本機前方



本機後方



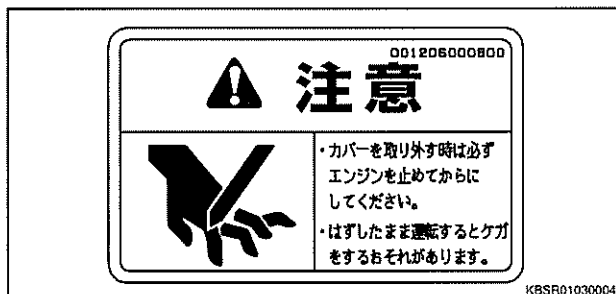
TKSR01030002

1. 使用上のポイント

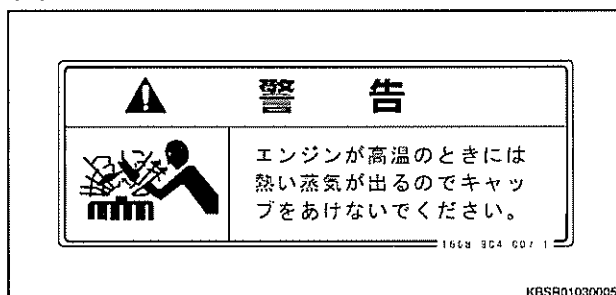
(1) 00120-6001-050 危険



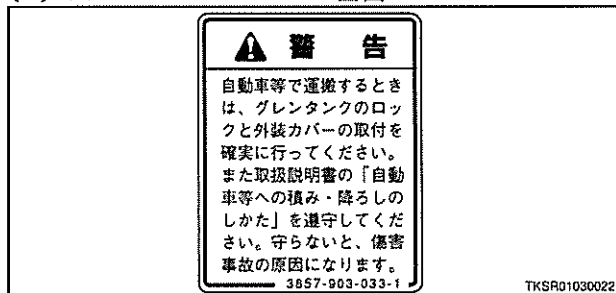
(2) 00120-6000-800 注意



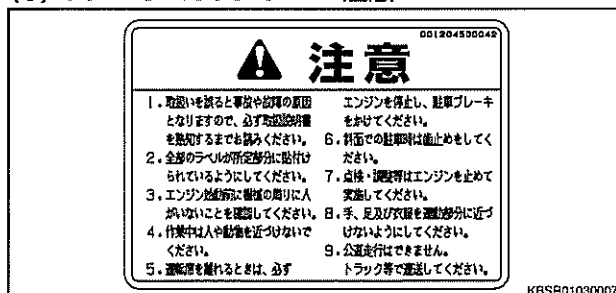
(3) 1668-904-007-1 警告



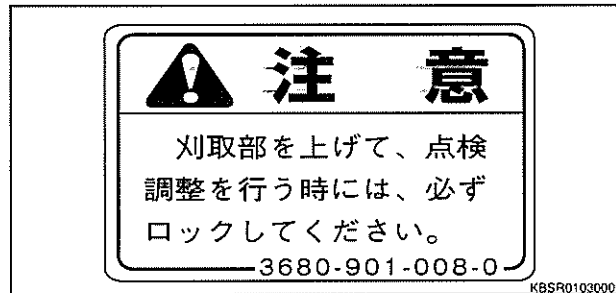
(4) 3857-903-033-1 警告



(5) 00120-4500-042 注意



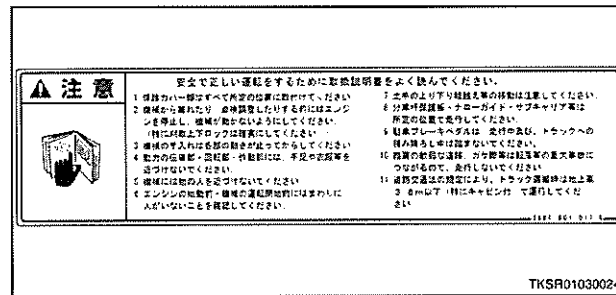
(6) 3680-901-008-0 注意



(7) 3801-903-075-0 注意



(8) 3680-901-017-0 注意



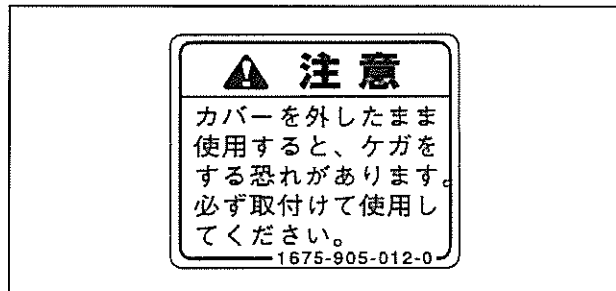
(9) 3823-901-001-0 注意



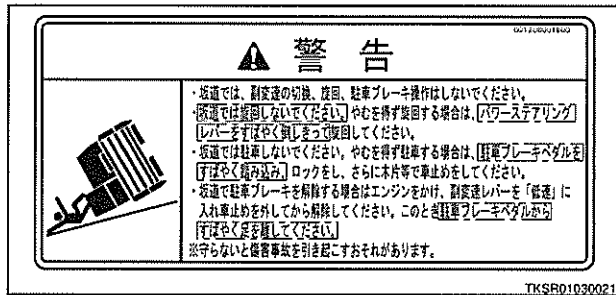
(10) 1668-904-002-1 注意



(11) 1675-905-012-0 注意



(12) 00120-6001-900 警告



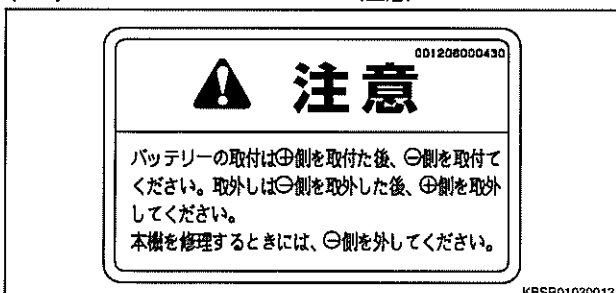
(13) 1668-904-005-0 警告



(14) 00130-6000-190 注意



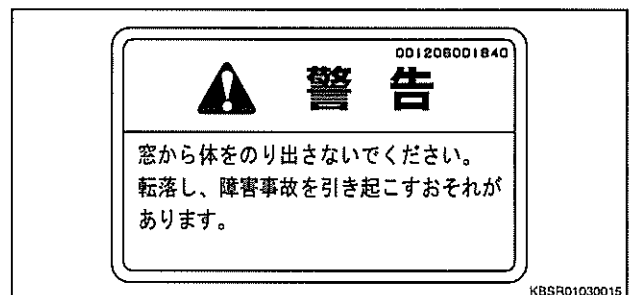
(15) 00120-6000-430 注意



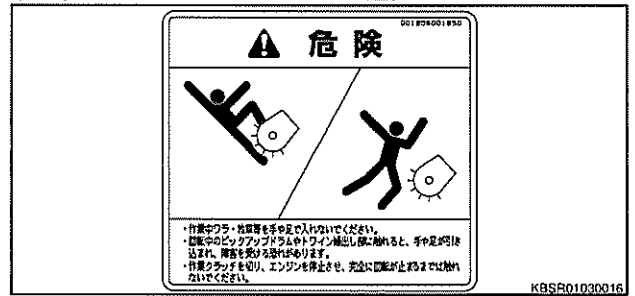
(16) 00120-6001-440 注意



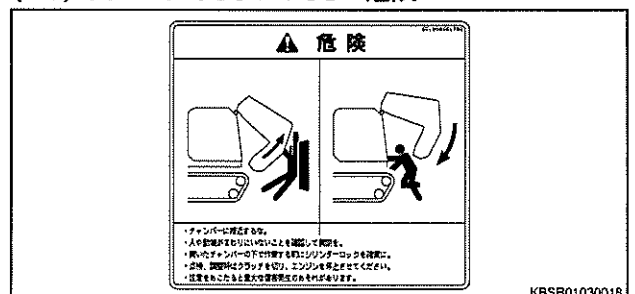
(17) 00120-6001-840 警告



(18) 00120-6001-850 危険



(19) 00120-6001-780 危険



2. 保証とサービスについて

2.1 商品の保証

この自走ロールベアラ（商品）には、『保証書』が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

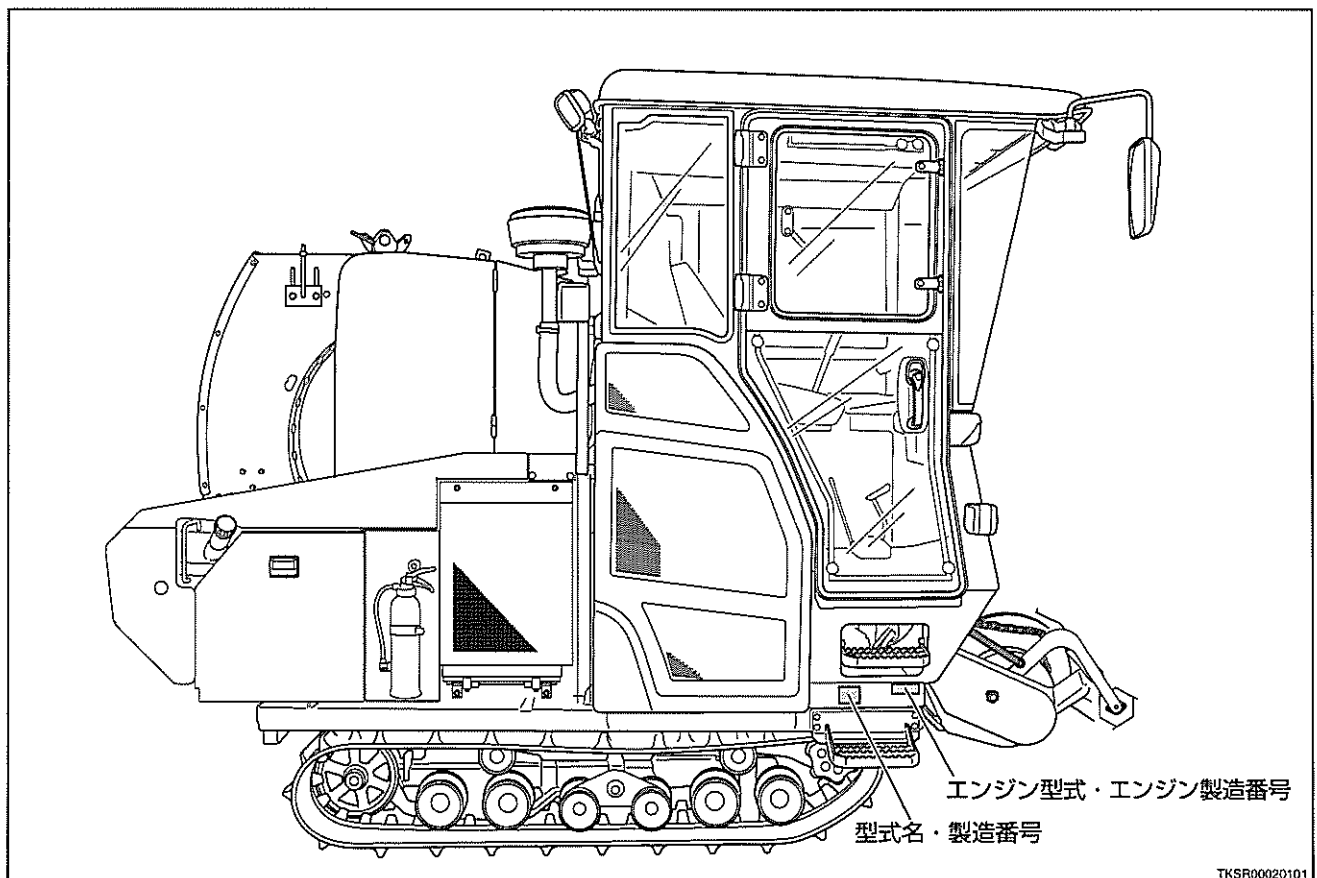
2.2 サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げ先へお気軽にご相談ください。

その際、

- (1) 型式名と製造番号
- (2) エンジン型式とエンジン製造番号をあわせてご連絡ください。

2.3 銘板の位置



2. 保証とサービスについて

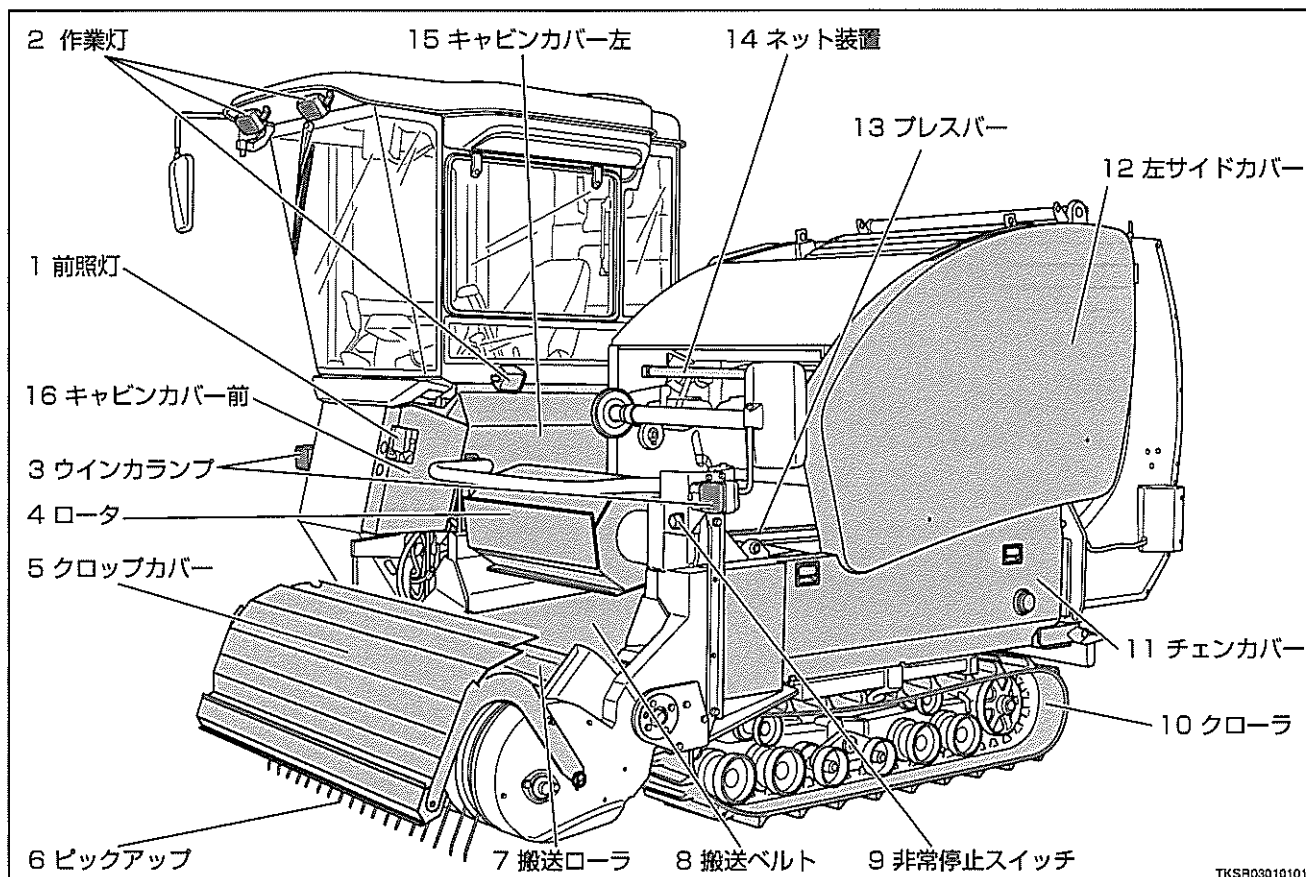
2.4 補修用部品供給年限について

- この自走ロールベアラの補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合があります。
- 補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

3. 各部の名称とはたらき

3.1 各部の名称

3.1.1 本機前方

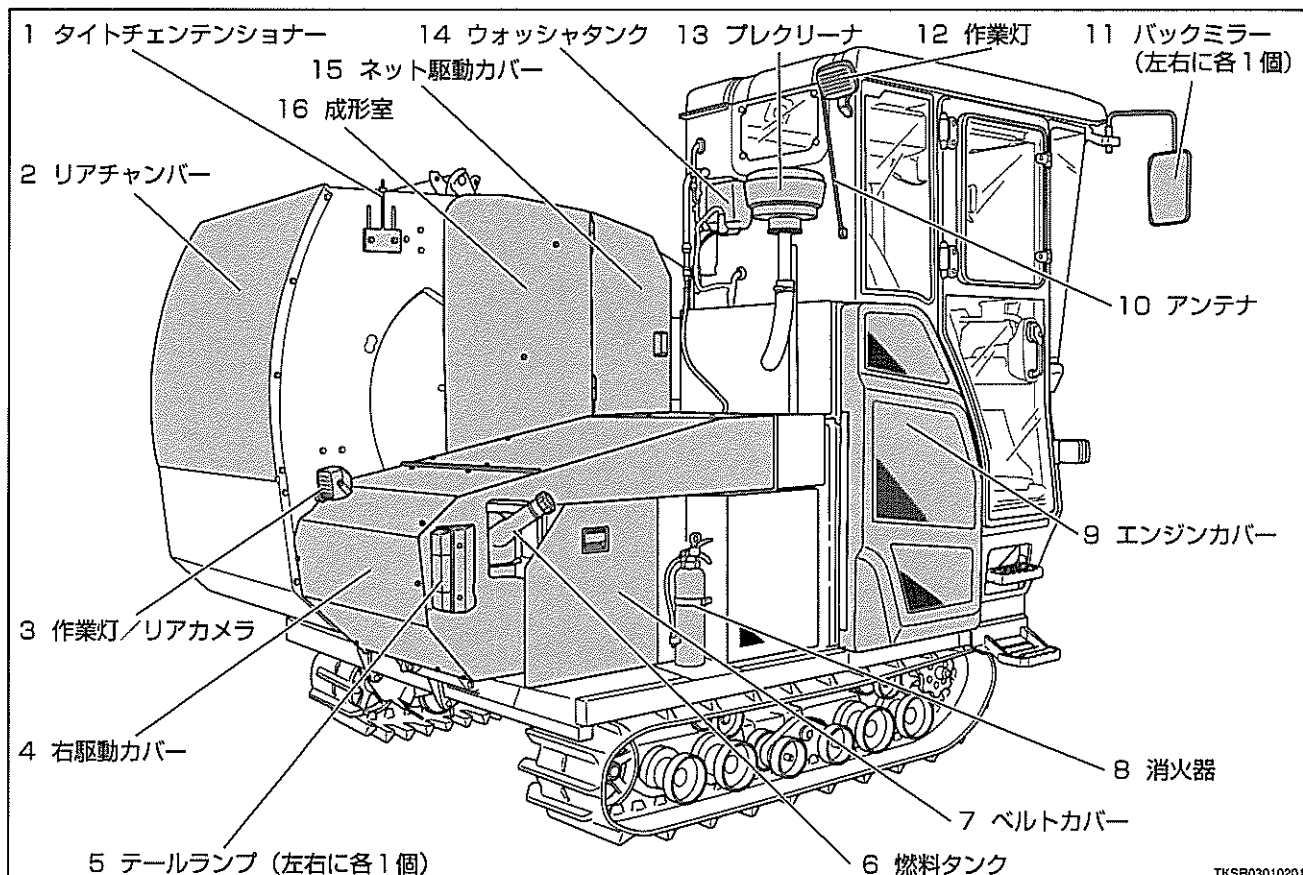


TKSR03010101

番号	名称	はたらき
1	前照灯	
2	作業灯	
3	ウィンカランプ (左右に各1個)	
4	ロータ	材料を押さえながら搬送ベルトに供給します。
5	クロップカバー	材料が飛び散らないようにします。
6	ピックアップ	材料を拾い上げます。
7	搬送ローラ	ピックアップから搬送ベルトに材料を受け渡します。
8	搬送ベルト	材料を成形室に送り込みます。
9	非常停止スイッチ	外部からエンジンを停止させます。
10	クローラ	
11	チェンカバー	
12	左サイドカバー	
13	プレスバー	材料の搬送を補助します。
14	ネット装置	ベールの結束を行ないます。
15	キャビンカバー左	
16	キャビンカバー前	

3. 各部の名称とはたらき

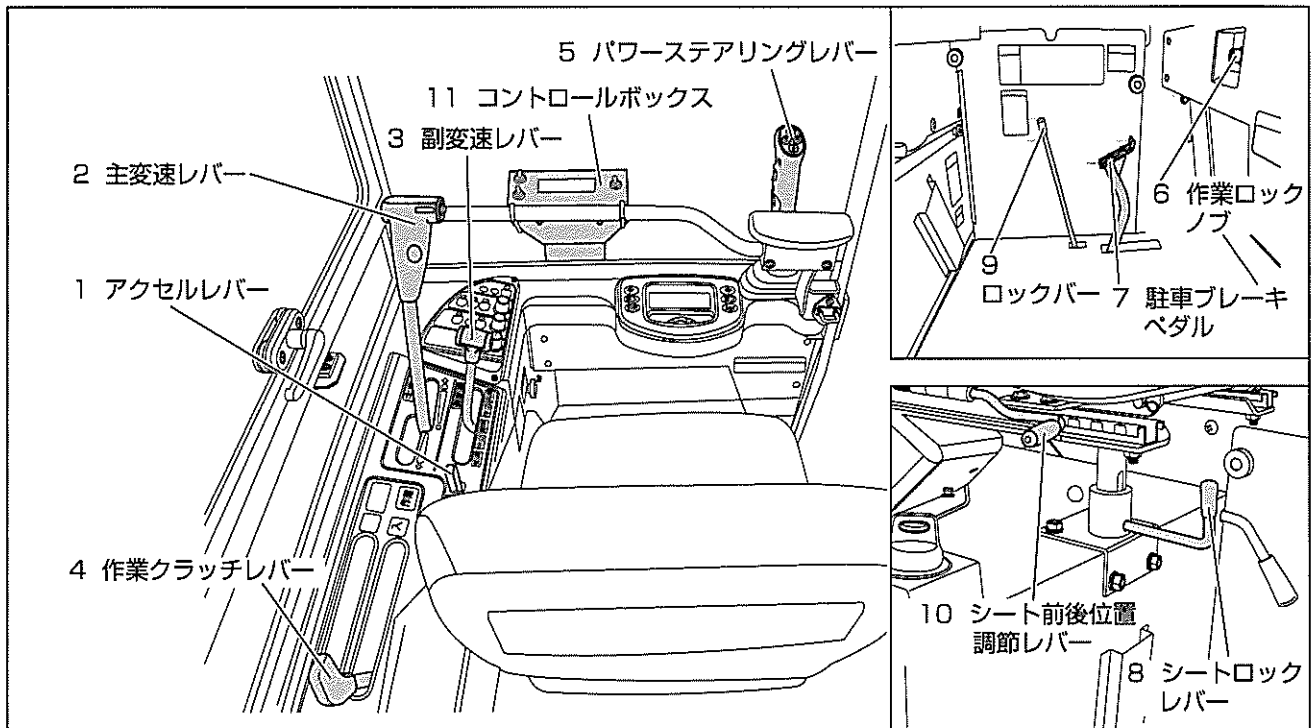
3.1.2 本機後方



TKSR03010201

番号	名称	はたらき
1	タイトチェーンショナー	タイトチェーンの張りを調整します。
2	リアチャンバー	出来上がったボールを放出します。
3	作業灯/リアカメラ	
4	右駆動カバー	
5	テールランプ (左右に各1個)	
6	燃料タンク	
7	ベルトカバー	
8	消火器	
9	エンジンカバー	
10	アンテナ	
11	バックミラー (左右に各1個)	
12	作業灯	
13	ブレクリーナ	
14	ウォッシュタンク	
15	ネット駆動カバー	
16	成形室	材料を円筒型に圧縮します

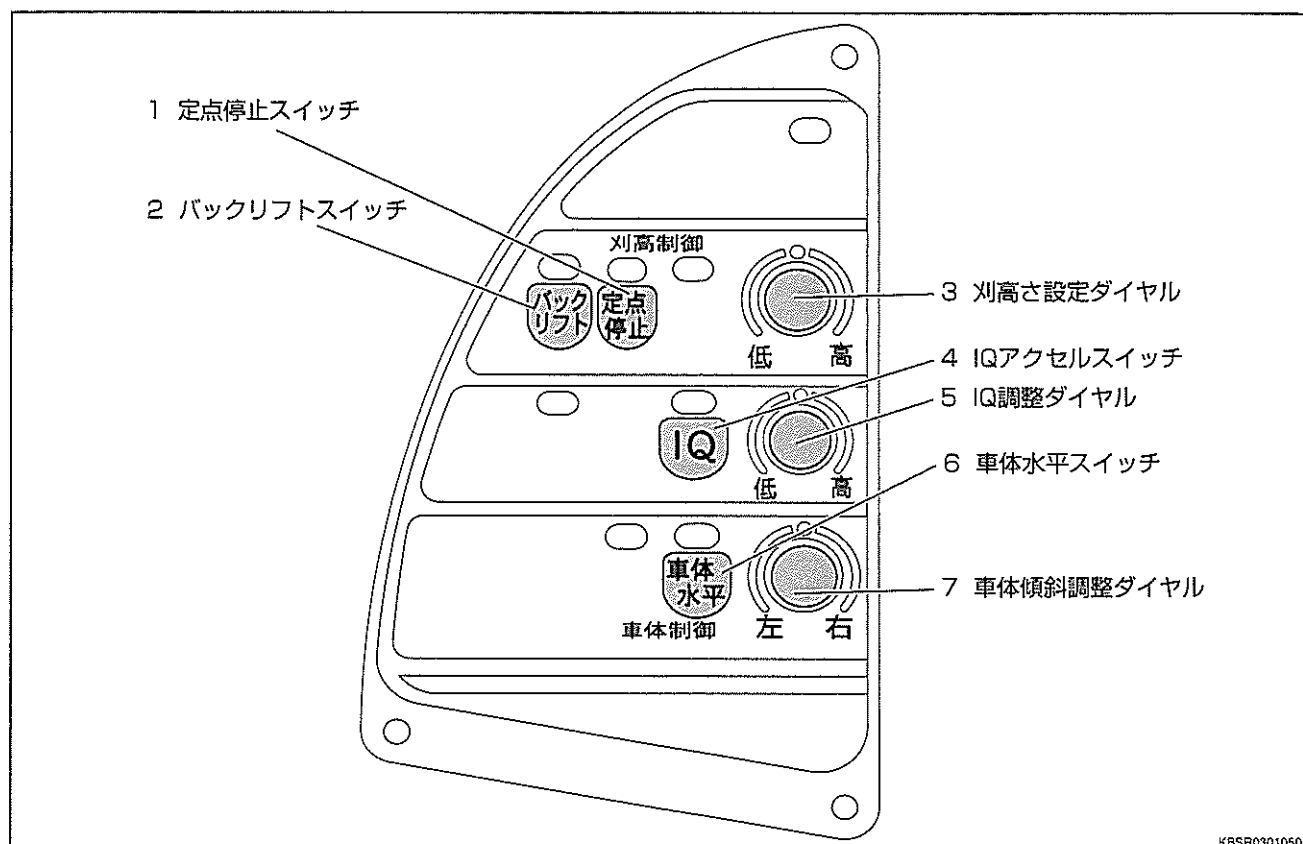
3.1.3 レバー・ペダル関係



番号	名称	はたらき
1	アクセルレバー	エンジン回転を調節することができます。 レバーを手前に引くとエンジン回転が上がり、前方に押すとエンジン回転が下がります。
2	主変速レバー	前進・後進の切換と同時にスピードの調節をすることができます。 レバーを前方に押すと「前進」、手前に引くと「後進」し、速度が無段に変わります。
3	副変速レバー	走行と作業速度の切換をします。 移動走行の時は「高速」、作業をする時は作物の条件に合わせ「標準」もしくは「低速」位置にします。
4	作業クラッチレバー	レバーを「入」位置にすると、ロールベアラ部が回転します。
5	パワーステアリングレバー	レバーを前後に操作すると、ピックアップ部が上下し、左右に操作すると、倒し量に応じて機体の方向修正と、旋回をすることができます。
6	作業ロックノブ	ノブを「ロック」側にすると、ピックアップ部は下がりません。
7	駐車ブレーキペダル	駐車ブレーキペダルを強く踏み込んでロックすると、駐車ブレーキがかかります。
8	シートロックレバー	レバーを緩めると、シートを上下に調整することができます。
9	ロックレバー	駐車ブレーキペダルを強く踏み込んで、ロックレバーを前に倒し、ロックすると、駐車ブレーキがかかります。
10	シート前後位置調節レバー	レバーを引き上げると、シートを前後に調節することができます。
11	コントロールボックス	結束作業の調整・制御をすることができます。

3. 各部の名称とはたらき

3.1.4 スイッチパネル

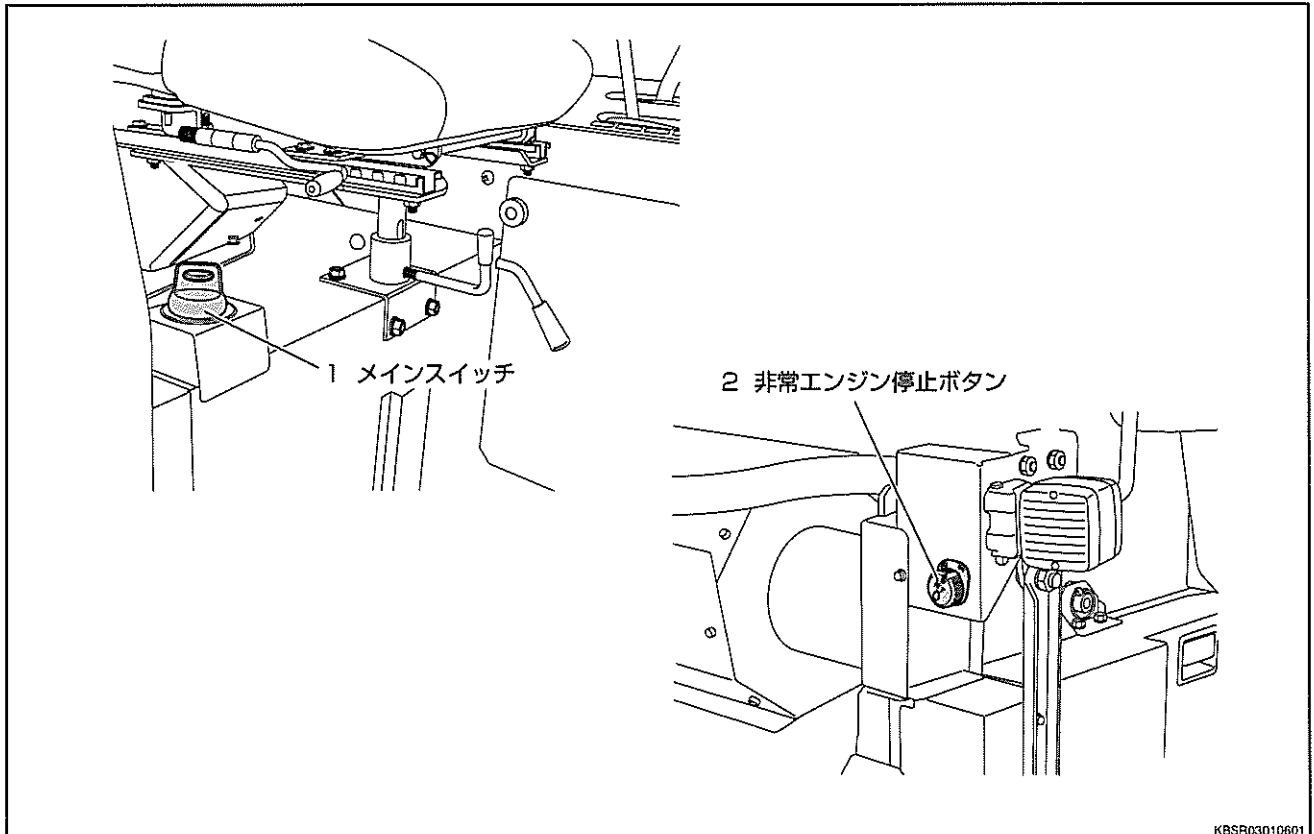


KBSR03010501

番号	名称	はたらき
1	定点停止スイッチ	スイッチを押すと、ピックアップ部の高さを、刈高さ設定ダイヤルでセットした刈高さに制御します。
2	バックリフトスイッチ	スイッチを押すと、後進時にピックアップ部を、自動的に一定量上昇させます。
3	刈高さ設定ダイヤル	ピックアップの高さを、調整することができます。
4	IQ アクセルスイッチ	スイッチを押すと、移動走行、ロールベアラ作業に応じて、エンジン出力を効率よく使用できるように、アクセルレバーを自動的に動かします。
5	IQ 調整ダイヤル	エンジンの定格回転を、調整することができます。
6	車体水平スイッチ	スイッチを押すと、左右方向の傾斜を自動的に修正し、機体を水平に保ちます。
7	車体傾斜調整ダイヤル	車体水平制御中の車体の左右傾きを、調整することができます。

3.1.5 スイッチ関係

◆ メインスイッチ・非常エンジン停止ボタン



KBSR03010601

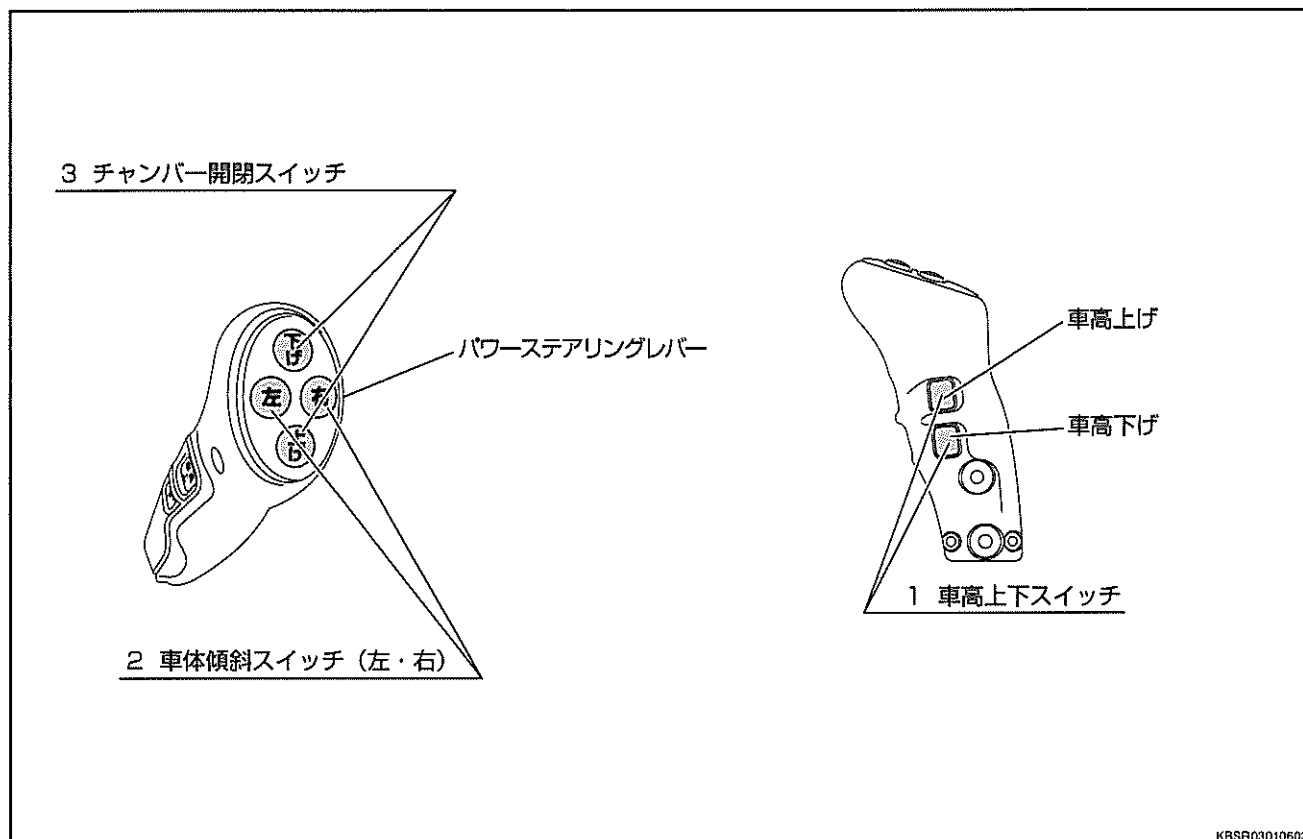
番号	名称	はたらき
1	メインスイッチ	「切」 ……エンジンを停止するとき使用します。 「入」 ……電装品が作動します。 また、エンジンの予熱ができます。 「始動」 ……エンジンを始動するとき使用します。 セルモータが回転し、エンジンが始動します。
2	非常エンジン停止ボタン	「運転」 ……エンジンを始動することができます。 「停止」 ……作業クラッチレバーが「入」位置になっているとき、エンジンを停止させることができます。

《重要》

- 非常エンジン停止ボタンが「停止」位置にあり、作業クラッチレバーが「入」位置にある場合、メインスイッチを「始動」位置にしても、エンジンは始動しません。
- 10 秒程スタート操作をしてもエンジンが始動しない場合は、メインスイッチを「切」位置にし、30 秒以上休止してから、再び操作してください。

3. 各部の名称とはたらき

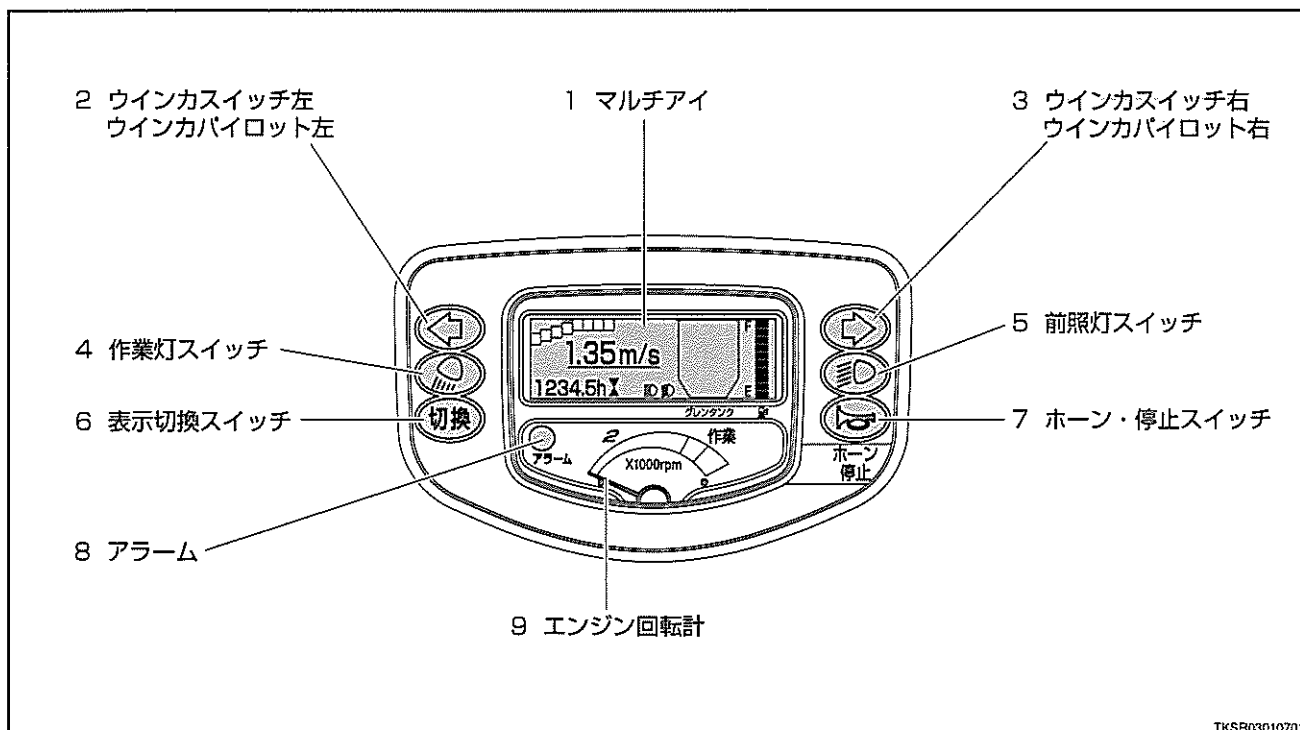
◆ パワーステアリングレバー



KBSR03010602

番号	名称	はたらき
1	車高上下スイッチ	スイッチを押すと、機体を上下させることができます。
2	車体傾斜スイッチ (左・右)	スイッチを押すと、機体を左右に傾斜させることができます。
3	チャンバー開閉スイッチ	スイッチを押すと、チャンバー部を開閉させることができます。

3.1.6 コンビネーションメータ



TKSR03010701

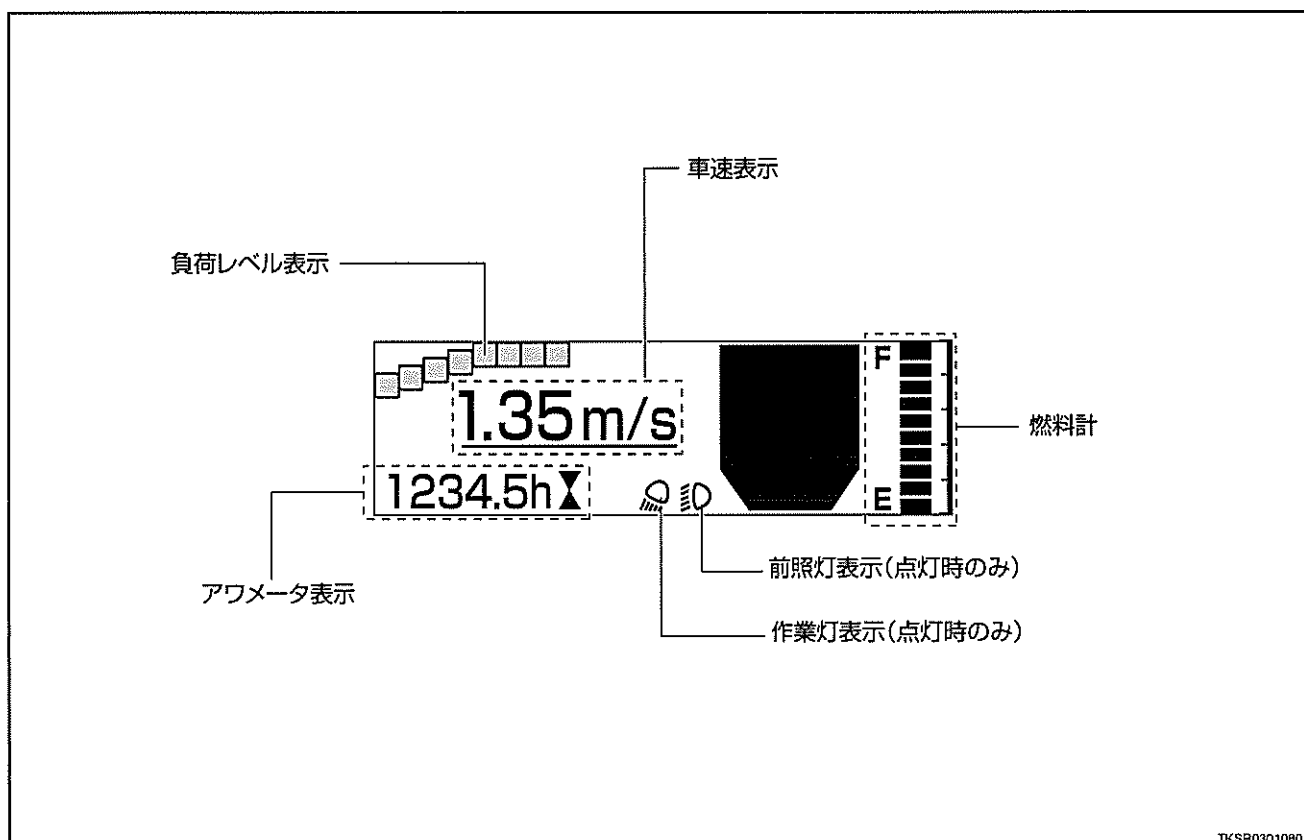
番号	名称	はたらき
1	マルチアイ	自走ロールベアラの運転状態を表示します。 〈表示内容〉 エンジン運転状態 車体水平運転状態表示 自動化装置異常表示 操作支援表示 操作スイッチ切換表示
2	ウィンカスイッチ左 ウィンカパイロット左	スイッチを押すと、左のウィンカが点滅します。左折が終わったら、もう一度スイッチを押してください。方向指示器の点滅を表示します。
3	ウィンカスイッチ右 ウィンカパイロット右	スイッチを押すと、右のウィンカが点滅します。右折が終わったら、もう一度スイッチを押してください。方向指示器の点滅を表示します。
4	作業灯スイッチ	スイッチを押すと作業灯と前照灯が点灯します。もう一度押すと作業灯が消灯します。 (前照灯は点灯したままです。前照灯スイッチを押して消灯してください。)
5	前照灯スイッチ	スイッチを押すと前照灯が点灯します。もう一度押すと前照灯が消灯します。
6	表示切換スイッチ	マルチアイの表示を切換えます。
7	ホーン・停止スイッチ	スイッチを押すとホーンが鳴ります。警報等で鳴りだしたブザーはこのスイッチを押すと止まります。
8	アラーム	異常を知らせます。運転中、異常な箇所が発生した場合に点灯・点滅します。
9	エンジン回転計	エンジン回転数を表示します。

3. 各部の名称とはたらき

3.1.7 マルチアイ

「マルチアイ」は、自走ロールペーラの運転に必要な情報、各種警告・異常状態の表示をします。また、万一故障した場合の処置方法等を適切なタイミングで、わかりやすくメッセージとして表示します。

◆ 通常表示



《 参考 》

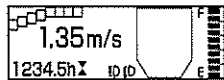
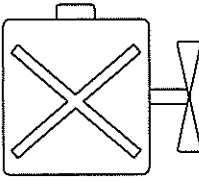
- 車速表示は、ほ場条件により実際の速度と異なる場合があります。
- 負荷レベル表示、車速表示はエンジン停止中は表示しません。

◆ はたらき

『マルチアイ』は、「アラーム」と連動して機械の作業状態や異常状態を表示します。

また、異常発生時は緊急度に応じて、エンジン停止、ホーン吹鳴、アラーム表示を行います。

記号の見かたは次のとおりです。

表示・機能	内容	正常時	異常時
マルチアイ	運転状態を文字、または絵で表示します。異常時は画面を切り換えて、表示します。	 静止画面	
アラーム	異常時に点灯します。	—	 アラーム 点灯
ホーン警報	異常時にホーンを吹鳴します。	—	 連続吹鳴  断続吹鳴
エンジン停止	非常時にエンジンを自動的に停止します。	—	

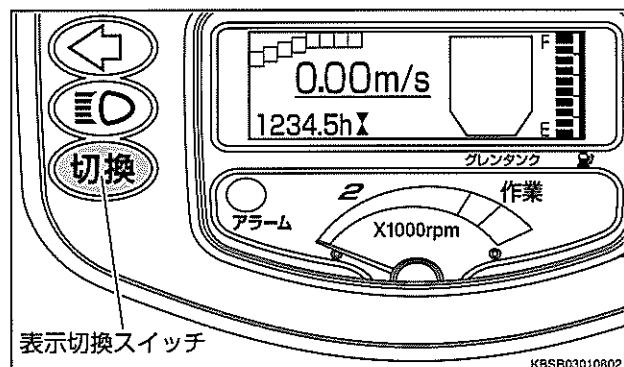
3. 各部の名称とはたらき

◆ 表示内容

操作	表示内容	マルチアイ画面	アラーム	ホーン	エンジン停止
メインスイッチを「入」位置にしてください。 《参考》 アラームが点灯しますが、アラームランプ確認中で異常発生ではありません。	初期表示モード 各センサ関係の点検確認をしています。 異常箇所があれば表示します。				
メインスイッチを「始動」位置にし、エンジンを始動します。					

◆ 表示の切換

表示切換スイッチを1回押すごとに、マルチアイは次の表示内容に切り換わります。

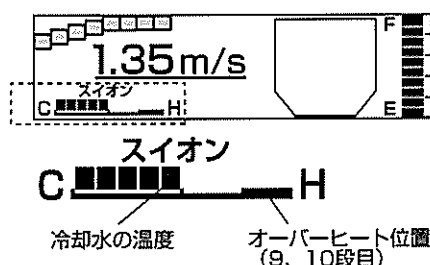


①水温

エンジン冷却水の温度をバーグラフ表示します。
(エンジン停止中は2番目に表示します。)

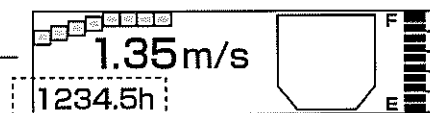
補足

- 冷却水の温度がオーバーヒート位置になるとマルチアイにエンジン「水温異常」が表示されます。



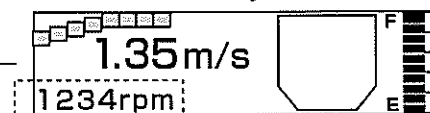
②アワーメータ

エンジン運転中の積算時間を表示します。
(エンジン停止中は1番目に表示します。)



③エンジン回転

エンジンの実回転数を表示します。



④メンテナンスモード (96 ページ)

エンジン始動設定、液晶コントラスト調整
メンテナンス情報の確認ができます。



⑤センサチェックモード (92 ページ)

各センサの入力チェックが行えます。



⑥車高、車体傾斜表示

車高と車体の左右の傾斜状態を表示します。



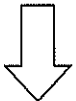
※④⑤はエンジン運転中は表示が出ません。

TKSR03010803

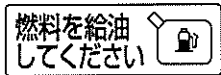
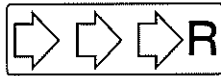
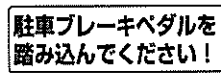
3. 各部の名称とはたらき

◆ メンテナンスモード

メンテナンスモードの使い方は、95 ページを参照してください。

操作	表示内容	マルチアイ画面	アラーム	ホーン	エンジン停止
表示切換スイッチを押します。	通常表示				
モニタ部のホーン・停止スイッチを押すとメンテナンスモードを実行します。		 メンテナンスモード 切換⇒進む ホーン⇒選択			
ウインカスイッチ・表示切換スイッチを押すと表示が変わります。	エンジン始動時の、エンジン始動設定キーの登録をします。	 ⇐戻る 進む⇐ エンジン始動設定 切換⇐進む ホーン⇐選択			
	液晶のコントラストを調整します。	 ⇐戻る 進む⇐ 液晶コントラスト調整 切換⇐進む ホーン⇐選択			
メンテナンスモードは、メインスイッチ「入」位置のみ表示します。エンジン運転中は表示をしません。	メンテナンス情報を表示します。	 ⇐戻る 進む⇐ メンテナンス情報 切換⇐進む ホーン⇐選択			

◆ 割り込み表示

操作	表示内容	マルチアイ画面	アラーム	ホーン	エンジン停止
燃料残量が残りが少なくなると表示します。	表示切換スイッチを押すと通常表示に変わります。				
ウインカ左スイッチを押します。	ウインカ左スイッチを押し、ウインカ左が点滅中に補助画面として、表示します。 ウインカ左スイッチをもう一度押すと、ウインカが消滅し通常表示に変わります。				
ウインカ右スイッチを押します。	ウインカ右スイッチを押し、ウインカ右が点滅中に補助画面として、表示します。 ウインカ右スイッチをもう一度押すと、ウインカが消滅し通常表示に変わります。				
パワーステアリングレバー上の車高傾斜スイッチを押します。	操作スイッチの切換時にセット状態で表示します。 表示はスイッチ操作後5秒間で元の表示に戻ります。				
エンジン始動時にキーを「始動」位置にします。	駐車ブレーキペダルが踏込まれていない場合表示します。				
作業灯スイッチを押します。	作業灯・前照灯を点灯させると表示します。 表示はスイッチ操作後5秒間で元の表示に戻ります。				
前照灯スイッチを押します。	前照灯を点灯させると表示します。 表示はスイッチ操作後5秒間で元の表示に戻ります。				

3. 各部の名称とはたらき

◆ 操作支援表示

操作	表示内容	マルチアイ画面	アラーム	ホーン	エンジン停止
作業前、作業中の各部に異常があると、右記を表示します。 表示内容に従って各部を操作すると、表示は消えます。	エンジン停止時に作業レバーが「入」位置になっています。 表示中は、エンジンの始動ができません。 エンジンを始動させるためには作業クラッチレバーを「切」位置にしてください。 作業クラッチレバーを「切」位置にすれば、表示は消えます。 エンジンの始動方法は、5章「エンジン始動のしかた」(56 ページ)を参照してください。	作業レバーが入っています			
	エンジン回転数が2000rpm以下で主変速レバーを操作し、機体を移動させる場合に表示します。 エンジン回転数を2000rpm以上にすると表示は消えます。	エンジン回転数2000rpm以上で使用してください			
	副変速レバーが走行位置で、作業をし始めると表示します。 副変速レバーを「標準」・「低速」位置にすると、表示が消えます。	副変速レバー走行位置です			
IQ アクセルスイッチ「切」時	作業時のエンジン回転数が低くなっていることを表示しています。 アクセルレバーを調整して、エンジン回転計の針が「作業ゾーン」にくるようにしてください。 8章「エンジン回転の合せかた」(82 ページ)を参照してください。	アクセルレバーを調整しエンジン回転を作業域に！			

操作	表示内容	マルチアイ画面	アラーム	ホーン	エンジン停止
IQ アクセルスイッチ「入」時	主変速レバーを少し手前に引き、減速して作業してください。 8 章「作業速度の選びかた」(82 ページ) を参照してください。	主変速レバーを戻して減速してください！			
	車体転倒警報の表示	車体傾斜角度に「注意」してください			

3. 各部の名称とはたらき

◆ 異常表示

機械に異常が発生した場合の表示内容

操作	表示内容	マルチアイ画面	アラーム	ホーン	エンジン停止
作業中にエンジンの異常や、ピックアップ部に異常が発生すると右の表示を行います。 《参考》 異常発生時は作業を中止し、45 ページを参照して処置してください。	エンジンのオーバーヒート	エンジン 「水温異常」			
	エンジンオイルの減少またはエンジンオイルのセンサ異常	エンジン 「オイル」			
	発電不良 チャージ回路の異常	発電回路異常			
自動制御装置の使用中に異常が発生すると右の表示を行います。該当する装置のスイッチを「切」にすると表示は消えます。 《重要》 異常発生時は、該当する自動装置の使用を中止してください。	車体水平制御装置の異常	車体 水平 制御			
	IQ アクセル制御装置の異常	IQ アクセル 制御			
	刈高さ制御装置の異常	刈高さ制御			
	バックリフト装置の異常	バック リフト 制御			

◆ ブザーの止めかた

異常発生時に鳴りだしたブザーは、ホーン・停止スイッチ、作業クラッチレバー、メインスイッチの各操作で鳴り止みます。次の表に対応関係を示します。

ブザー項目	ホーン・停止スイッチ	作業クラッチレバー「切」	メインスイッチ「切」
エンジン「水温異常」	○		○
エンジン「オイル」	○		○

《重要》

- エンジンを再始動する場合は、必ず作業クラッチレバーを「切」位置にしてください。
- エンジン停止装置が作動しかけた直後（1秒以内）に解除すると、燃料供給量が不足して、エンジン馬力不足（回転ダウン）となる場合があります。
- この時は、メインスイッチを一度「切」位置にしてから再始動してください。

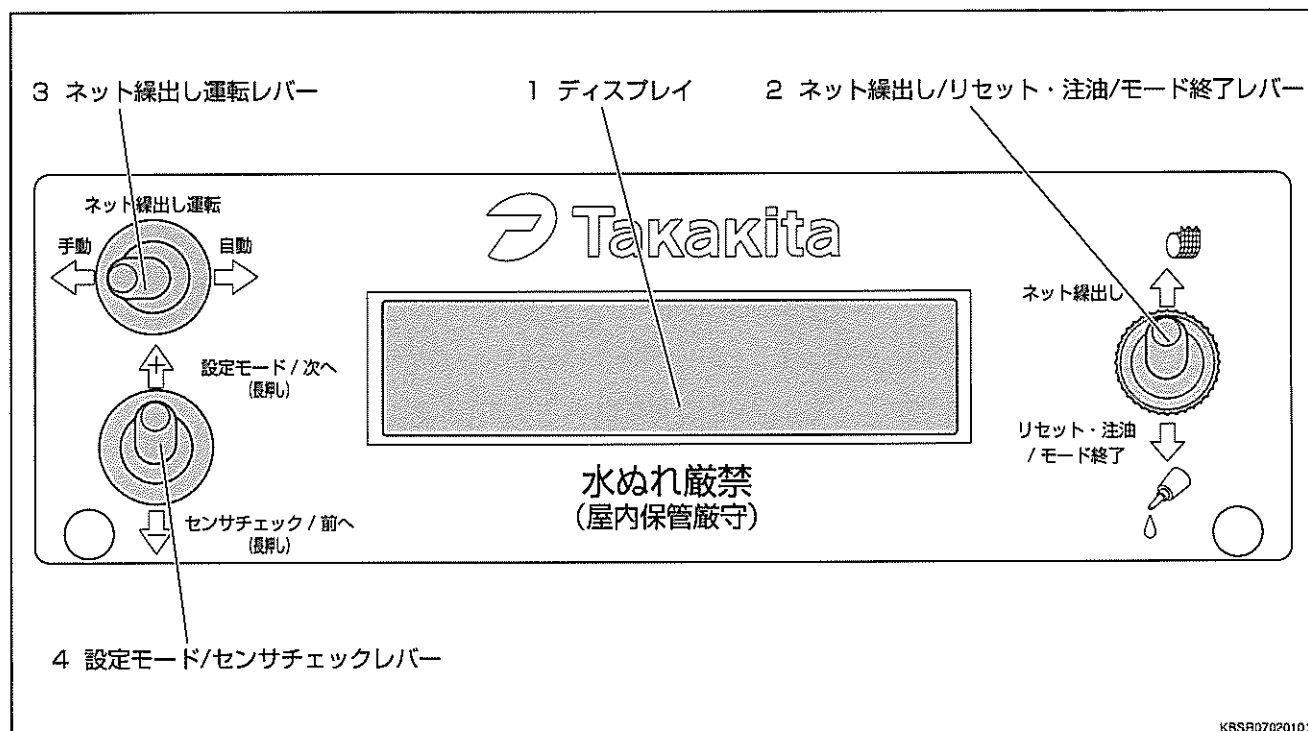
◆ 異常発生時の処置

エンジンに異常が発生した場合は、下表により処置してください。

マルチアイ画面表示	処置
エンジン 「水温異常」	アイドリングで5～10分間運転後エンジンを止め、次の点検をしてください。 ラジエータの水量（184 ページ） ラジエータ網またはフィンの詰まり（174 ページ）
エンジン 「オイル」	エンジンを止め、オイル量を点検してください。 （145 ページ）
発電回路異常	エンジンを止め、バッテリーの端ジェネレータの配線を点検してください。 （175 ページ）

3. 各部の名称とはたらき

3.1.8 コントロールボックス



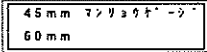
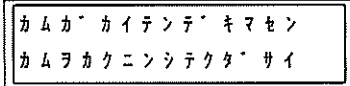
番号	名称	はたらき
1	ディスプレイ	現在の作業状態や、センサ等の異常を文字で表示します。
2	ネット繰出し / リセット・注油 / モード終了レバー	「ネット繰出し」……………ネット繰出しレバーを押すとネット結束が開始されます。 「リセット・注油 / モード終了」…モードを終了するときや、タイトチェーン部に注油するときに使用します。
3	ネット繰出し運転レバー	「自動」……………ネット繰出しを自動で行う場合に、使用します。 「手動」……………ネット繰出しを作業者自身で行う場合に、使用します。
4	設定モード / センサチェックレバー	「設定モード / 次へ」……………長押しすると、モード移行を行います。押すと、設定数値の変更を行います。 「センサチェック / 前へ」……………長押しすると、「センサチェックモード」へ移行を行います。押すと、設定数値の変更を行います。

◆ はたらき

『ディスプレイ』に、ロールベアラ部の作業状態や異常状態を表示します。

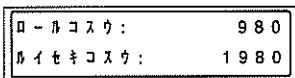
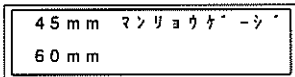
また、異常発生時は緊急度に応じて、ブザー警報を行います。

記号の見かたは次のとおりです。

表示・機能	内容	正常時	異常時
ディスプレイ	ロールベアラ部の作業状態やセンサ異常について、文字で表示します。	 静止画面	
ブザー警報	異常時やネット交換、作業完了時にブザーを吹鳴します。	—	 連続吹鳴  断続吹鳴
ホーン警報	異常時やネット交換、作業完了時にホーンを吹鳴します。	—	 連続吹鳴  断続吹鳴

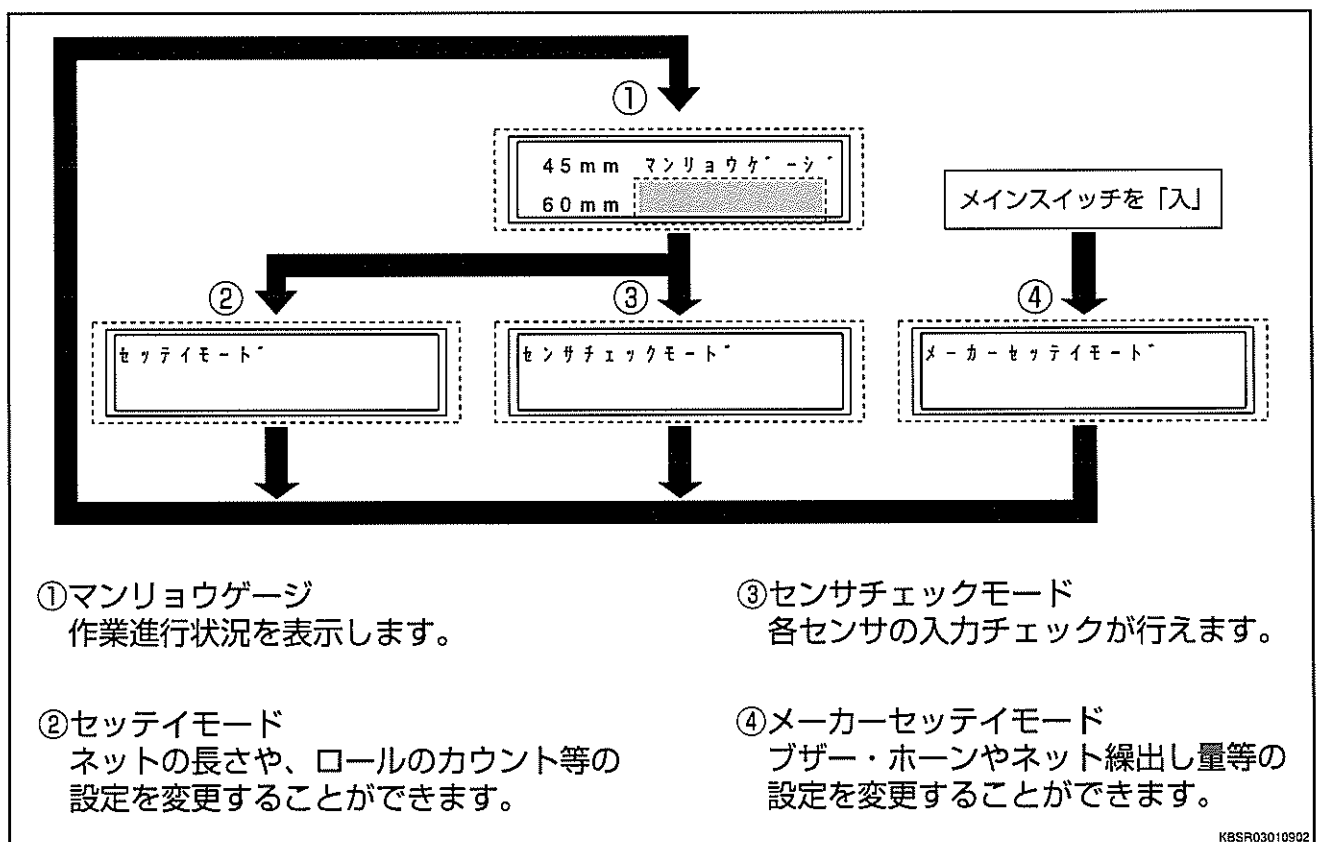
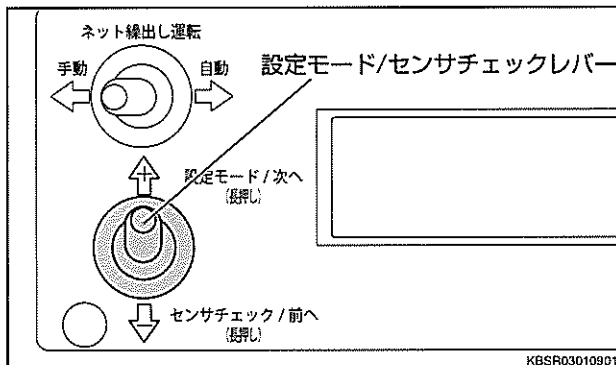
3. 各部の名称とはたらき

◆ 表示内容

操作	表示内容	ディスプレイ画面	ブザー	ホーン
メインスイッチを「入」位置にしてください。	バージョン情報表示			
	ロール個数・累積個数表示			
	初期画面表示			

◆ 表示の切換

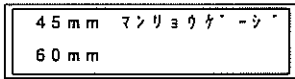
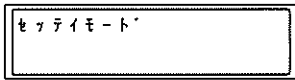
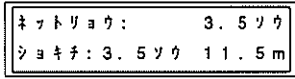
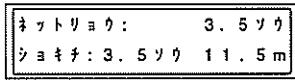
設定モード/センサチェックレバーを「設定モード/次へ」側に長押しすると、各モードに移行し、「設定モード/次へ」側に長押しするごとに、ディスプレイは次の表示内容に切り換わります。



3. 各部の名称とはたらき

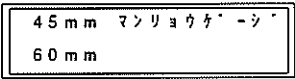
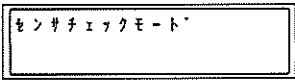
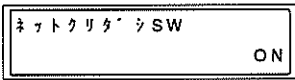
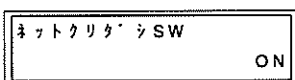
◆ セッテイモード

セッテイモードの使い方は、75 ページを参照してください。

操作	表示内容	ディスプレイ画面	ブザー	ホーン
設定モード / センサチェックレバーを、「設定モード / 次へ」側に長押しします。	通常表示			
	「セッテイモード」と表示されます。			
設定モード / センサチェックレバーを「設定モード / 次へ」側に長押しすると、表示が切り換ります。				
設定モード / センサチェックレバーを上下に押すと、設定値を変更することができます。				

◆ センサーチェックモード

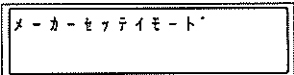
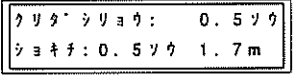
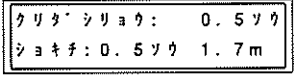
センサーチェックモードの使い方は、92 ページを参照してください。

操作	表示内容	ディスプレイ画面	ブザー	ホーン
設定モード / センサチェックレバーを、「センサチェック / 前へ」側に長押しします。	通常表示			
	「センサーチェックモード」 と表示されます。			
設定モード / センサチェックレバーを「設定モード / 次へ」側に長押しすると、表示が切り換ります。				
			センサ SW 「ON」時 ブザー鳴る センサ SW 「OFF」時 ブザー 鳴らない	

3. 各部の名称とはたらき

◆ メーカーセッテイモード

メーカーセッテイモードの使い方は、109 ページを参照してください。

操作	表示内容	ディスプレイ画面	ブザー	ホーン
設定モード / センサチェックレバーを「設定モード / 次へ」側に押しながら、メインスイッチを「入」位置にしてください。	通常表示			
	「メーカーセッテイモード」 と表示されます。			
設定モード / センサチェックレバーを「設定モード / 次へ」側に長押しすると、表示が切り換ります。				
設定モード / センサチェックレバーを上下に押すと、設定値を変更することができます。				

◆ 異常表示

ネットが無くなったり、センサ等に異常が発生した場合、作業を中止して、異常発生時の処置を参照してください。

操作	表示内容	ディスプレイ画面	ブザー	ホーン
カムスイッチに異常が発生したとき。	「カムガカイテンデキマセンカムヲカクニンシテクダサイ」と表示されます。		ブザー 断続音	
	「ネットヲコウカンシ、ネットクリダシスイッチヲオシテクダサイ」と表示されます。		ブザー 断続音	
チャンバーが開いているとき。	「チャンバーヲシメテクダサイ」と表示されます。		ブザー 断続音	
ネット繰出し運転レバーが「手動」側になっているとき。	「ネットクリダシスイッチヲオシテクダサイ」と表示されます。		ブザー 断続音	
ネットがなくなっているとき。	「ネットヲコウカンシ、ネットクリダシスイッチヲオシテクダサイ」と表示されます。		ブザー 断続音	

◆ 異常発生時の処置

異常が発生した場合は、次の表より処置してください。

ディスプレイ画面表示	処置
	センサチェックモードで、センサの作動を確認してください。(92 ページ)
	ネットを交換してください。(77 ページ) ネット繰出し / リセット・注油 / モード終了レバーを「ネット繰出し」側に押してください。(74 ページ)
	チャンバーを閉じてください。(67 ページ)
	ネット繰出し運転レバーを「自動」側に押してください。(74 ページ) ネット繰出し / リセット・注油 / モード終了レバーを「ネット繰出し」側に押してください。(74 ページ)
	ネットを交換してください。(77 ページ)

4. 作業前点検

▲ 危険

- 燃料を補給するときは火気厳禁です。くわえタバコ等をしないでください。
※ 守らないと、燃料に引火し、爆発や火災の原因になります。
- 燃料、オイルがこぼれたときは、きれいに拭き取ってください。
※ 守らないと、火災や、転倒による傷害事故の原因になります。

▲ 警告

- 点検するときは、駐車ブレーキをかけ、平たんで水平な広く地面の硬い場所を選んでください。
※ 守らないと、自走ロールベアラが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料、給油、注油および回転部等の点検をするときは、必ずエンジンを止め、メインスイッチキーを抜いてください。
※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり挟まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検時にカバーを開けたり、取り外した場合は、必ず元に戻してから作業してください。
※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり挟まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

4.1 運転席にすわって

点検箇所	点検項目	処置	参照ページ
前日に異常があった箇所	再度異常がないか。	「お買い上げ先」に相談する。	—
警告ラベル貼付箇所	はがれ、汚れ、破損等がないか。	新しいものに貼り換える。	—
反射器	汚れ、破損等がないか。	掃除、交換する。	—
ロールベアラ部	損傷がないか。	お買い上げ先に相談する。	—
エンジン、マフラー部	ワラくずが溜まっていないか。	掃除する。	—
ボルト、ナット	ゆるみ、脱落がないか。	締め付け、補充する。	—
パイプ、ホース	オイル、水漏れがないか。	掃除、取り付け部の締め付け、交換する。	—
リレー・ヒューズ	リレー・ヒューズに切れはないか。	交換する。	179 190
配線コード	たるみ、被覆の損傷がないか。	締め付け、交換する。	179
配線端子	はずれ、ゆるみがないか。	接続する。	179
エンジンオイル	オイルゲージの上下限の間に液面があるか。	補給する。 セセキ スーパーマルチエンジン オイル 10W-30 (CF 級以上)	144

点検箇所	点検項目	処置	参照ページ
逆転ミッションオイル	油面が検油口より流れ始めるか。	補給する。 ギアオイル # 90 (VG68)	149
チェンオイル	リザーブタンク内にオイルがあるか。	補給する。	150
冷却水	リザーブタンクの上下限の間に液面があるか。	補給する。	184
エンジンカバー	網が詰まっていないか。	掃除する	114
ラジエータ	フィンが詰まっていないか。	掃除する。	177
オイルクーラ	フィンが詰まっていないか。	掃除する。	177
エアクリーナ	エレメントにほこりが溜まっていないか。	掃除する。	173
エンジン、マフラ	ワラくず、ほこりが溜まっていないか。	掃除する。	—
非常エンジン停止ボタン	「停止」位置になっていないか。	「運転」位置にする。	56
クローラ	たるみ、損傷がないか。	張り量の調整、交換する。	183
コンデンサ	フィンが詰まっていないか。	掃除する。	188
プレクリーナ	ほこりが溜まっていないか。	掃除する。	

4.2 運転席にすわって

点検箇所	点検項目	処置	参照ページ
バックミラー	汚れ、破損等がないか。	掃除、交換する。	—

4.3 メインスイッチキーを「入」位置にして

点検箇所	点検項目	処置	参照ページ
ホーン	ホーン・停止スイッチを押すと、鳴るか。	ヒューズ切れ、配線コードはずれを点検し、交換、接続する。	179
バックブザー	主変速レバーを「後進」位置にすると、鳴るか。	ヒューズ切れ、配線コードはずれを点検し、交換、接続する。	179
灯火類	各スイッチ操作で、点灯、点滅するか。	電球、ヒューズ切れ、配線コードはずれを点検し、交換、接続する。	179
燃料計	軽油が十分入っているか。	補給する。 ディーゼル軽油 JIS2 号 (寒冷時 JIS3 号)	34 141
コントロールスイッチ	ディスプレイにエラーメッセージは表示されないか？	画面表示に従い操作する	42

4.4 エンジンを始動して

点検箇所	点検項目	処置	参照ページ
回転計	動作に異常がないか。	「お買い上げ先」に相談する。	—
エンジン・マフラ	異音・排気ガス色の異常がないか。	「お買い上げ先」に相談する。	—

5. 運転のしかた

5.1 新車時の取り扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスが、本機の寿命に影響をおよぼします。

ならし運転期間中の走行速度は低速で、過負荷となる作業は避けてください。

本機の性能を最大に発揮させたり、長期にわたる耐久力を維持させるためには、適正なならし運転が必要です。

◆ 初期 50 時間のならし運転

- [1] 急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
- [2] 寒い日や冬期、エンジンは十分に暖機運転を行ってください。
- [3] 副変速レバー「高速」位置での作業は、避けてください。
- [4] 整地されていない凸凹道では、低速走行をしてください。

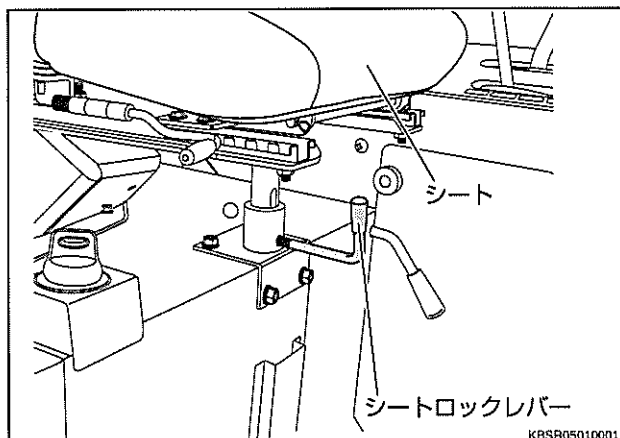
◆ 油脂・フィルタ類の交換とチェン・ベルトの張り調整

- [1] 新車時は、ロールペーラの回転・摺動部の各部品になじみがついていませんので、ならし運転期間中に細かい金属粉が生じ、部品の極度な摩耗につながるおそれがありますので、油脂・フィルタ類は、初期 50 時間で交換してください。
- [2] チェンやベルト類は、ならし運転中に初期ののびが発生しますので、初期 20 時間で張り調整をしてください。

5.2 運転席の調節のしかた

◆ シートの上下調節のしかた

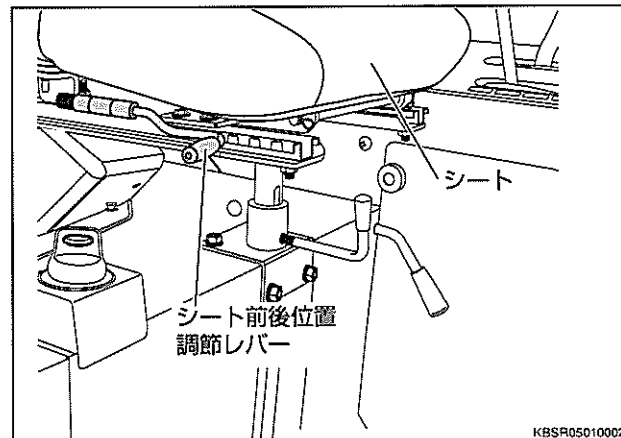
- (1) シート下部フレームの「シートロックレバー」をゆるめます。



- (2) 座る位置に合わせてシートの高さを調整します。
- (3) 「シートロックレバー」を締め付けます。

◆ シート前後調節のしかた

- (1) シート右上部にある「シート前後位置調節レバー」を上方へ軽く引きます。



- (2) 座る位置に合わせてシートの前後位置を調整します。

《重要》

シートの「背もたれ」を前方に倒した状態で、エンジンカバーを開閉しないでください。

5. 運転のしかた

5.3 エンジン始動と停止のしかた

5.3.1 エンジン始動のしかた

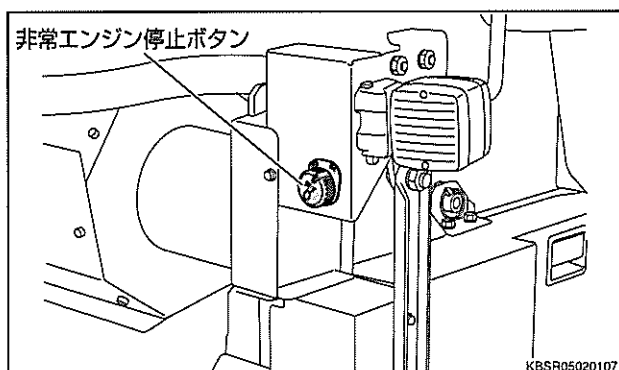
▲ 警告

- 始動する前に、周囲の人にホーンで合図してください。
※ 守らないと、機械に巻き込まれる等、傷害事故を引き起こす原因になります。
- 各保護カバー類が取り付けられているか確認してください。外れている場合は、必ず取り付けてください。
※ 守らないと、機械に巻き込まれる等、傷害事故を引き起こす原因になります。
- 主変速レバーを「中立」位置、作業クラッチレバーを「切」位置にして始動してください。
※ 守らないと、機械に巻き込まれる等、傷害事故を引き起こす原因になります。
- 屋内で始動する場合は、窓や戸を開け、十分に換気をしてください。
閉め切った屋内等ではエンジンを始動しないでください。
※ 守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあります。

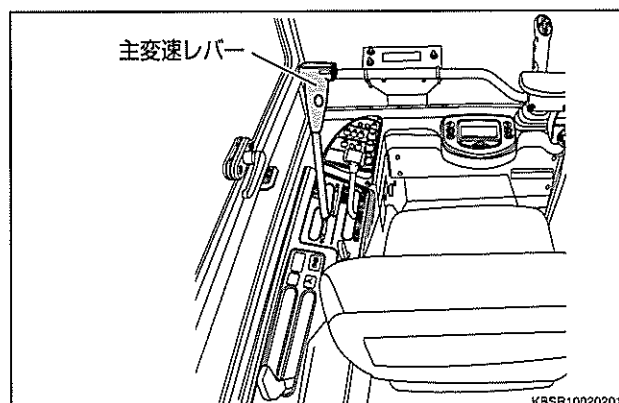
▲ 注意

- 0℃以下の寒冷時は、10～15分間暖機運転を行ってください。
※ 守らないと、油圧系統の故障を起こすおそれがあります。
- 非常エンジン停止ボタンが「運転」位置になっていることを確認してください。
※ 守らないと、バッテリーがあがりを引き起こす原因になります。

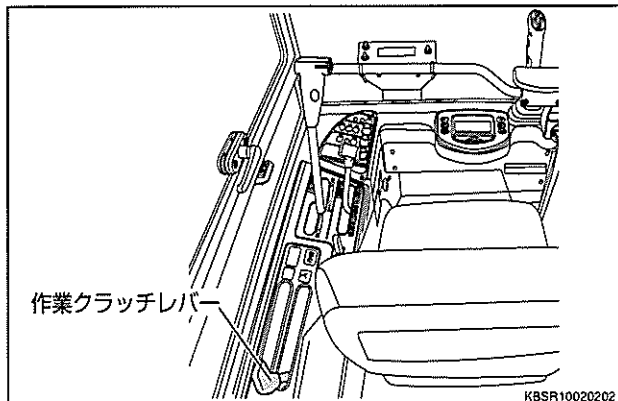
(1) 非常エンジン停止ボタンが、「運転」位置にあることを確認してください。



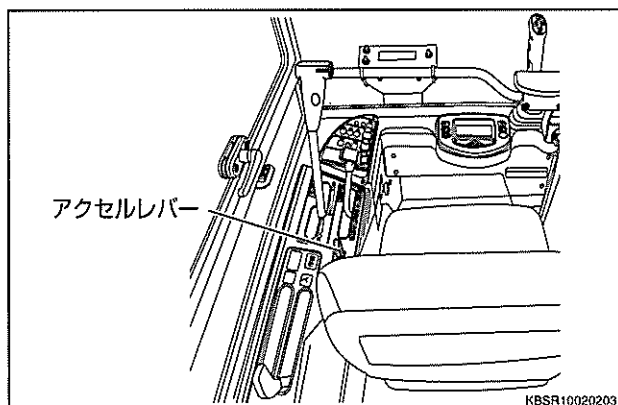
(2) 主変速レバーを「中立」(「●」)位置にしてください。



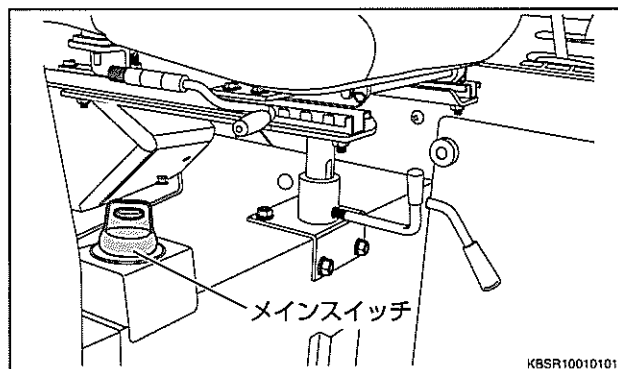
(3) 作業クラッチレバーを「切」位置にしてください。



(4) アクセルレバーを、中程まで引いてください。



(5) メインスイッチを「入」位置にしてください。



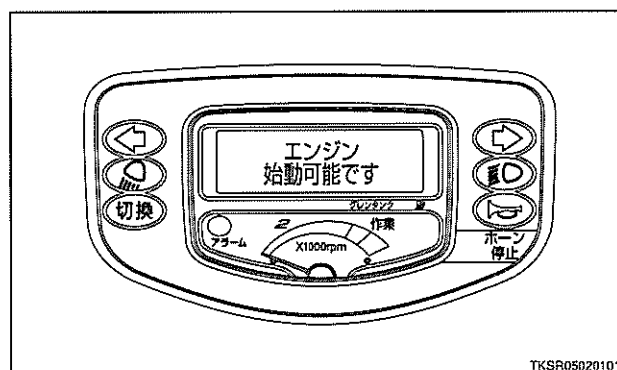
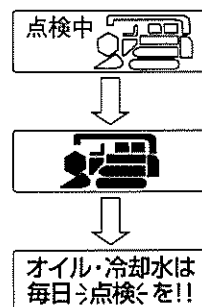
(6) マルチアイには、次の順で画面が表示されます。

初期画面が表示されます。

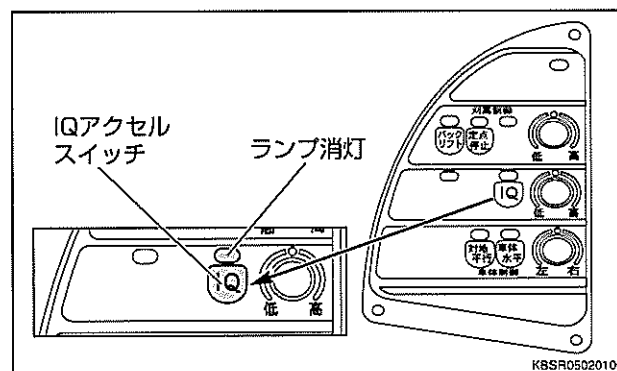
各センサ関係の点検確認をしています。

異常個所があれば表示します。

マルチアイに「エンジン始動可能です」と表示されたら予熱完了です。

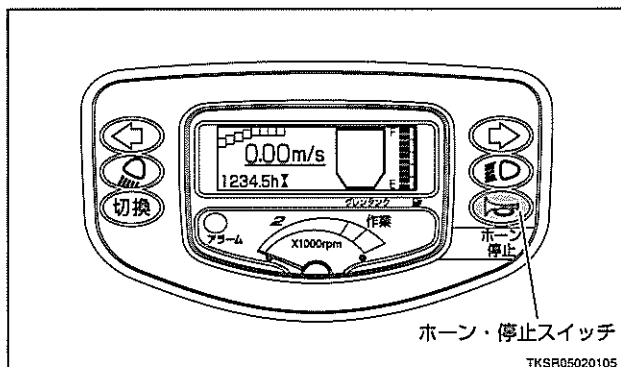


(7) IQ アクセルスイッチを押して、「切」にしてください。(ランプ消灯)

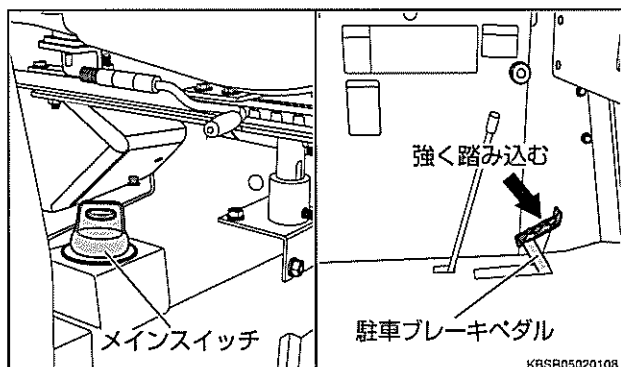


5. 運転のしかた

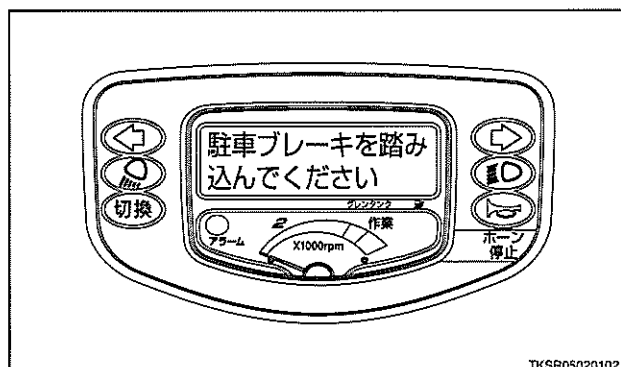
- (8) 周囲に人がいないことを確認して、ホーンを鳴らしてください。



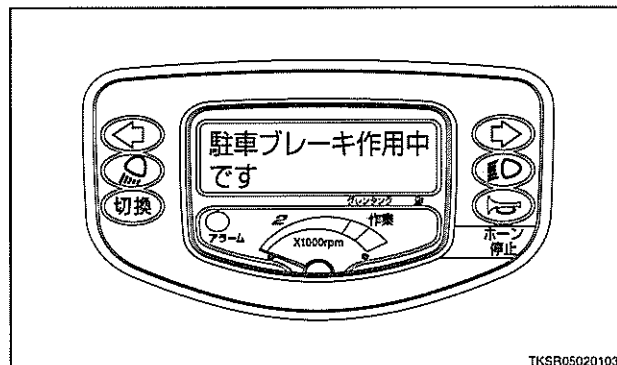
- (9) 駐車ブレーキを強く踏み込んで、メインスイッチを「始動」位置にしてください。



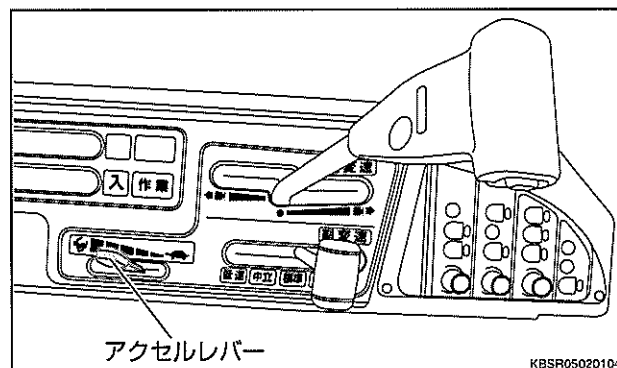
- (10) メインスイッチを「始動」位置にした場合、駐車ブレーキペダルが踏込まれていないときは、マルチアイに「駐車ブレーキを踏み込んでください」が表示されます。



- (11) エンジン始動後、駐車ブレーキペダルが踏込まれているときは、マルチアイに「駐車ブレーキ作用中です」が表示されます。



- (12) エンジン始動後は、アクセルレバーをゆっくり戻し、約5～10分間暖機運転をしてください。



《重要》

- 10秒程スタート操作をしてもエンジンが始動しない場合は、メインスイッチを「切」位置にし、30秒以上休止してから、再び操作してください。
- 異常が発生してエンジンが停止したときは、各レバーを「切」位置にして、副変速レバーを「中立」位置にし、メインスイッチを「切」位置にしてから、再び操作してください。

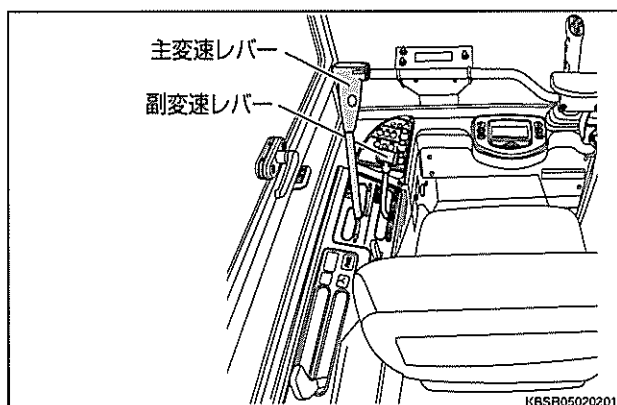
5.3.2 エンジン停止のしかた

▲ 注意

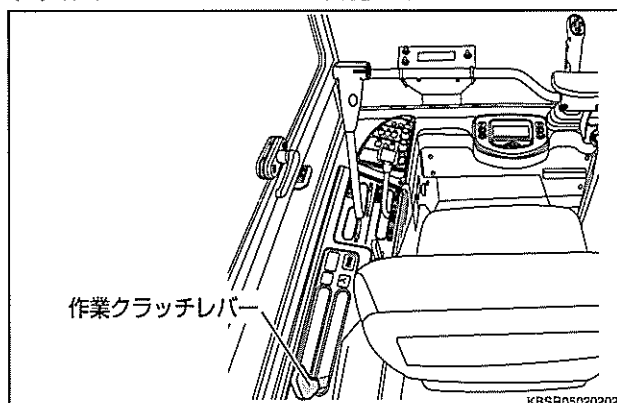
● 作業クラッチレバーは、必ず「切」位置にしてください。

※ 守らないと機械に巻き込まれる等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

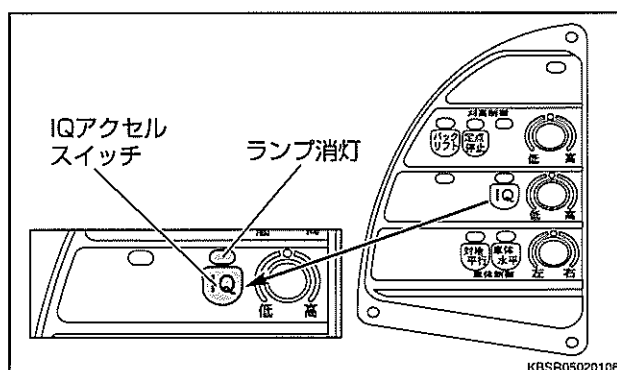
(1) 主変速レバーを「中立」(「●」) 位置、副変速レバーを「中立」位置にしてください。



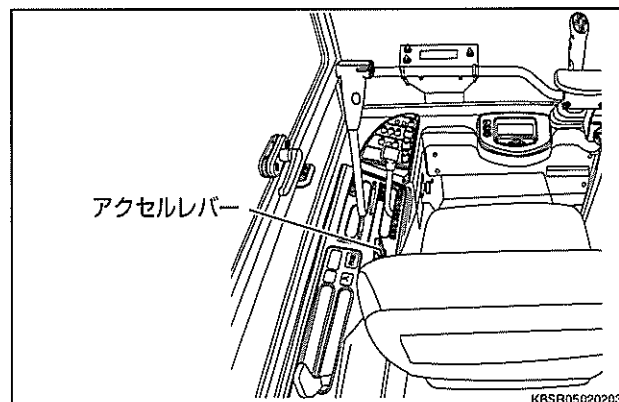
(2) 作業クラッチレバーを「切」位置にしてください。



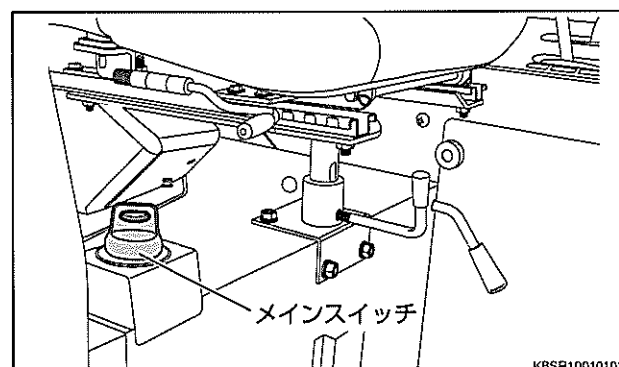
(3) IQ アクセルスイッチを押して、「切」にしてください。(ランプ消灯)



(4) アクセルレバーを、いっぱい戻してください。



(5) メインスイッチを「切」位置にしてください。



5. 運転のしかた

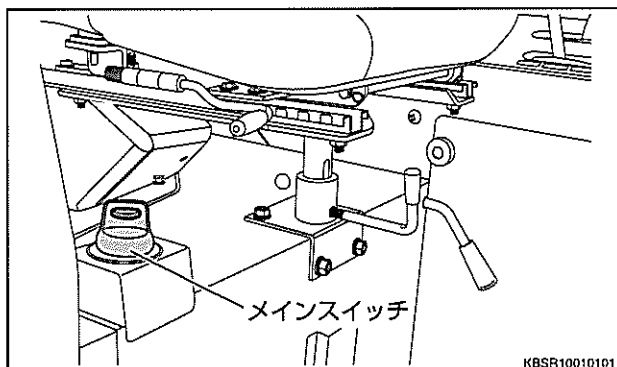
5.3.3 エアー抜きのしかた

燃料系統にエアーが入ると、エンジンは始動しません。
(エンジン始動不良のほとんどは、これが原因です。)

次の要領でエアー抜きをしてください。

(1) 給油口から燃料を、最低でも 10 リットル補給してください。

(2) エンジン始動の手順に従って、メインスイッチを「入」位置にして約 30 秒後に、メインスイッチを「始動」位置にしてください。



(3) エンジンが始動するまで、数回「始動」操作を繰り返してください。

《参考》

燃料フィルタポット内のエアーが、完全に抜けない場合があります。このとき、エンジンを始動させても、回転が安定しません。

《重要》

10 秒程スタート操作をしてもエンジンが始動しない場合は、メインスイッチを「切」位置にし、30 秒以上休止してから、再び操作してください。

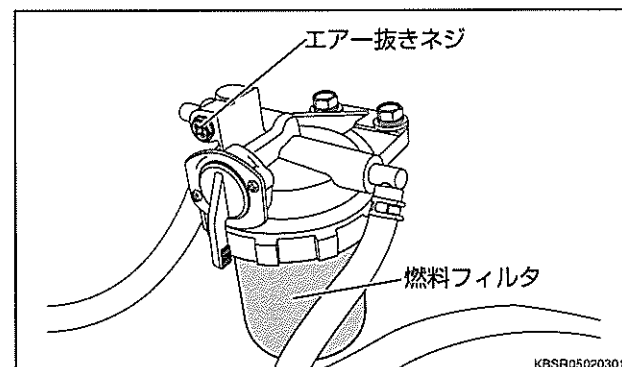
◆ 回転が安定しない場合

すみやかにあぜ際まで移動して、次の要領でエアー抜きをしてください。

(1) 給油口から燃料を、燃料タンクにいっぱいに入れてください。

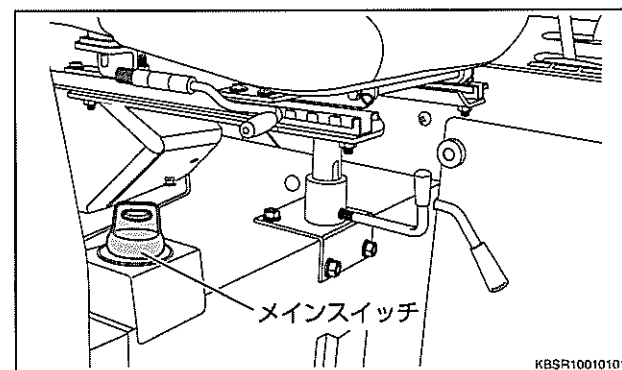
(2) 右駆動カバーを開いてください。(120 ページ)

(3) 燃料フィルタのエアー抜きネジをゆるめ、燃料が出始めたら、ネジを締め付けてください。



(4) 右駆動カバーを閉じてください。(120 ページ)

(5) エンジンの始動手順に従って、メインスイッチを「入」位置にして約 30 秒後に、メインスイッチを「始動」位置にしてください。



(6) エンジンが始動するまで、数回「始動」操作を繰り返してください。

5.4 走行のしかた

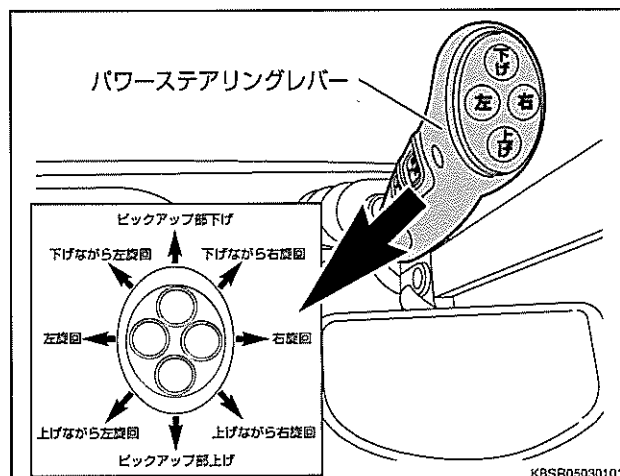
⚠ 警告

- 急発進、急制動、急旋回はしないでください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 機体の上には、人、物等を乗せないでください
※ 守らないと、転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。
- 機械の周囲に人がいないことを必ず確認し、「ホーン」を鳴らして合図してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 移動走行での右・左折は、ウインカで合図し、低速で行ってください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 必ず減速してからゆるやかに旋回してください。
※ 守らないと、高速走行時の旋回は、転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。
- 自走ロールベアラを離れるときは、平たんな場所に駐車し、駐車ブレーキをかけ、エンジンを止めて、メインスイッチキーを抜いてください。
※ 守らないと、自走ロールベアラが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- やむをえず坂道で駐車するときは、駐車ブレーキをかけてから木片等で車止めをしてください。
※ 守らないと、自走ロールベアラが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 側溝のあるところや両側が傾斜しているところを走行するとき時は、速度を落として十分注意してください。
※ 守らないと、衝突・転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。
- ベールは、必ず排出してから走行してください。
※ 守らないと、転倒・転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

5.4.1 パワーステアリングレバーの使いかた

パワーステアリングレバーで、ピックアップ部の上下と、機体の方向修正、旋回ができます。

- (1) レバーを前、後に操作すると、ピックアップ部を上・下に操作することができます。
- (2) レバーを左、右に操作すると、方向修正から旋回まで、操作することができます。
- (3) レバーを斜めに操作すると、ピックアップ部が上昇または下降しながら、方向修正（左または右）に操作することができます。



5. 運転のしかた

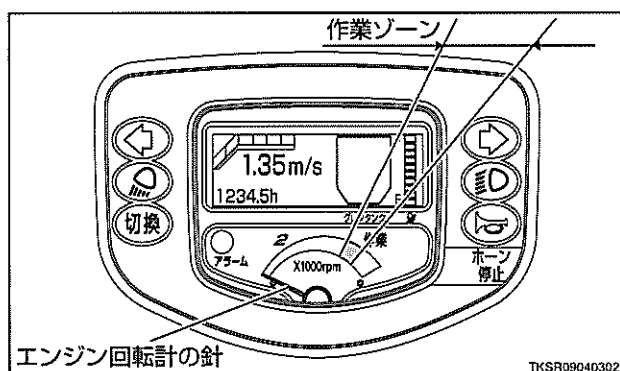
5.4.2 走行のしかた

⚠ 警告

- 移動走行するときは、車高調節スイッチを操作し、車高がもっとも下がった位置にしてください。
※ 守らないと、転倒等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 傾斜地では、副変速レバーの切り換えをしないでください。
※ 守らないと、自走ロールベアラが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

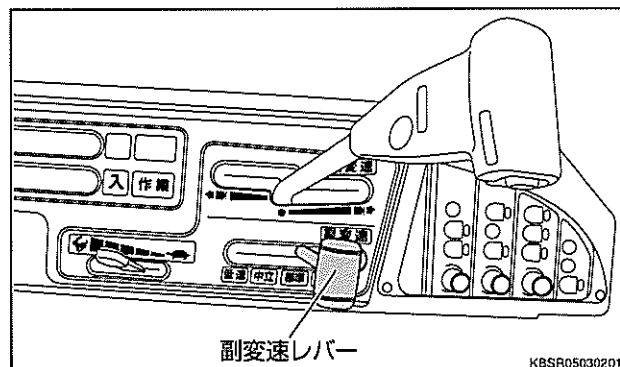
(1) メインスイッチを操作して、エンジンを始動させてください。(56 ページ)

(2) アクセルレバーを操作して、エンジン回転計の針を、「作業ゾーン」に来るように調節してください。



(3) パワーステアリングレバーを操作して、ピックアップ部を上げてください。(61 ページ)

(4) 副変速レバーを、「高速」「標準」「低速」のいずれかの位置に合わせてください。



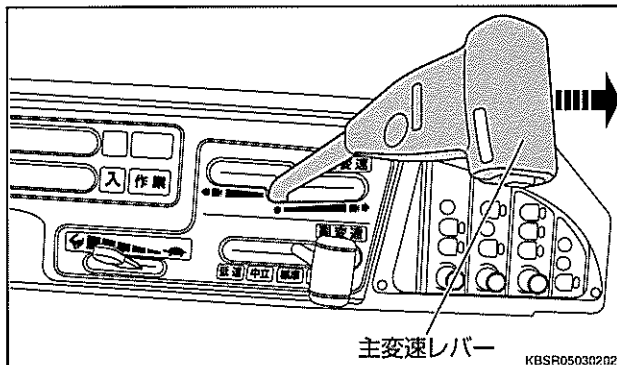
《 参考 》

副変速レバーを操作するときは、主変速レバーを「中立」(「●」)位置にしてください。

(5) 駐車ブレーキを解除してください。(66 ページ)

(6) 主変速レバーをゆっくり前方に押して、走行してください。

主変速レバーの押し量に応じて、無段階に走行速度を調節することができます。

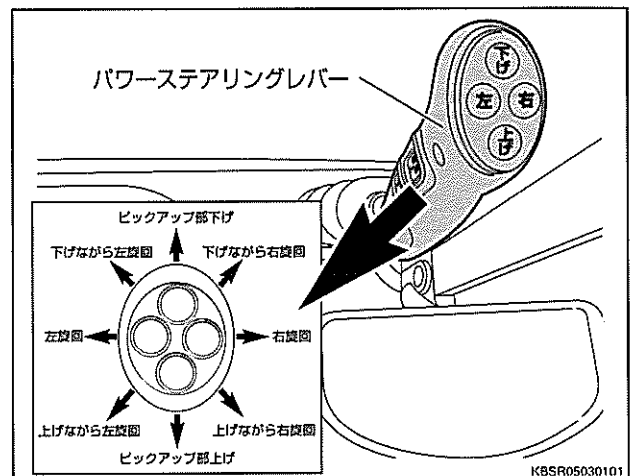


《重要》

- 主変速レバーはエンジン回転の目盛 2000rpm 以上で使用してください。
それ以下の場合、油圧無段変速装置 (HST) の寿命が短くなります。
- 2000rpm 以下で使用了場合には、マルチアイに「エンジン回転 2000rpm 以上で使用してください」が表示されます。
エンジン回転を 2000rpm 以上にすると表示は消えます。

(7) 機体の向きを変えたいときは、パワーステアリングレバーを向けたい方向に倒します。

パワーステアリングレバーの倒し量に応じて、方向修正から旋回まで、無段階に向きを変えることができます。



《重要》

パワーステアリングレバーを、左右にいっぱい倒してコーナー旋回すると、急旋回状態になることがあります。ゆっくり操作してください。

5. 運転のしかた

5.4.3 停車・駐車のかた

⚠ 警告

- 坂道では駐車しないでください。

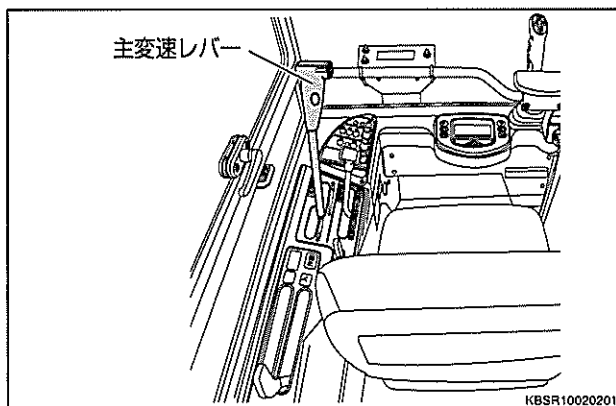
やむを得ず駐車する場合は、駐車ブレーキペダルをすばやく踏み込み、ロックをし、さらに木片等で車止めをしてください。

※ 駐車ブレーキペダルを踏み込むと、クラッチが切れ、自走ロールベアラが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

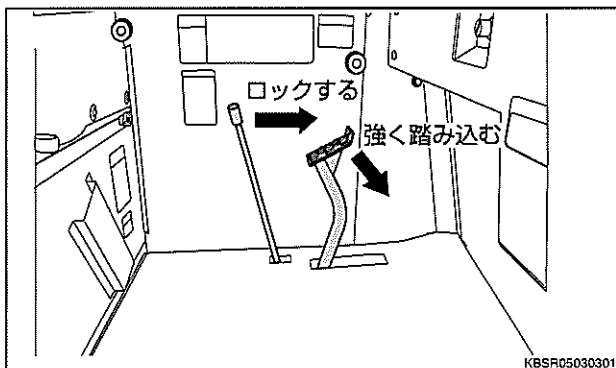
- 停車するときは必ず主変速レバーを「中立」に返してから、駐車ブレーキペダルを踏んでロックしてください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。

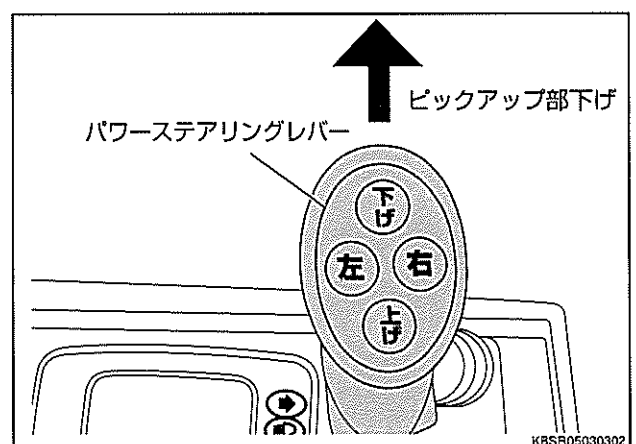
- (1) 主変速レバーを「中立」(「●」) 位置にしてください。



- (2) 駐車ブレーキペダルを、動かなくなるまで強く踏み込み、その状態でロックレバーを前に押して、駐車ブレーキペダルをロックしてください。



- (3) パワーステアリングレバーで、ピックアップ部を地面まで下げてください。

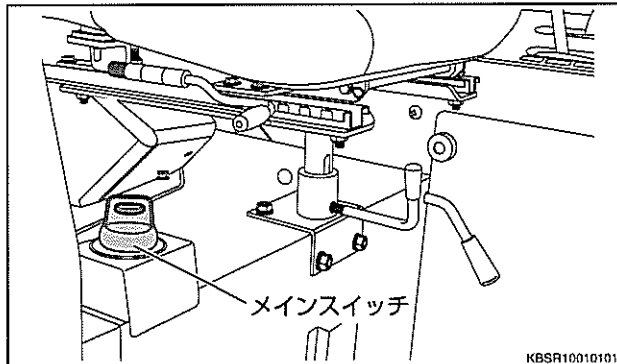


⚠ 警告

- やむを得ず、ピックアップ部を上げて駐車する場合は、ピックアップ部の下にスタンド等の台を置いてください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。

- (4) メインスイッチを「切」位置にして、エンジンを止め、メインスイッチキーを抜いてください。



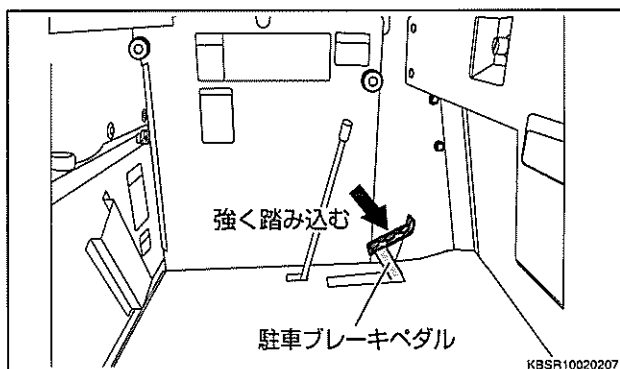
5. 運転のしかた

5.4.4 駐車ブレーキの解除のしかた

⚠ 警告

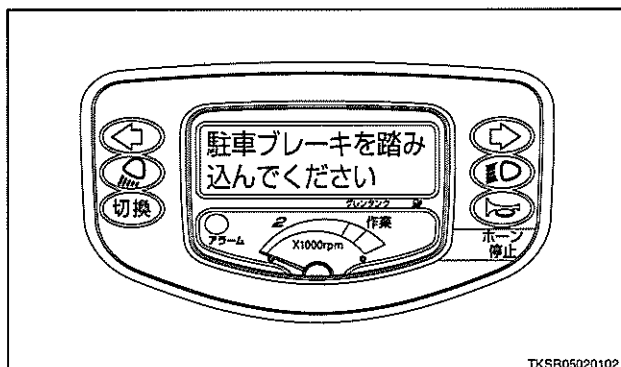
- 停車するときは必ず主変速レバーを「中立」(「●」)位置に戻してから、駐車ブレーキペダルを踏んでください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 坂道で駐車ブレーキを解除する場合は、エンジンを始動し、副変速レバーを「低速」位置に入れ、車止めをはずしてから解除してください。このとき駐車ブレーキペダルからすばやく足を離してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

駐車ブレーキペダルを、強く踏み込むとロックがはずれ、駐車ブレーキは解除されます。

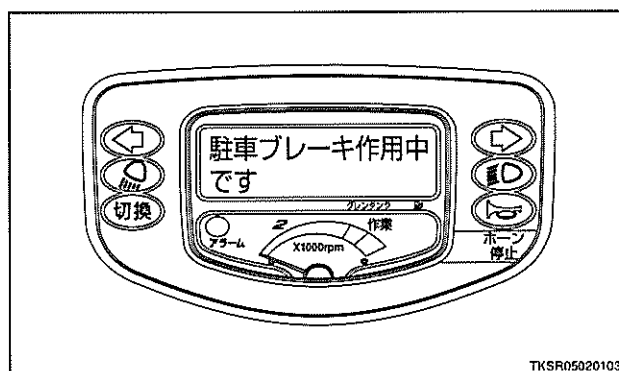


《参考》

- メインスイッチを「始動」位置にした場合、駐車ブレーキペダルが踏込まれていないときは、マルチアイに「駐車ブレーキを踏み込んでください」が表示されます。



- エンジン始動後、駐車ブレーキペダルが踏込まれているときは、マルチアイに「駐車ブレーキ作用中です」が表示されます。



5.4.5 チャンバーの開閉のしかた

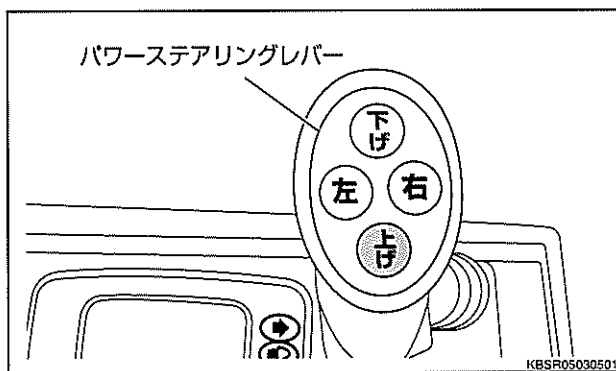
⚠ 危険

- チャンバーを開くときは必ず、人・傷害物がないことを確認してください。
※ 守らないと、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- チャンバーを開いて作業を行うときは、必ず、シリンダーストップをセットしてください。
※ 守らないと、重大な傷害を受けるおそれがあります。

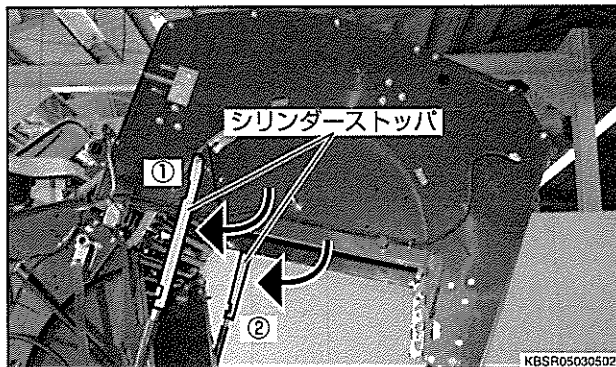
◆ チャンバーの開きかた

(1) メインスイッチを操作して、エンジンを始動させてください。(56 ページ)

(2) パワーステアリングレバーの「上げ」ボタンを押すと、チャンバーが開きます。



(3) 開いたチャンバー内で作業を行う場合は、シリンダーストップを、①、②共にセットしてください。



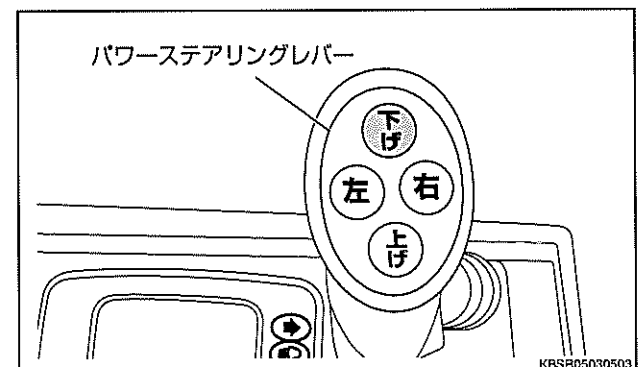
◆ チャンバーの閉めかた

(1) シリンダーストップを、取り外してください。

《 重要 》

シリンダーストップを取り外すときは、必ず、開いたチャンバー内に人がいないことを確認してください。

(2) パワーステアリングレバーの「下げ」ボタンを押すと、チャンバーが閉まります。



(3) メインスイッチを操作して、エンジンを停止させてください。(59 ページ)

《 重要 》

- チャンバーを開けて作業を行うときは、必ず、シリンダーストップをセットしてください。
- シリンダーストップは、必ず①側からセットしてください。

5.5 自動車等への積み・降ろしのしかた

▲ 警告

- アユミ板の上では、パワーステアリングレバー、副変速レバー、駐車ブレーキペダルを操作しないでください。
※ 守らないと、クローラがすべり、傷害事故の原因になります。
- 積み・降ろしの際は、機体の周辺には立たないでください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。
- アユミ板の上では、ピックアップ部の上下操作をしないでください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 周囲に危険のない平たんで、地面の硬い場所を選んでください。
※ 守らないと、転倒・転落事故の原因になります。
- アユミ板は、すべり止めのついたものを使用し、荷台に段差のないよう確実にかけてください。
※ 守らないと、衝突・転倒・転落し傷害事故の原因になります。
- 積込むトラックはエンジンを止めて、変速を「1速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。
- 積み込みは、ベアラを空にしてから行ってください。また、外装カバーの取付が確実にされているか確認してください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。
- 積み・降ろしの際は、車高上下スイッチを操作し、車高がもっとも下がった位置にしてください。
※ 守らないと、転倒のおそれがあります。
- アユミ板から荷台に移るときや荷台からアユミ板に移るときは、急に機体の角度が変わるので十分注意してください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。
- 機体は、荷台からはみ出ないように積み込んでください。
※ 守らないと、道路交通法違反になります。
- 本機を運搬する時は、サイドウインド（左側）（ドア側）・リヤハッチは閉め、ドアは施錠してください。
※ 守らないと、コンバインの破損や落下物となり傷害事故の原因になります。

▲ 注意

- ロープは所定のフック以外には掛けしないでください。
※ 守らないと、自走ロールベアラの破損や故障を引き起こすおそれがあります。

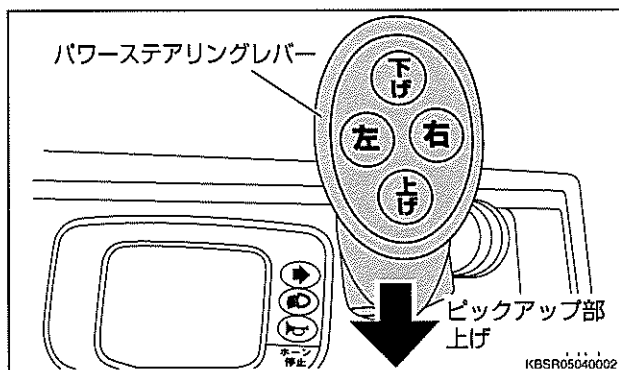
(1) 基準に合ったアユミ板を用意してください。

《重要》

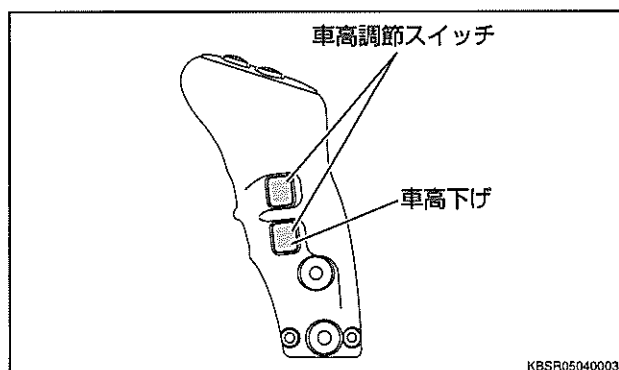
・アユミ板の基準

- [1] 長さ……車の荷台高さの4倍以上
- [2] 幅……50cm以上
- [3] 強度……1500kg以上（片側1枚）
- [4] 数量……2枚使用
- [5] すべらないよう処理してあること
- [6] 一方の端にトラックの荷台に引掛けるフックがあること

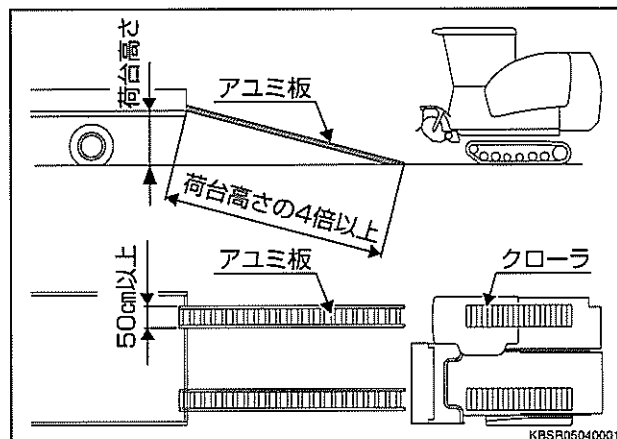
(2) パワーステアリングレバーで、ピックアップ部をいっぱい上げてください。



(3) 車高調節スイッチを操作し、車高をいっぱい下げます。

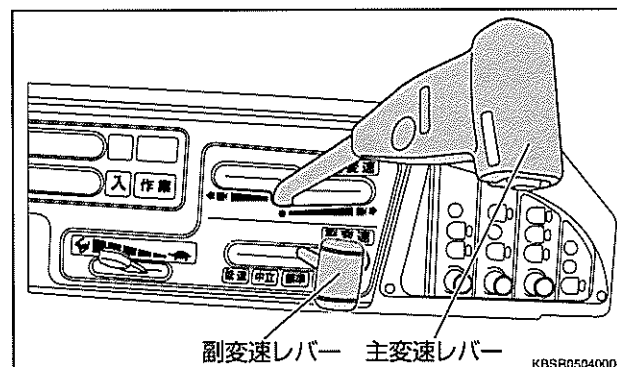


(4) アユミ板の前でいったん停止し、左右のクローラがアユミ板と平行になるまで、自走ロールベアラの位置、向きを合わせてください。



(5) 副変速レバーを「低速」位置にし、主変速レバーを前進方向にゆっくり動かし、微速にて積み込みます。

- (1) 積み込みは「前進」で行います。
- (2) 降ろすときは、「後進」で行います。



《参考》

エンジン回転は 2000rpm 以上にしてください。

(6) 荷台に載せ終わったら、ピックアップ部を接地するまで下ろしてください。

6. 作業前の準備

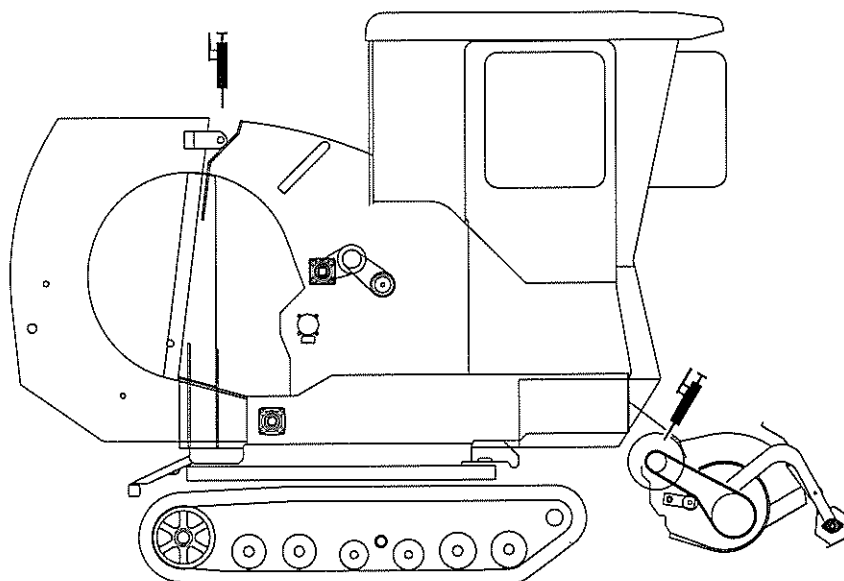
6.1 自走ロールベアラの準備

6.1.1 注油箇所

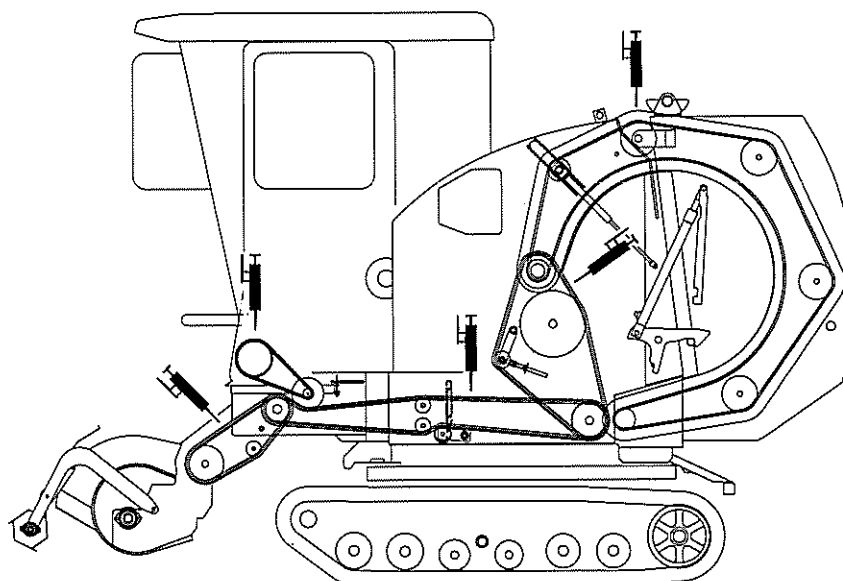
作業前に、必ず注油してください。

本機右側

注油箇所 



本機左側



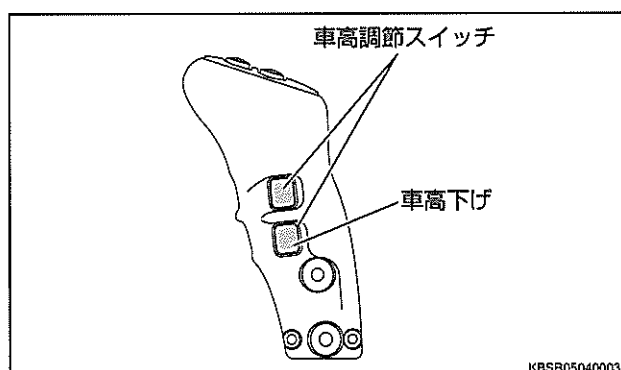
TKSR06010101

6.2 ほ場への出入りのしかた

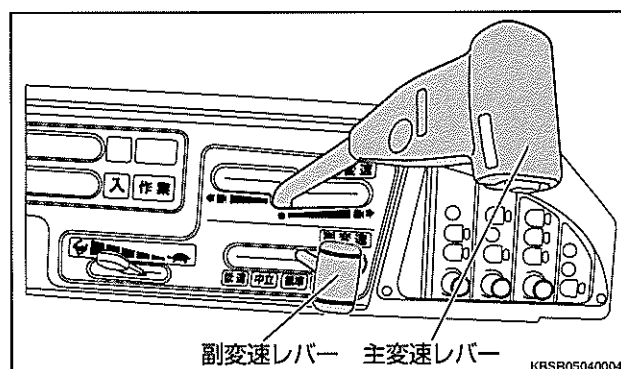
警告

- アユミ板は、「アユミ板の基準」(68 ページ) を満たすものを使用してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- アユミ板は自走ロールベアラの重量で傾かない場所を選んで、使用してください。
※ 守らないと、転倒・転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

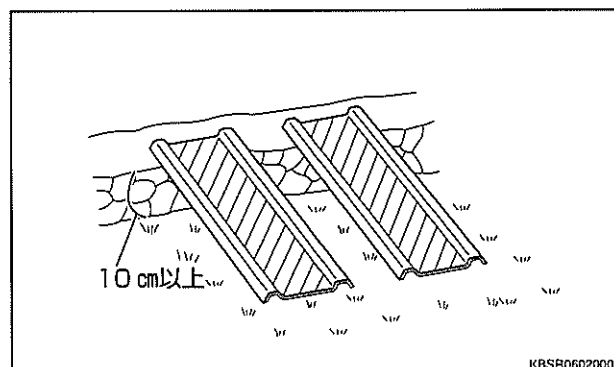
- (1) 車高調節スイッチで、車高を最も下げた位置にしてください。



- (2) 副変速レバー「低速」位置で、主変速レバーを「前」側に押してゆっくりとした速度で、あぜに直角に前進でのり越えます。



- (3) 10cm以上の高いあぜを越える場合は、アユミ板を使用してください。



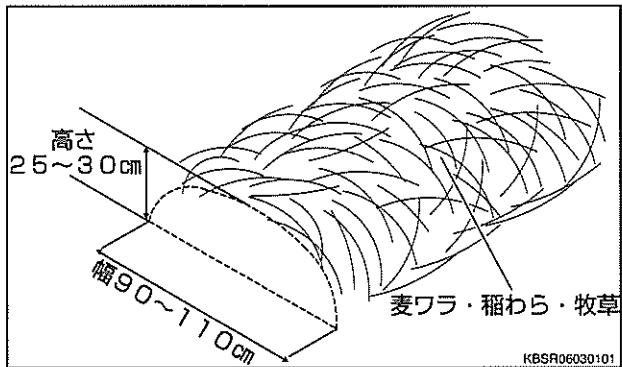
6. 作業前の準備

6.3 作物の拾い上げ

6.3.1 ウインドローの作りかた

必ず、ウインドローを作ってください。

均一なウインドローの作りかたは、次のようにしてください。



《参考》

- ウインドローの草量が多いと、詰まりの原因となり、能率的な作業ができません。

7. 作業前の準備

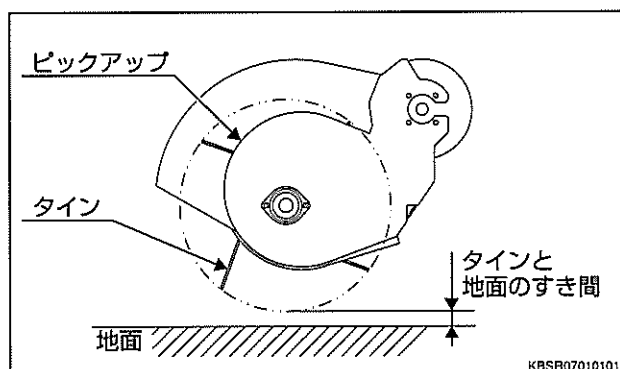
7.1 ピックアップの調整

7.1.1 ピックアップの高さ調整

◆ ピックアップの標準高さ

稲わらなどを拾い上げるときの、タインと地面のすき間を、次の表を参考に、高さ調整を行ってください。

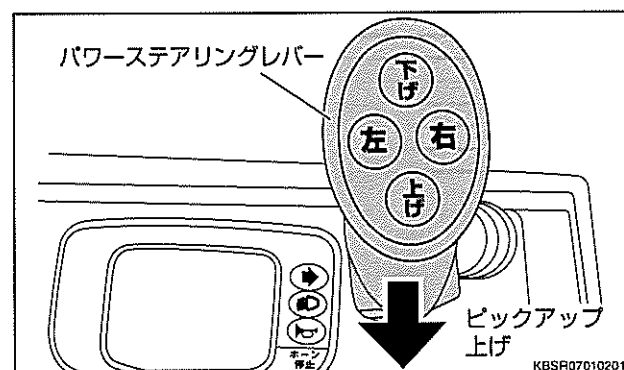
収穫物	タインと地面のすき間
稲わら	10 ～ 20mm
麦わら	30 ～ 40mm



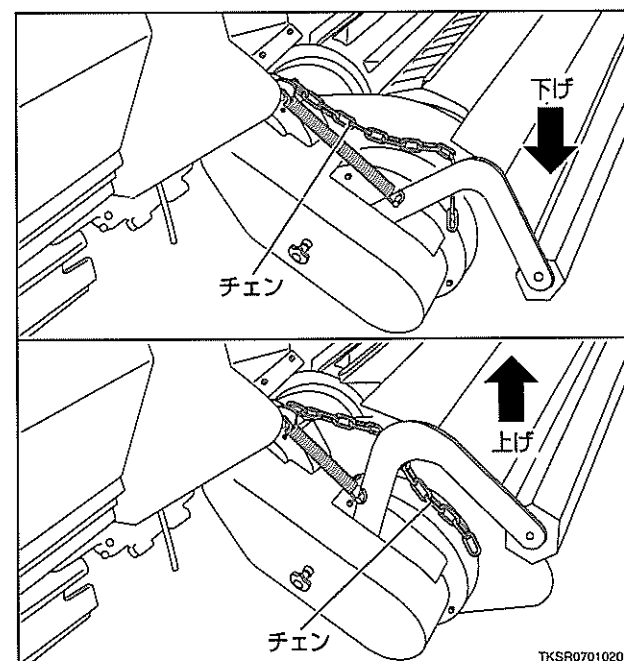
7.1.2 クロップカバーの調整方法

作業時の高さ調整は、チェンで行います。

- (1) パワーステアリングレバーで、ピックアップ装置をいっぱい上げてください。



- (2) ピックアップ横のチェンの長さを調整することによって、クロップカバーの高さを調整することができます。



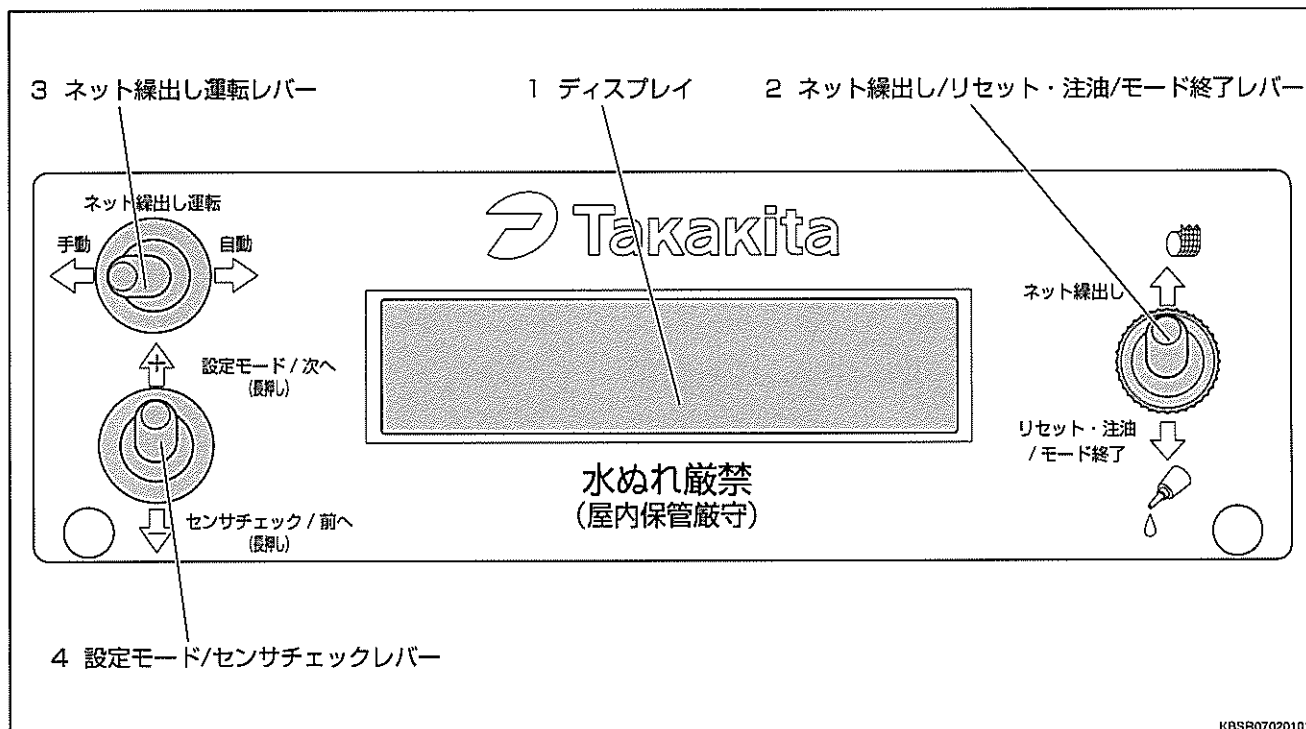
《参考》

ウインドローが大きいときは高く、切りわら作業では低く、チェンを調整してください。

7. 作業前の準備

7.2 コントロールボックスの使いかた

7.2.1 各レバーの名称とはたらき

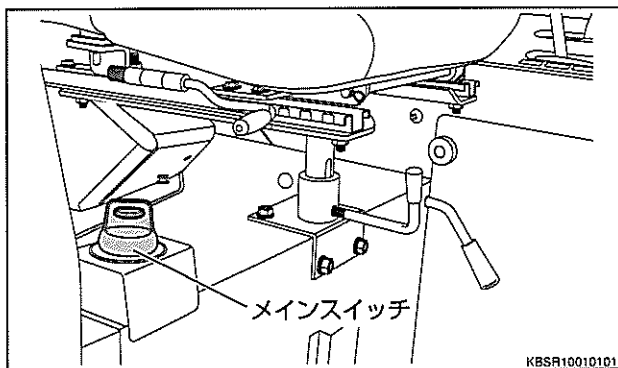


番号	名称	はたらき
1	ディスプレイ	現在の作業状態や、センサ等の異常を文字で表示します。
2	ネット繰出し/リセット・注油/モード終了レバー	「ネット繰出し」……………ネット繰出しレバーを押すとネット結束が開始されます。 「リセット・注油/モード終了」…モードを終了するときや、タイトチェーン部に注油するときに使用します。
3	ネット繰出し運転レバー	「自動」……………ネット繰出しを自動で行う場合に、使用します。 「手動」……………ネット繰出しを作業者自身で行う場合に、使用します。
4	設定モード/センサチェックレバー	「設定モード/次へ」……………長押しすると、モード移行を行います。押しと、設定数値の変更を行います。 「センサチェック/前へ」……………長押しすると、「センサチェックモード」へ移行を行います。押しと、設定数値の変更を行います。

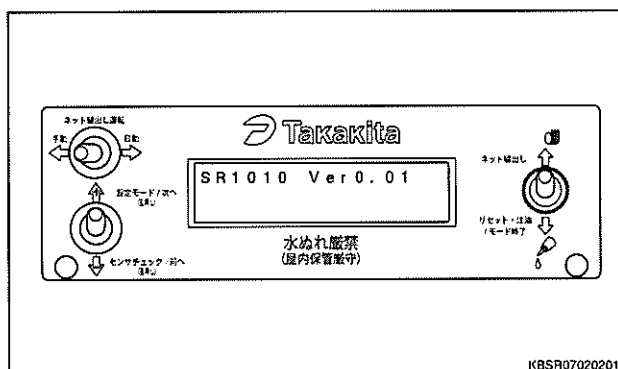
7.2.2 コントロールボックスの使いかた

◆ コントロールボックスの起動のしかた

(1) メインスイッチを「入」位置にしてください。

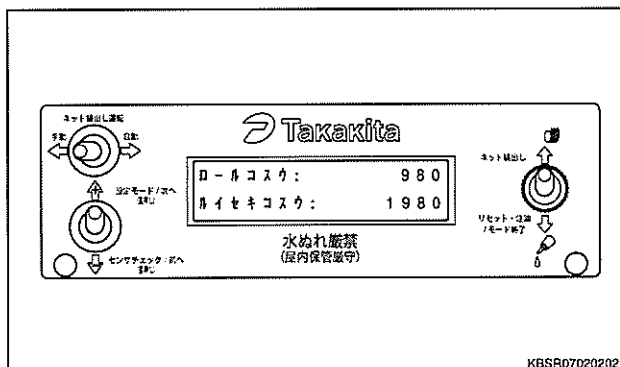


(2) コントロールボックスのディスプレイに、バージョン情報が表示されます。



(3) 次に、今まで作成した総ロール数と、積算されたロール個数が表示されます。

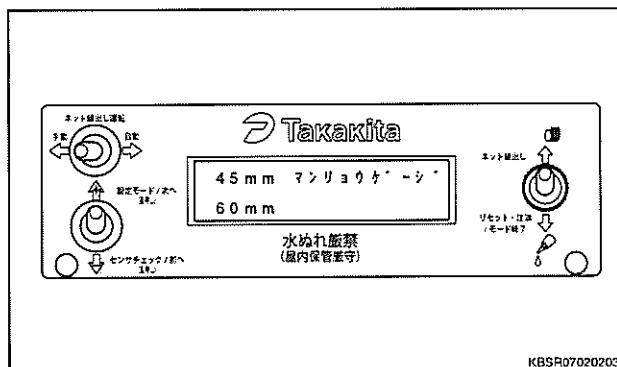
このときに、各センサや、チャンバー部等に異常がないか、イニシャルチェックをおこないます。



《参考》

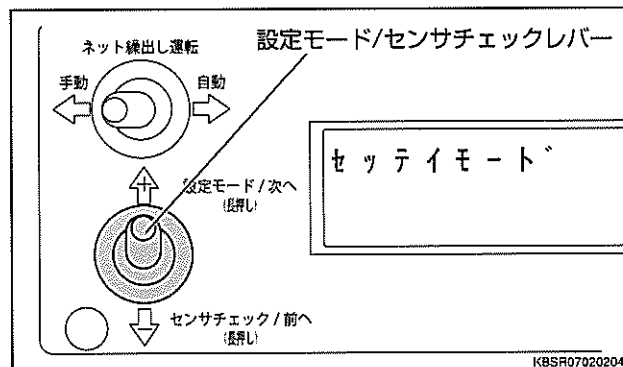
センサ等に異常が発生した場合は、異常個所を文字で表示します。

(4) 異常がなければ、初期画面が表示されます。



◆ セッテイモードへの移行のしかた

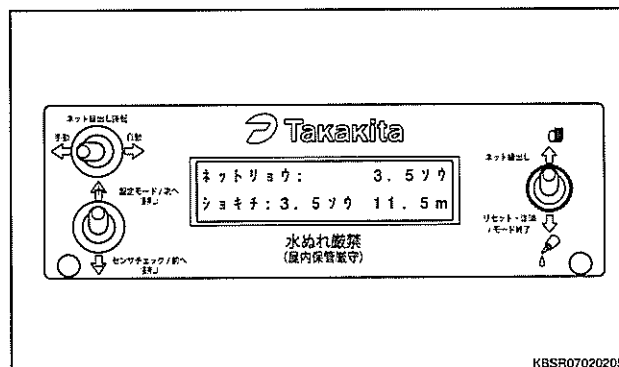
(1) 初期画面の状態から、設定モード/センサチェックレバーを、「設定モード/次へ」側に長押しすることで、「セッテイモード」へ移行することができます。



(2) 「セッテイモード」は3項目あり、設定モード/センサチェックレバーを、「設定モード/次へ」側に長押しすることで、各設定項目へ移行することができます。

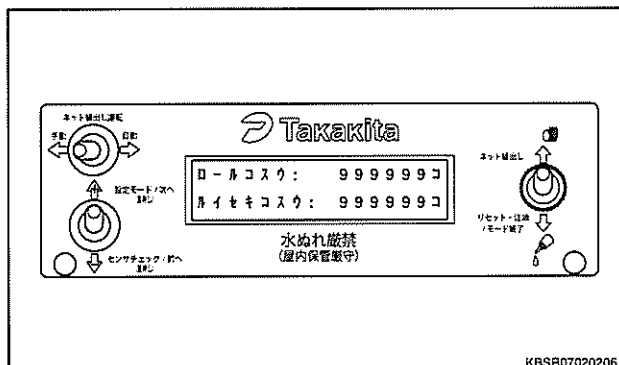
各設定項目の詳細については、次の通りです。

[1] ロールを結束するネットの長さを、0～99ソウまでの範囲で調整することができます。



7. 作業前の準備

- [2] 「ロールコスウ」(積算個数)のカウンを0にすることができます。

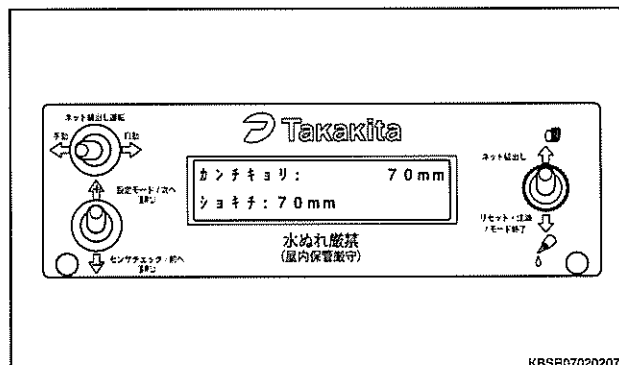


《参考》

「リセキコスウ」(総ロール数)のカウンを、0にすることはできません。

- [3] ロールの固さを、10～100mmの範囲で変更することができます。

数値が大きくなる程、ロールは固くなります。



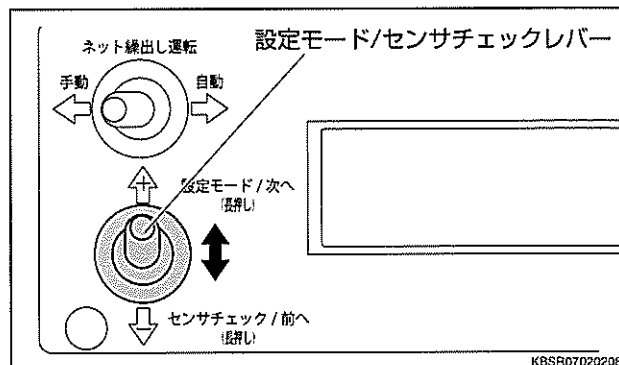
《参考》

設定値を上げすぎると、

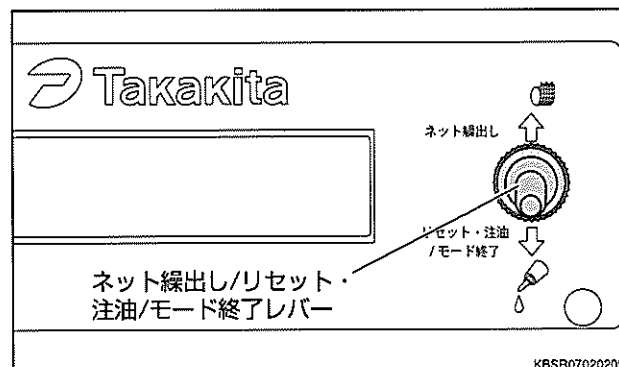
- シェアボルトの切れ
- エンジンダウン
- 強制ネット繰出しの原因となります。

◆ 設定値の変更のしかた

- (1) 変更したい設定項目の画面で、設定モード/センサチェックレバーを上下させることで、数値を変更することができます。



- (2) ネット繰出し/リセット・注油/モード終了レバーを「リセット・注油/モード終了」側へ押すことで、変更した設定が登録され、初期画面へ移行します。



《参考》

- 「センサチェックモード」への移行のしかたは、9章「自動装置について」(92 ページ)を参照してください。
- 「メーカーセッテイモード」への移行のしかたは、10章「メンテナンスモード」(109 ページ)を参照してください。

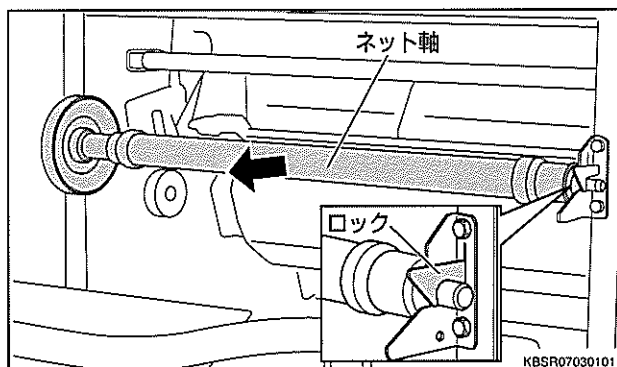
7.3 ネット交換のしかた

7.3.1 ネットの通しかた

(1) 左サイドカバーを開いてください。(118ページ)

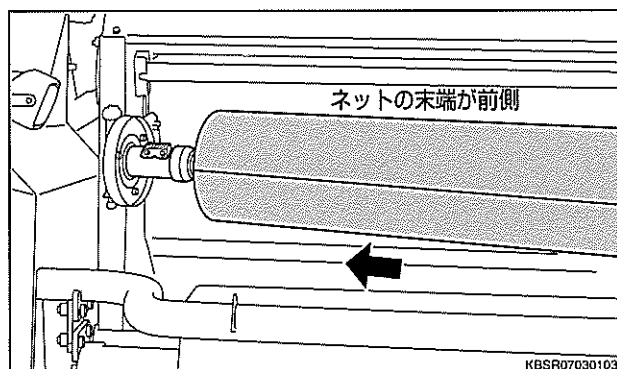
(2) ネットを取り出します。

(3) ロックを上げ、ネット軸を矢印の方向へ引き出します。

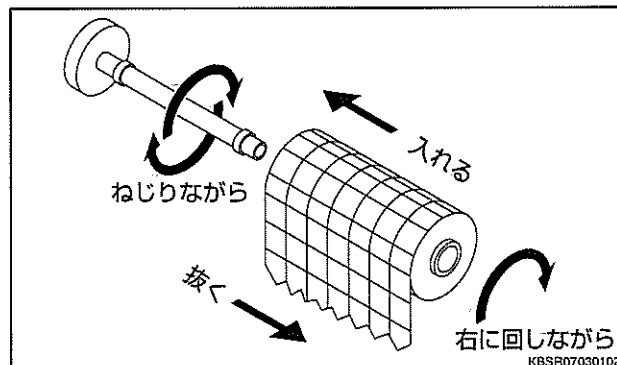


(4) ネットの末端が前側になるように、ネット軸に、ネットを差し込みます。

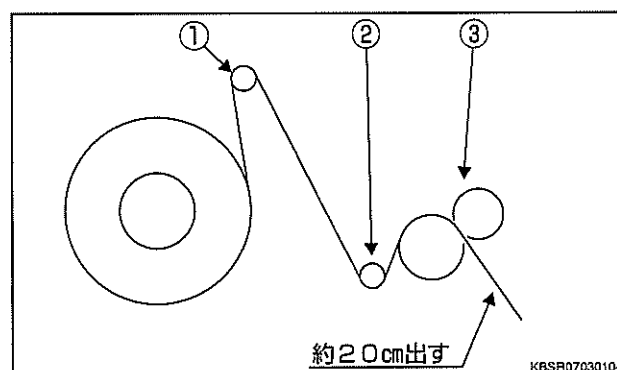
ネットの末端は、あらかじめ2mほど引き出しておきます。



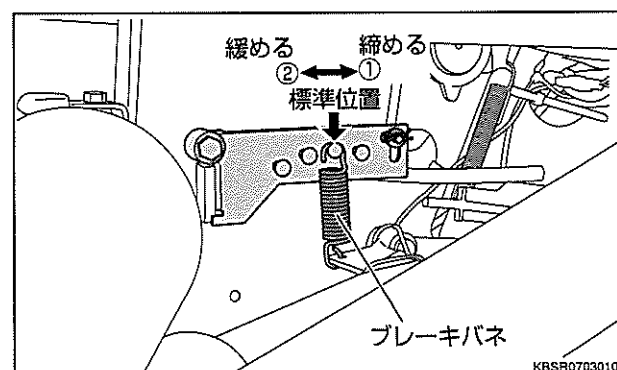
(5) ネットを矢印の方向へ、ねじりながら差し込んでください。



(6) ネットは束ねた状態で、①～③の順に通してください。



(7) ネットを締めて巻く場合は、標準位置より①方向へバネをかけ、緩める場合は、②方向へバネをかけて調整してください。

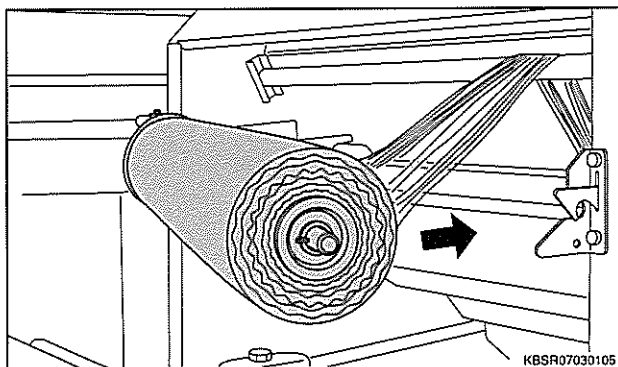


《参考》

バネの位置を、標準位置より締める位置にかけた場合、ネットがやぶれるおそれがあります。

7. 作業前の準備

- (8) ネット軸を矢印の方向に押して、ネットを巻き取りながらを収納してください。



- (9) 左サイドカバーを閉じてください。(118ページ)

8. 作業のしかた

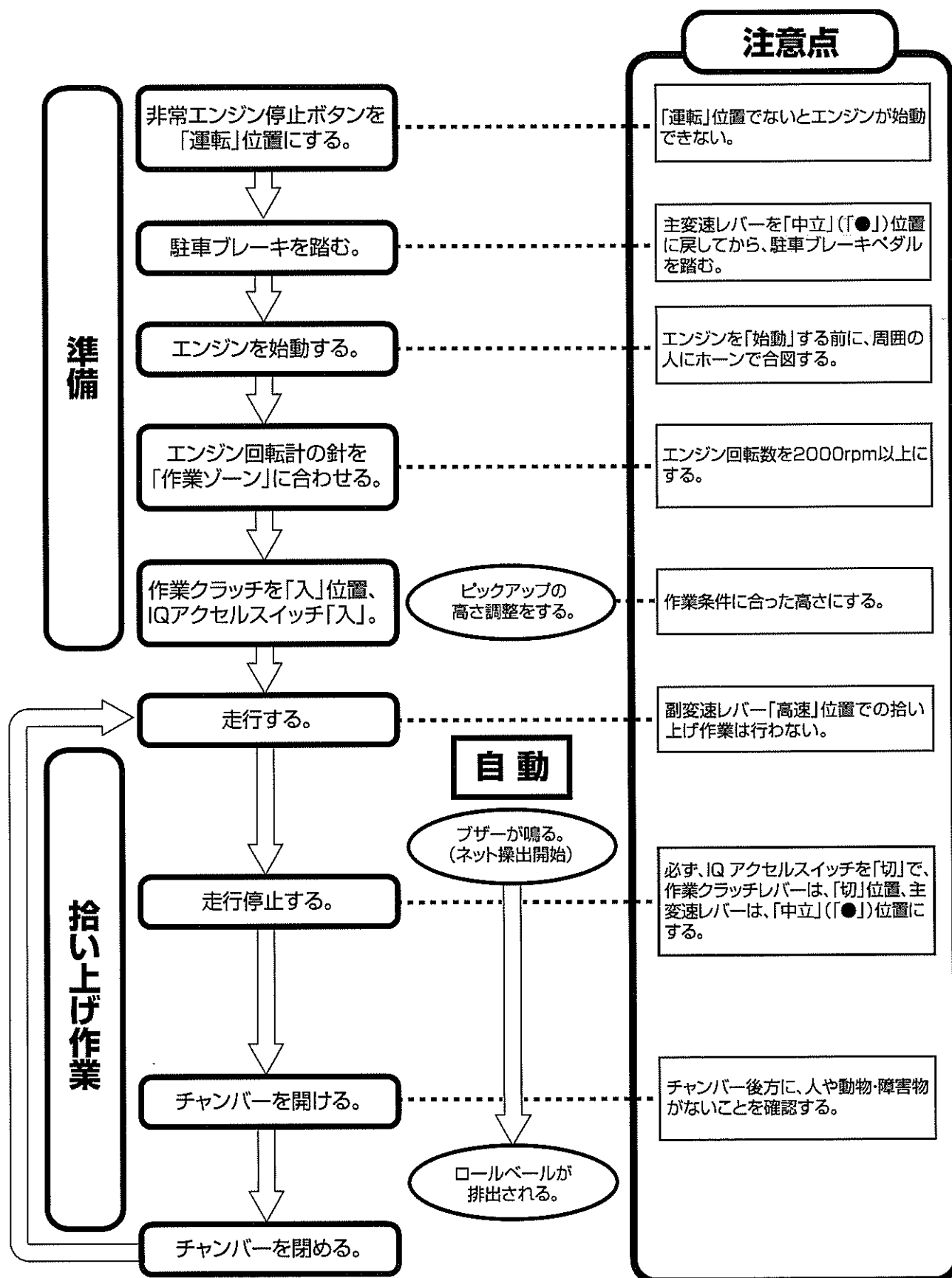
8.1 ウインドロー拾い上げ作業のしかた

▲ 警告

- 作業に適した服装を着用してください。
はち巻き・首巻き・腰タオルは厳禁です。ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、
作業に適した防護具等をつけて、だぶつきのない服装をしてください。
※ 守らないと、巻き込まれ、挟まれ等傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- すべてのカバーを装着してください。
※ 守らないと、巻き込まれ、挟まれ等傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 異常が発生したときは、直ちにエンジンを止め、メインスイッチキーを抜き、点検してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- ワラくずを取り除くときは、必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 二人以上の共同作業では、補助者の状況に十分注意をはらい、運転してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 後進するときは、後方の状況に十分注意をはらい、低速で後進してください。
※ 守らないと、機械に巻き込まれ傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 拾い上げ作業をするときは、周囲の状況に十分注意をはらい、特に子供は近づけないでください。
※ 守らないと、機械に巻き込まれ傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- エンジンが動いているときは、回転部に手や身体を絶対に近づけないでください。
※ 守らないと、巻き込まれ、挟まれ等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

8. 作業のしかた

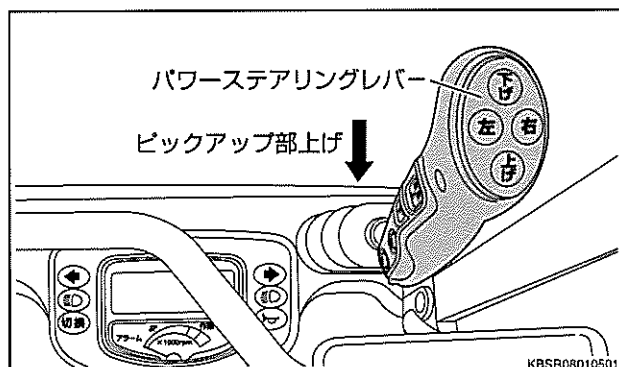
8.1.1 作業手順と要点



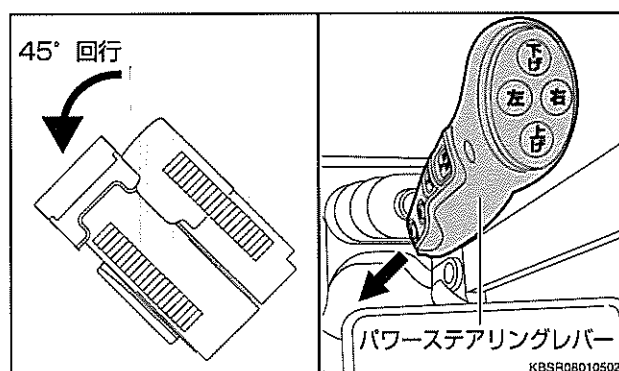
KBSR08010101

8.1.2 回行のしかた

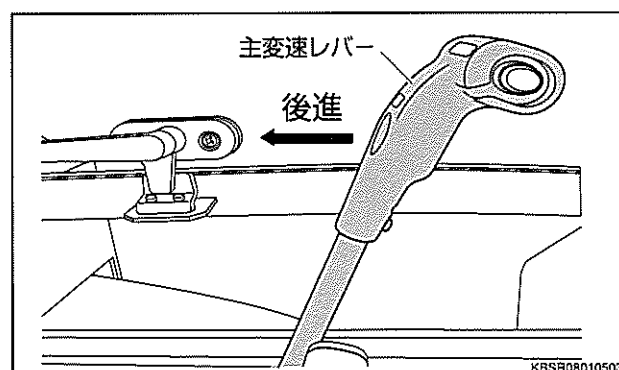
- (1) 拾い終ると、パワーステアリングレバーでピックアップ部を上げてください。



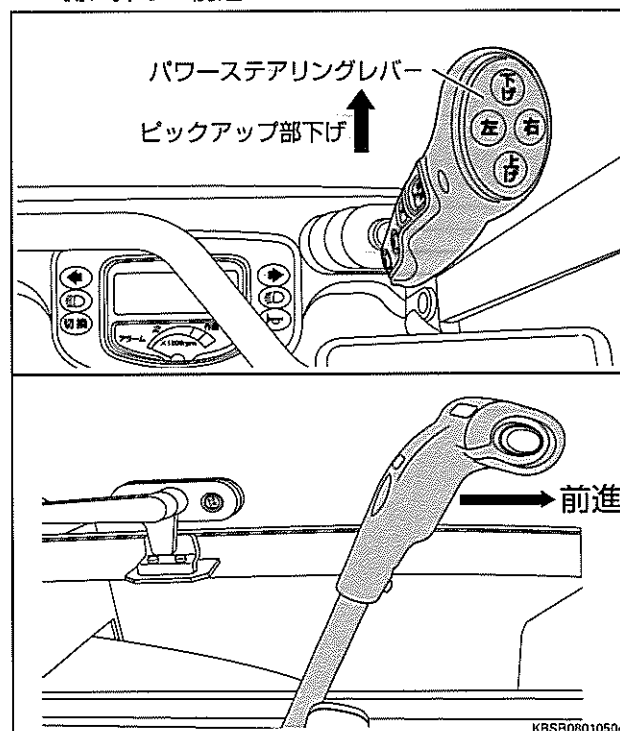
- (2) パワーステアリングレバーを操作し、本機を 45° 程度回行した状態でストップしてください。



- (3) 主変速レバーを「後進」側に引き、パワーステアリングレバーを操作して、位置合わせをしてください。

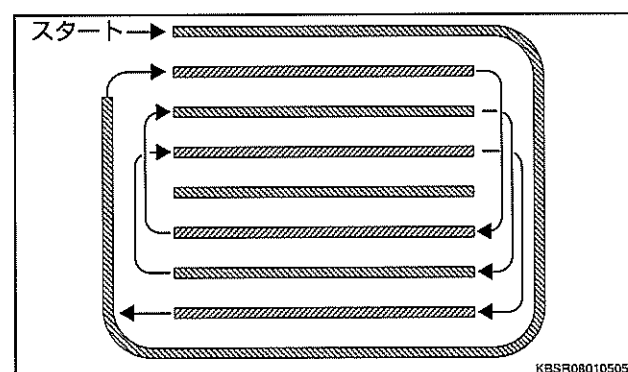


- (4) ピックアップ部を下げ、主変速レバーを「前進」側に押し、前進してください。



《重要》

- 旋回は、できるだけ大きく旋回し、急旋回は絶対しないでください。
- 急旋回が必要な場合は、必ず作業クラッチレバーを「切」位置にして旋回してください。



8. 作業のしかた

8.1.3 作業速度の選びかた

▲ 注意

●副変速レバー「高速」位置での拾い上げ作業は行わないでください。

※守らないと、故障の原因となります。

次の表を目安にして、作業速度を調節してください。

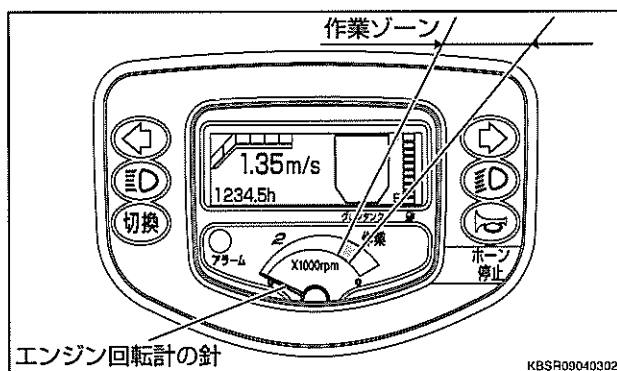
適用	作業速度
稲わら、麦わら	4 ～ 5km /h

《参考》

- ・ウインドロー拾い上げの作業速度は、わらの種類や水分量、ウインドローの草量によって異なります。
- ・ウインドローの草量が多い場合は、作業速度を落としてください。

8.1.4 エンジン回転の合わせかた

アクセルレバーで、エンジン回転計の針が、「作業ゾーン」にくるように、調整してください。



《重要》

エンジン回転が高すぎると、作業ロスが多くなります。

また、エンジン回転が低すぎると、エンストや詰まりの原因となったり能率があがりません。

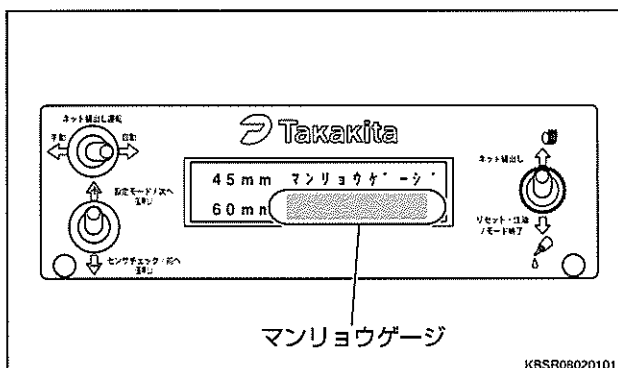
8.2 ベールのつくりかた

⚠ 危険

- ベールを放出するときは、後方に人や動物・障害物がないことを確認してください。
※ 守らないと、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 傾斜地で放出すると、ベールが転動して、危険です。
必ず平坦な場所で放出してください。
※ 守らないと、重大な傷害を受けるおそれがあります。

(1) ウィンドローから拾い上げ作業を行うと「マンリョウゲージ」に、ベールの圧縮数値が表示されます。

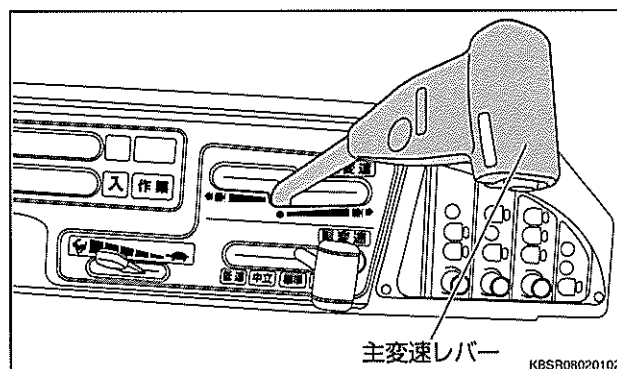
ベールの圧縮レベルは、10段階で表示されます。



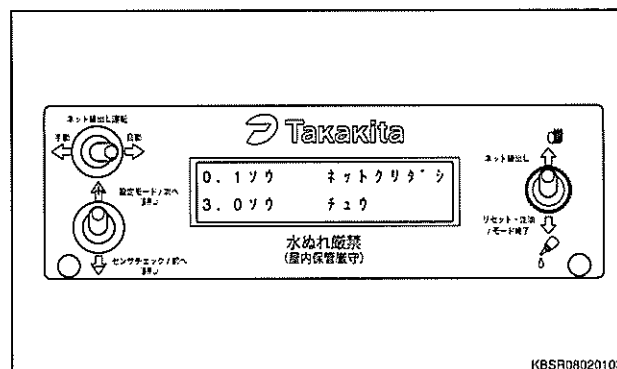
《参考》

マンリョウゲージの1段階目は、空白で表示されます。

(2) ブザーが鳴りますので、主変速レバーを「中立」(「●」)位置にして本機を、停止させてください。

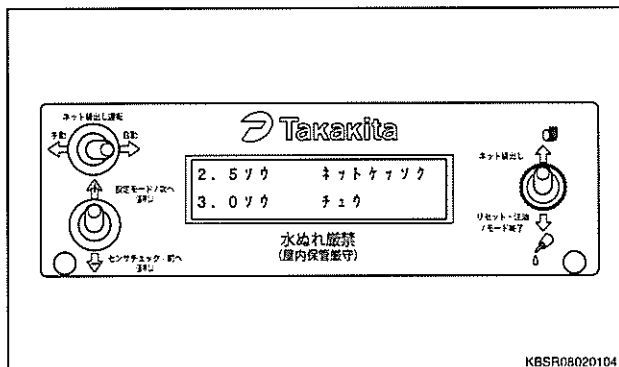


(3) 繰り出すネットの長さが表示され、設定値の長さまで、ネットがチャンバーへ繰り出されます。

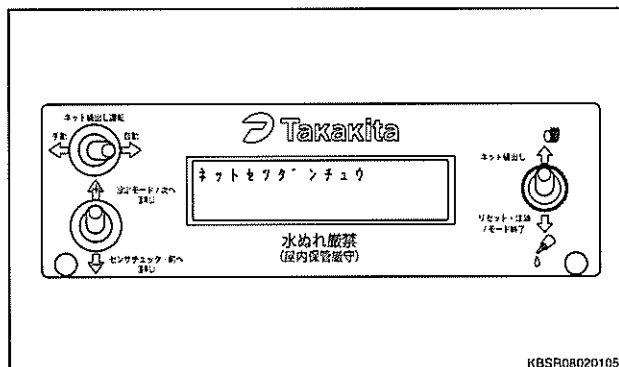


8. 作業のしかた

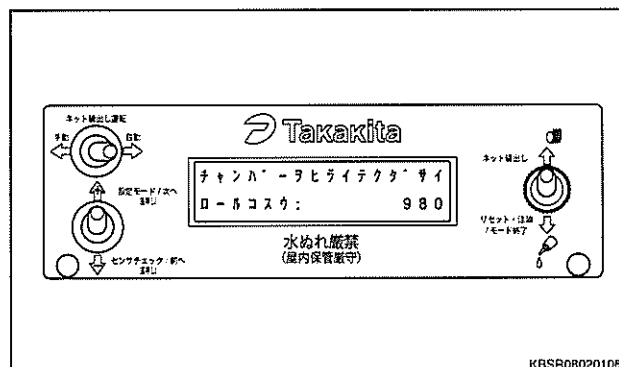
- (4) ベールを結束するネットの巻き数が表示され、設定値まで、ネットがチャンバーへ繰り出されます。



- (5) 「ネットセツダンチュウ」と表示され、チャンバー下部のナイフで、ネットを切断します。



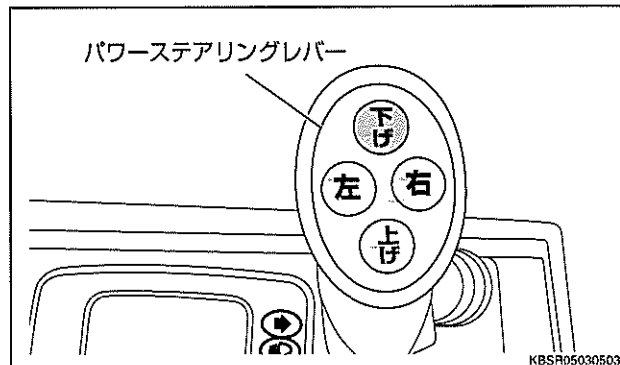
- (6) 「チャンバーヲヒライテクダサイ」と表示されます。チャンバー開閉スイッチの「上げ」ボタンを押してチャンバーを開き、ベールを排出してください。チャンバー開いている間は、ブザーが鳴ります。



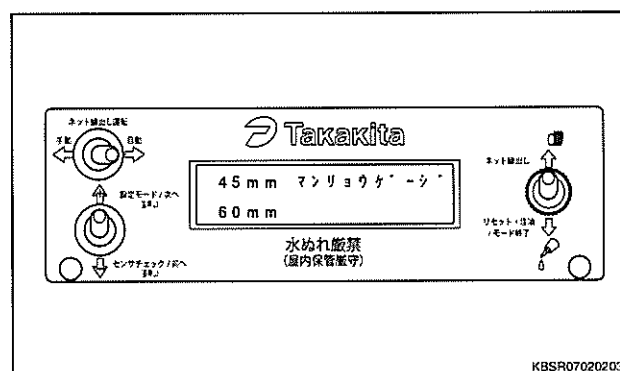
《重要》

チャンバーを開くときは必ず、人・障害物がチャンバーの後ろにいないことを確認してください。

- (7) ベールが排出されたことを確認したら、チャンバー開閉スイッチの「下げ」ボタンを押して、チャンバーを完全に閉じてください。



チャンバーが閉じ、コントロールボックスが初期画面へ戻り、チャンバーのタイトチェン部へ注油を行います。



《参考》

- セッテイモードやメンテナンスモードで、設定値を変更することができます。
- 設定変更のしかたは、3章「各部の名称とはたらき」(47 ページ) を参照してください。
- 各作業時にエラーメッセージが表示された場合は、3章「各部の名称とはたらき」(51 ページ) を参照してください。

9. 自動装置について

9.1 IQ アクセル装置

9.1.1 機能について

- 移動走行、拾い上げ作業、排出作業の各作業状態に応じて、エンジン出力を効率よく使用できるように、エンジン回転を制御します。
- 移動走行時は、主変速レバーの増減速操作に応じて、エンジン回転を自動的に調整します。
- 作業時、エンジン回転を定格回転に保ちます。
- 停止時（非作業時）は、エンジン回転を約 2000rpm に保ちます。
- 停止時（非作業時）に、駐車ブレーキペダルを踏込むと、エンジン回転をアイドリングにします。
- 停止時（非作業時）に、IQ アクセルスイッチを「切」にすると、エンジン回転をアイドリングにします。

9.1.2 取り扱い時の注意事項

⚠ 注意

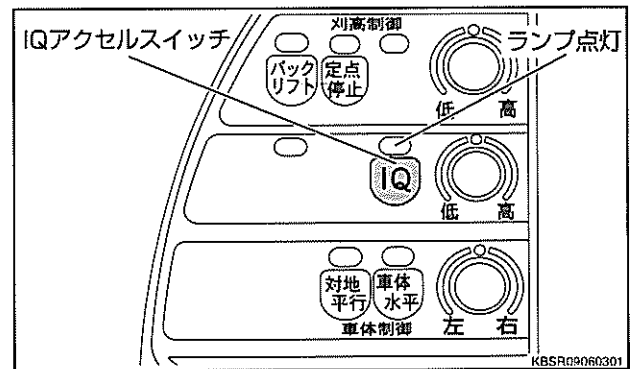
- 点検・整備等で、ピックアップ部を低い回転で運転する場合や、トラックへの積み込み時は、IQ アクセルスイッチを押して「切」にして、アクセルレバーで回転調整してください。
※ 守らないと、アクセルの制御が効いてエンジン回転が上がり、傷害事故を引き起こす原因となります。

《 参考 》

拾い上げ作業中に、エンジン回転が作業回転域を下回る場合は、エンジンが過負荷となっています。エンジン回転が作業回転域を保つように主変速レバーを操作して使用してください。

9.1.3 操作のしかた

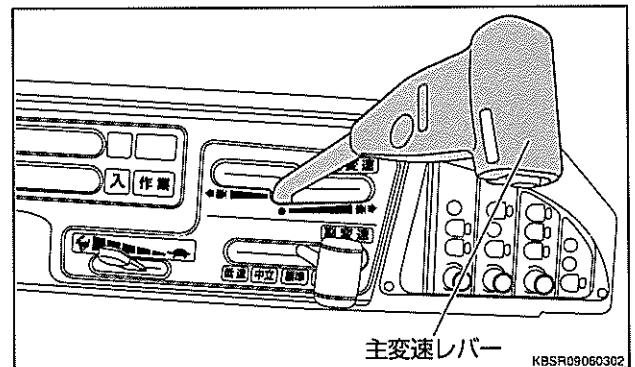
- (1) IQ アクセルスイッチを押して「入」（ランプ点灯）にしてください。



《 参考 》

エンジン回転が 2000rpm に保たれます。

- (2) 移動走行時は、主変速レバーを操作してください。



《 参考 》

レバーの操作量に応じてエンジン回転が調整されます。

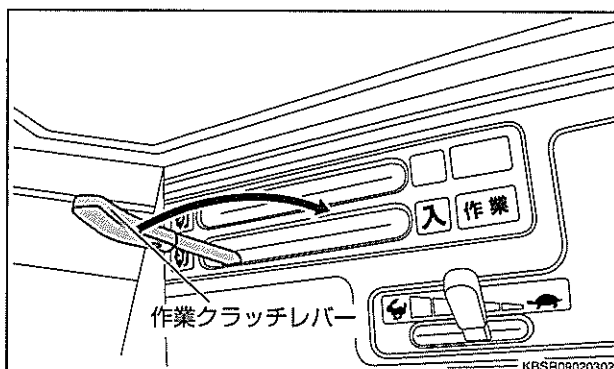
9.2 車体水平および平行制御装置

9.2.1 機能について

- 車高調節スイッチで、セットした車高を保って水平に制御します。
- 車体水平モードは、機体が傾斜した場合に、左右方向の傾斜を自動的に修正し、機体を水平に保つので出来上がったバールの形状が安定します。

9.2.2 操作のしかた

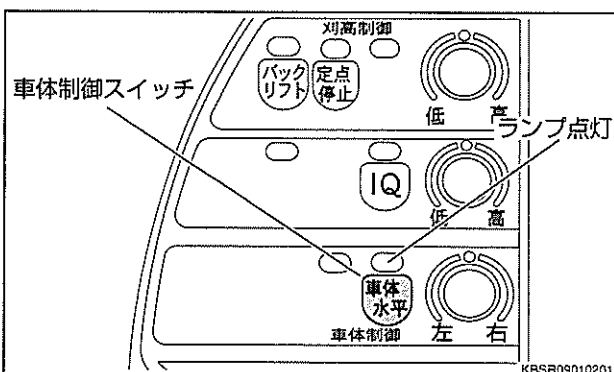
(1) 作業クラッチレバーを「入」位置にしてください。



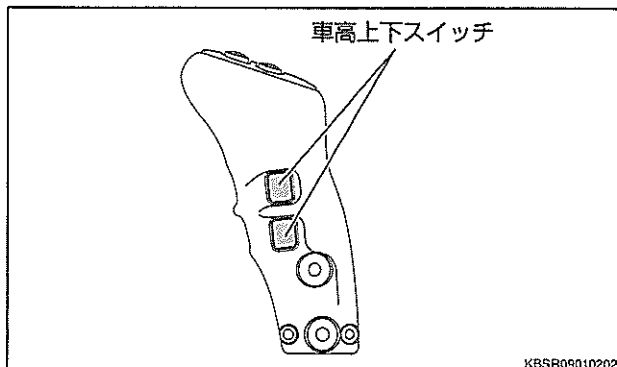
(2) 車体制御スイッチを、ほ場条件に合わせて「入」（ランプ点灯）にします。

セットは、次の表を参考にしてください。

ほ場条件	車体制御スイッチ
	車体水平
傾斜地	○

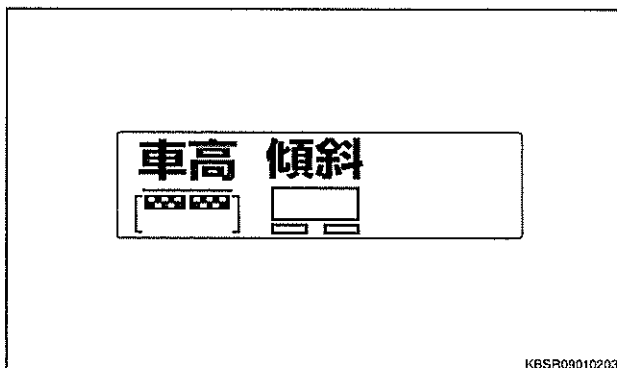


(3) 車高上下スイッチで、ほ場条件に合わせて車高の調節してください。

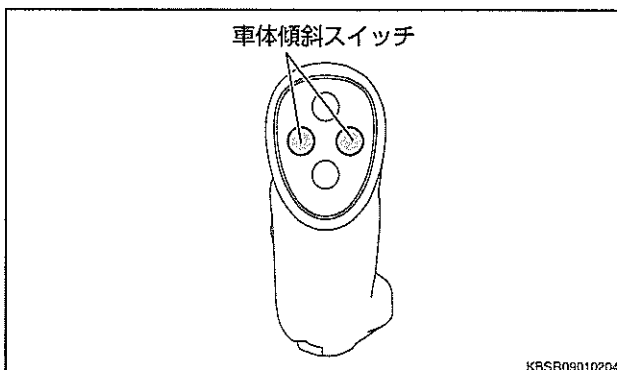


《参考》

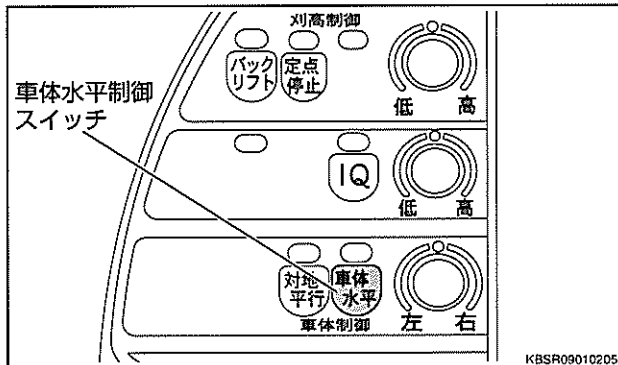
車高上下スイッチを操作すると、マルチアイに車高の状態が表示されます。



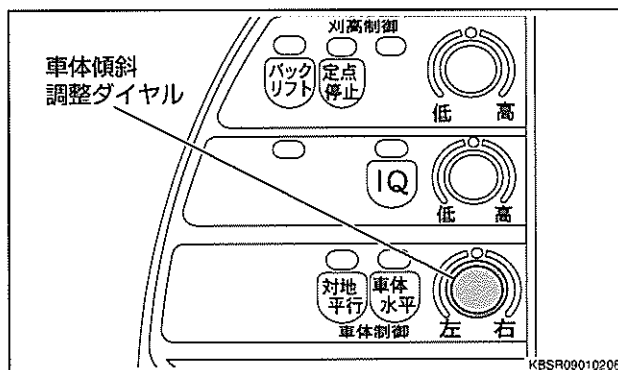
(4) 車体傾斜スイッチ（パワーステアリングレバー上面）を操作すると、車体水平制御スイッチの「入」「切」に関わらず、任意の方向に機体を傾けることができます。



- (5) 車体水平制御スイッチが「入」の場合は、車体傾斜スイッチを放すと水平に戻ります。



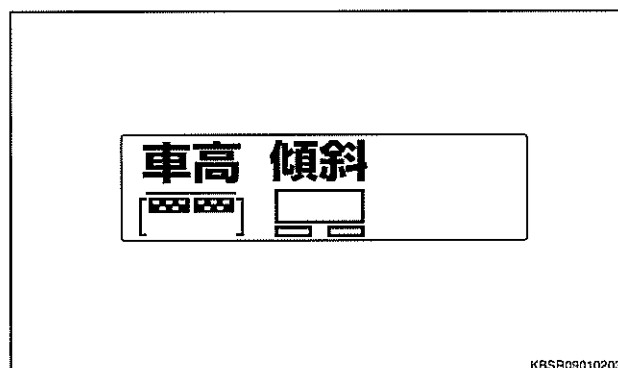
- (6) 車体水平制御中に、車体傾斜調整ダイヤルを「左」傾・「右」傾方向に回すと、本機の傾きを微調整でき、この姿勢を保った状態で、水平制御します。



《参考》

車体傾斜スイッチを操作すると、コンビネーションメータ内のマルチアイ画面に機体の傾きが表示されます。

水平にする場合等に、ご利用ください。



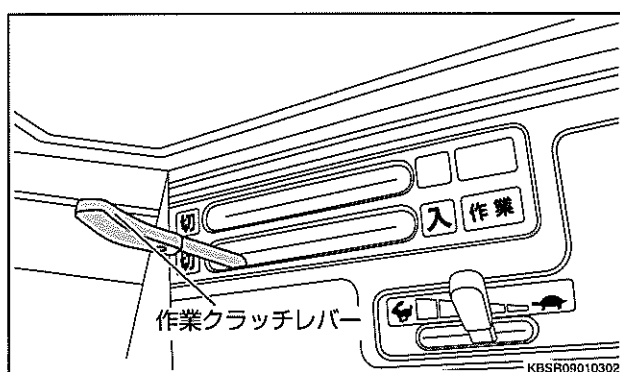
9. 自動装置について

9.2.3 取り扱い時の注意事項

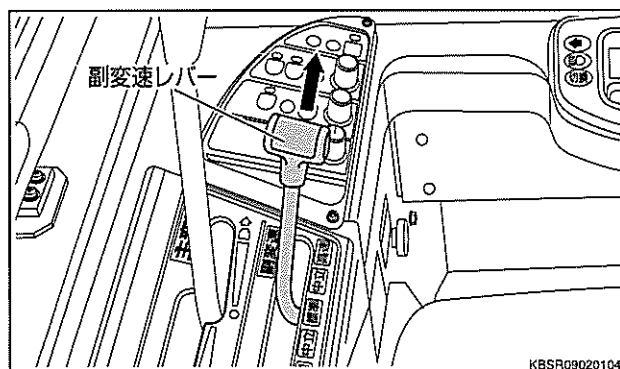
▲ 注意

- 移動走行時、傾斜地走行時、車両等による運搬および積み込み時は、車高調節スイッチを「下げ」位置に操作し、必ず車高を最も下がった位置にしてください。
※ 守らないと、自走ロールベアが転倒するおそれがあります。

- (1) 作業クラッチレバーを「切」位置、または車体水平スイッチを「切」にしたとき、機体を地面と平行にしてください。

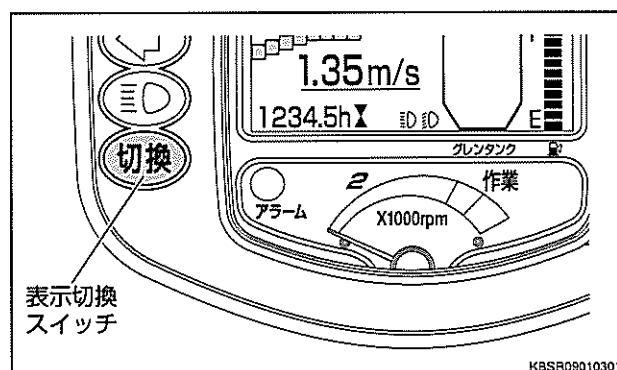


- (2) 路上走行時等で、副変速が「高速」位置の状態では走行速度が速くなると、自動的に車高が最も下がった位置になります。



- (3) 機体が左右に大きく傾くと、ブザーが断続的になります。

- (4) 車高調節スイッチ、車体傾斜スイッチ操作時に、マルチアイ画面に表示される車体の状態は、スイッチ操作後5秒間で元の表示に戻りますが、表示切換スイッチを押すことにより、所定の画面に固定することができます。



9.3 刈高さ制御装置

9.3.1 機能について

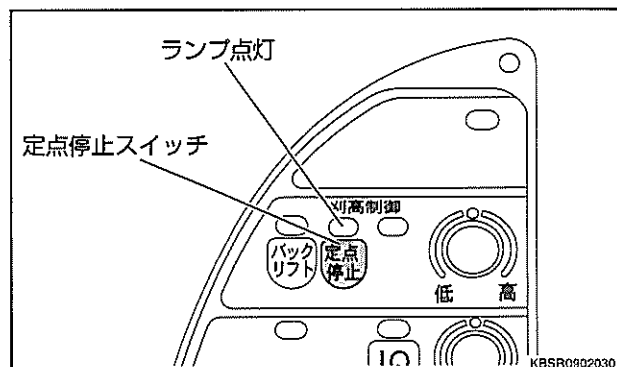
定点停止スイッチは、ピックアップ部の高さをダイヤルで設定した刈高さに制御します。

9.3.2 取り扱い時の注意事項

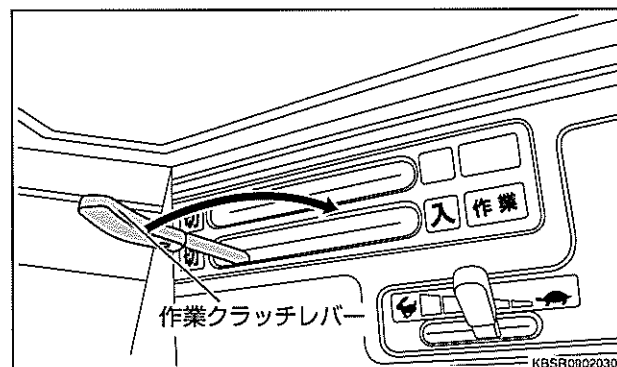
- うねほ場での横作業等、機体ピッチング方向の動きが激しいほ場では、使用できません。
- ピックアップ部が下がり始めたら、すぐにパワーステアリングレバーを「中立」位置に戻してください。そのまま「下げ」方向に操作し続けると、手動優先のためピックアップ部が下がりすぎて、地面に突っ込む場合があります。
- 定点停止制御で拾い上げる前に、パワーステアリングレバーで高さを合わせた後に、ダイヤル操作した場合、一時的に高さが変わらない場合があります。このときは、一度ダイヤルを大きく回す等して、ダイヤル位置とピックアップ部の高さを一致させてから、所定の高さになるようダイヤルを操作してください。

9.3.3 操作のしかた

- (1) 定点停止スイッチを押して「入」（ランプ点灯）にしてください。

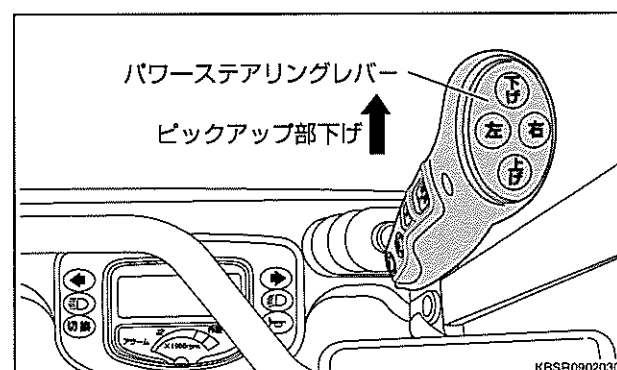


- (2) 作業クラッチレバーを「入」位置にしてください。



- (3) パワーステアリングレバーで、ピックアップ部を下げてください。

ピックアップ部は、刈高さ制御装置が作動して、一定の高さで止まります。

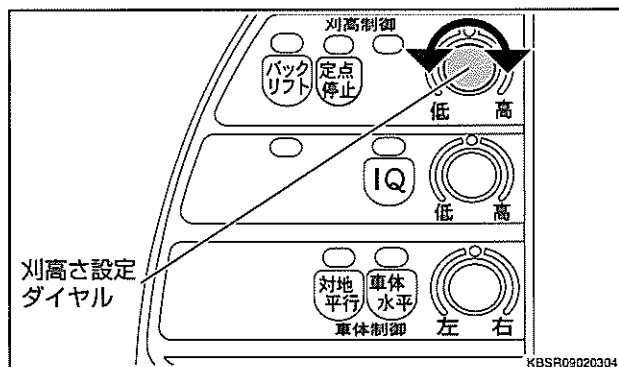


9. 自動装置について

(4) 刈高さ設定ダイヤルで、ピックアップを地面から3～6cm程度、定点停止スイッチ「入」の場合、15～40cm程度の高さにセットすることができます。

[1] 左に回す…低くなる

[2] 右に回す…高くなる



9.4 バックリフト（自動上昇装置）

9.4.1 機能について

ピックアップ部が下がったままで、後進すると、ピックアップ部を自動的に一定量上昇させます。

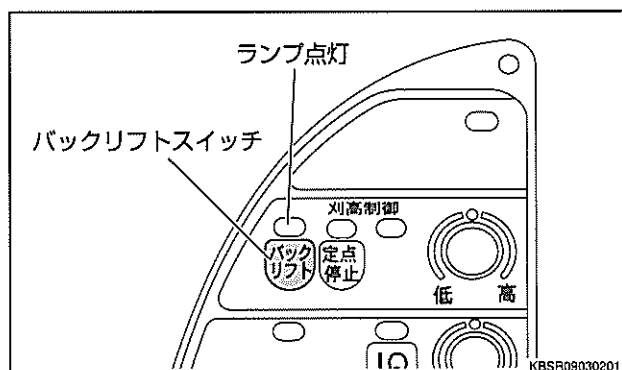
9.4.2 操作のしかた

▲ 注意

- 作業時以外はバックリフトスイッチを押して「切」にしてください。

※ 守らないと、路上や納屋の中での点検・整備中にピックアップ部が自動上昇して、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- (1) バックリフトスイッチを押して、「入」（ランプ点灯）にしてください。



《 重要 》

- ピックアップ部の上下は手動優先です。

9. 自動装置について

9.5 センサチェックモード（コンビネーションメータ）

9.5.1 機能について

自動制御装置に関するセンサやスイッチの作動を、ブザーの音で容易にチェックすることができます。エンジンの運転中は、センサチェックモード画面の表示は出ません。

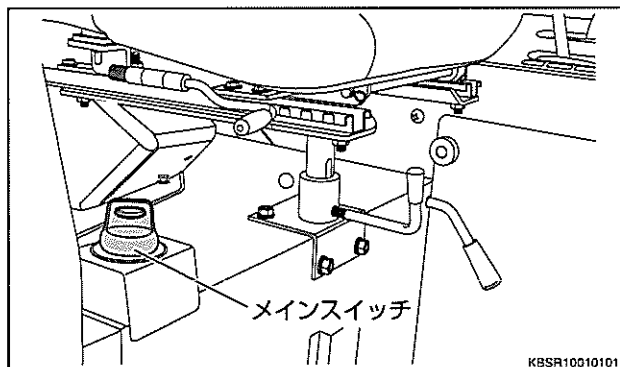
エンジン停止のしかた（59 ページ）

9.5.2 センサチェックのしかた

《 参考 》

メインスイッチが「入」位置の状態では、センサチェックモードの確認・調整をすることができます。

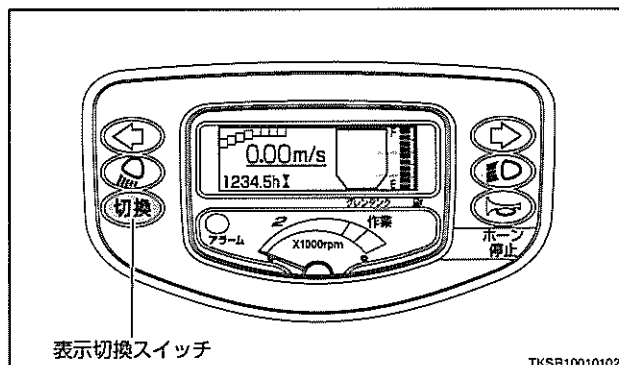
(1) メインスイッチを「入」位置にしてください。



《 参考 》

エンジン運転中は、「センサチェックモード」画面は表示されません。

(2) マルチアイが通常画面の状態では、表示切換スイッチを押すと、「チェックモード」画面が表示されます。

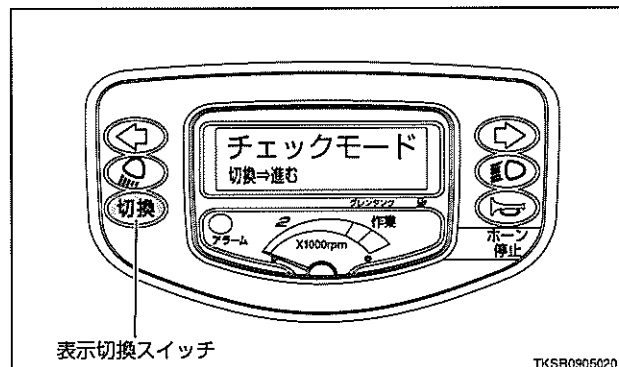


《 参考 》

「チェックモード」画面で、表示切換スイッチを押していくと、順次表示が切り換わり、通常画面に戻ります。

(3) 画面が「チェックモード」の状態では、表示切換スイッチを押すと、各センサやスイッチ・レバーををチェックすることができます。

正常な場合は、センサを作動させた時や、スイッチ・レバーを切り換えた時に、ブザーが鳴ります。



《 重要 》

ブザーが鳴らない場合は、該当する部品のケーブルの接続確認と、関係する部品のヒューズ切れをご確認の上、「お買い上げ先」にご相談ください。

9.5.3 センサのチェック項目

◆ 刈高さ制御装置・バックリフト装置

部品	こうすればブザーが鳴ります
定点停止スイッチ	スイッチを「入」・「切」します。
バックリフトスイッチ	スイッチを「入」・「切」します。
高さ設定ダイヤル	ダイヤルを「低」・「高」の各方向に回します。
パワーステアリングレバー	レバーを「前」・「後」します。
作業クラッチレバー	レバーを「入」・「切」します。
HST ポジションセンサ	主変速レバーを「前進」⇔「後進」します。

◆ アクセル制御装置（I Q アクセル）

部品	こうすればブザーが鳴ります
I Q アクセルスイッチ	スイッチを「入」・「切」します。
I Q 調整ダイヤル	ダイヤルを「低」・「高」の各方向に回します。
HST ポジションセンサ	主変速レバーを「前進」⇔「後進」します。
アクセルポジションセンサ	アクセルレバーを「速」⇔「遅」します。
作業クラッチレバー	レバーを「入」・「切」します。

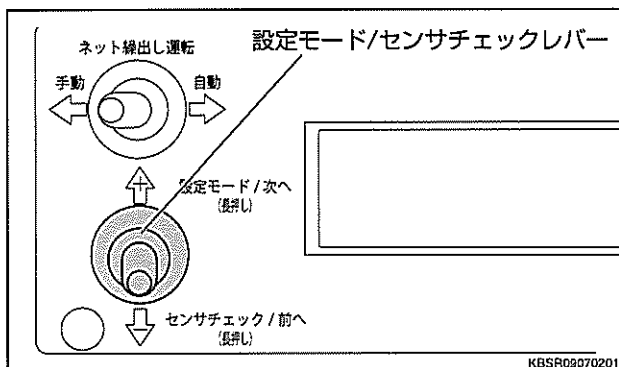
9.6 センサチェックモード（コントロールボックス）

9.6.1 機能について

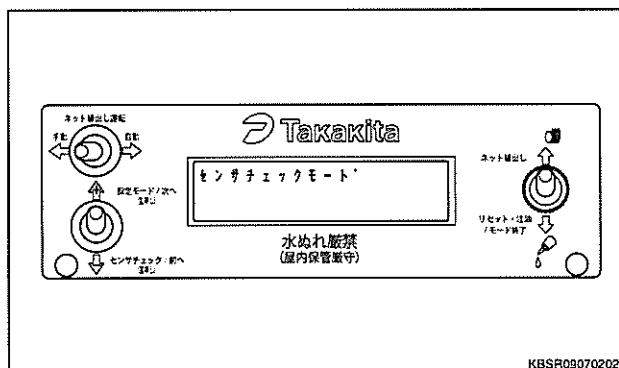
チャンバー部のセンサの作動を、ブザーの音で容易にチェックすることができます。

9.6.2 センサチェックのしかた

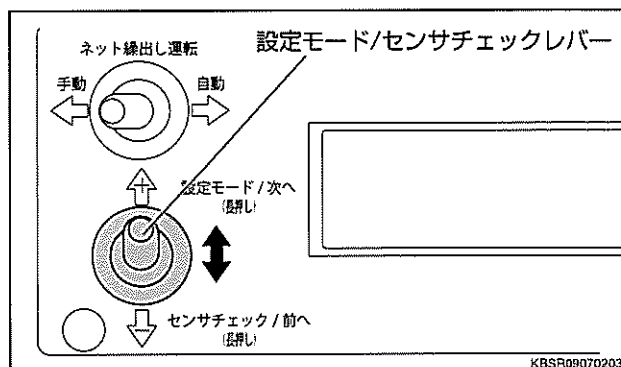
- (1) 通常表示時に、設定モード/センサチェックレバーを「センサーチェック/前へ」側に長押ししてください。



- (2) 「センサーチェックモード」と表示されます。



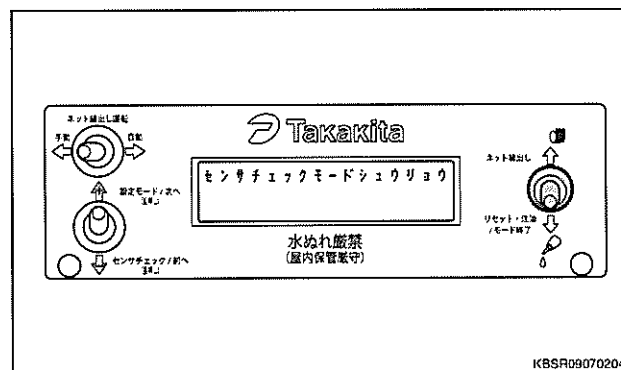
- (3) 設定モード/センサチェックレバーを、「設定モード/次へ」側に長押しすると、各設定項目へ移行することができます。



《参考》

センサチェックモード中、「ON」表示すると、ブザーが鳴ります。

- (4) ネット繰出し/リセット・注油/モード終了レバーを「リセット・注油/モード終了」側へ押すと、「センサーチェックモードシュウリョウ」と表示され、初期画面へ戻ります。



9.6.3 センサのチェック項目

ディスプレイ表示	こうすればブザーが鳴ります
ネットクリタTM シ SW ON	各センサを反応させると表示が「ON」になり、ブザーが鳴ります。
シTM トTM ウ ネットクリタTM シ SW ON	
チャンパTM - ハイ SW ON	
カム 1 SW ON	
カム 2 SW ON	
カウント SW ON	0.00 ~ 5.00V の範囲で、数値が変動します。 現在のカンチキョリの値以上になったときにブザーが鳴ります。
マンリョウカンチ SW 1.55V	

10. メンテナンスモード

10.1 メンテナンスモードについて

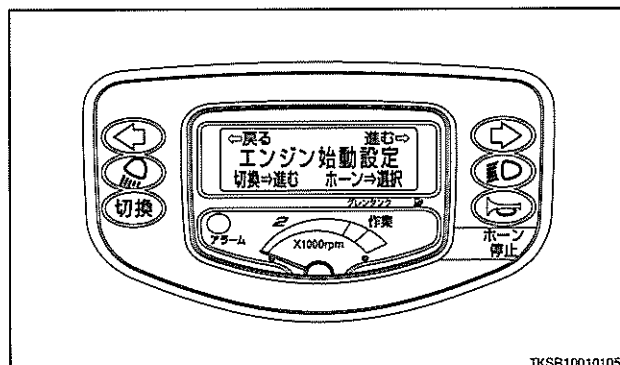
10.1.1 メンテナンスモードの内容

- メンテナンスモードには、エンジンの始動をキー入力で管理できる「エンジン始動設定」や、画面表示が見えづらい場合に、液晶画面のコントラスト調整のできる「液晶コントラスト調整」や、日常点検や、格納点検の情報を確認することのできる「メンテナンス情報」があります。
- 各モードの操作は、メインスイッチが「入」位置のときに、各モードの確認・調整をすることができます。

10.1.2 各モードについて

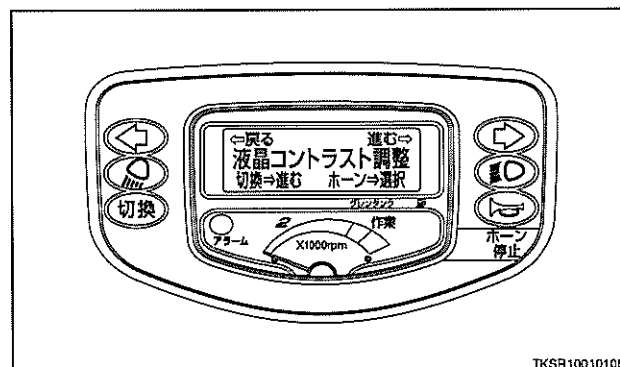
(1) エンジン始動設定 (98 ページ)

メインスイッチ操作だけでは、エンジンの始動ができないように設定することができます。



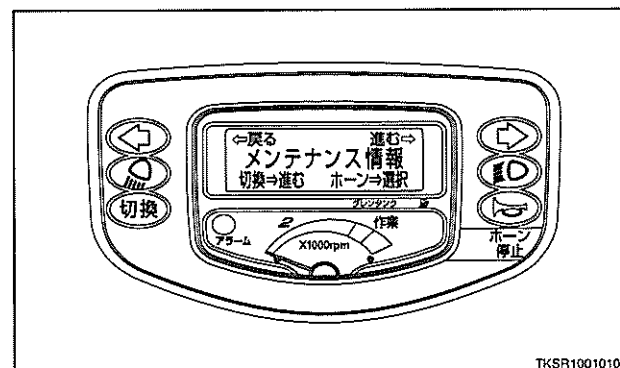
(2) 液晶コントラスト調整 (102 ページ)

真夏・真冬時、画面表示が見づらい場合に、マルチアイの液晶コントラストの調整することができます。



(3) メンテナンス情報 (104 ページ)

日常点検・格納点検・メンテナンス情報を、確認することができます。

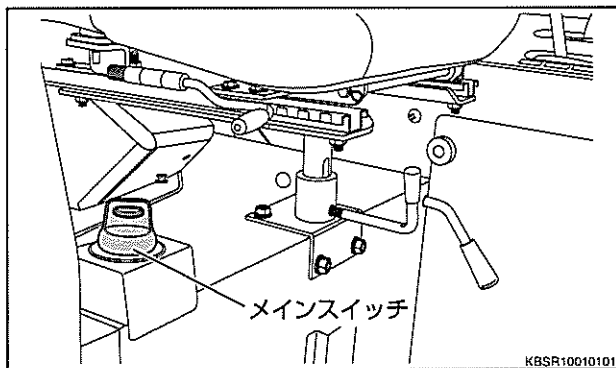


10.1.3 メンテナンスモードの切り換えかた

《参考》

メインスイッチが「入」位置で、メンテナンスモードの確認・調整をすることができます。

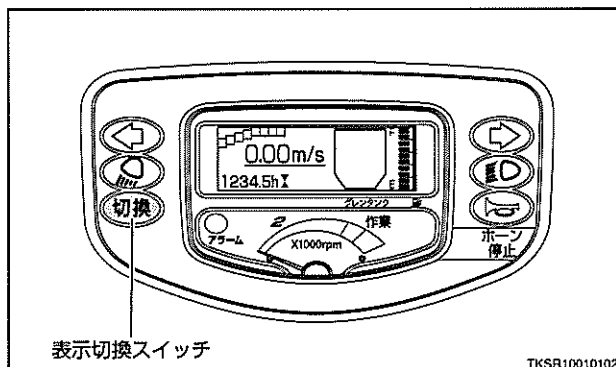
(1) メインスイッチを「入」位置にしてください。



《参考》

エンジン始動中は、「メンテナンスモード」画面は表示されません。

(2) マルチアイが通常画面の状態、表示切換スイッチを押すと、「メンテナンスモード」画面が表示されます。

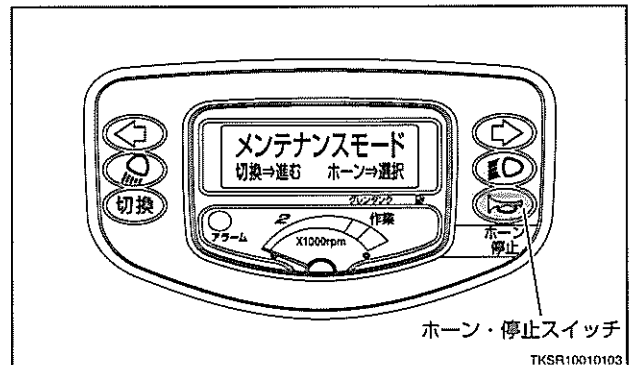


《参考》

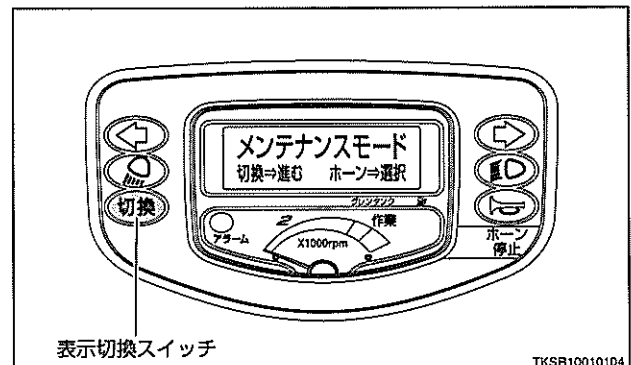
「メンテナンスモード」画面で、表示切換スイッチを押していくと、順次表示が切り換え、通常画面に戻ります。

(3) 「メンテナンスモード」画面で、ホーン・停止スイッチを押してください。

ホーン・停止スイッチを押すと、「エンジン始動設定」画面に切り換わります。



(4) 「メンテナンスモード」画面で、表示切換スイッチを押すたびに、メンテナンスモード内の画面表示が切り換ります。



《参考》

次の操作を行うことで、メンテナンスモードを終了することができます。

- [1] 「モードを終了しますか？」の画面で、ホーン・停止スイッチを押す。
- [2] メインスイッチを「切」位置にする。
- [3] メンテナンスモード画面で、表示切換スイッチを押していく。

10. メンテナンスモード

10.2 エンジン始動設定と始動のしかた

▲ 注意

- エンジン始動設定をした場合でも、自走ロールベアラから離れるときは、メインスイッチキーを抜いて保管してください。

※ 守らないと、簡易的なエンジン始動牽制機能のため、盗難等の原因になります。

10.2.1 エンジン始動設定のしかた

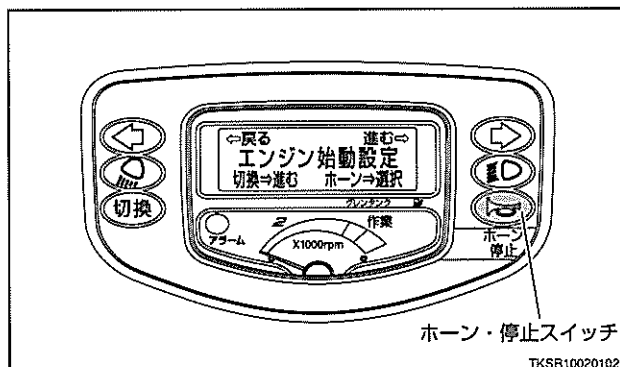
《参考》

メインスイッチ操作だけでは、エンジンの始動ができないように、設定することができます。

- (1) 「エンジン始動設定」画面を表示させます。

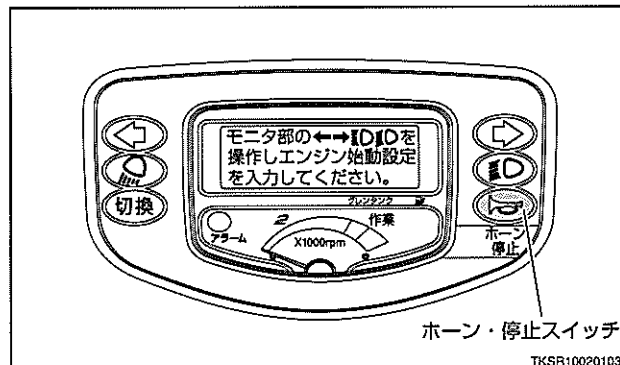
(97 ページ)

- (2) 「エンジン始動設定」画面で、ホーン・停止スイッチを押してください。



- (3) エンジン始動設定の案内画面が表示されます。

案内画面でホーン・停止スイッチを押すと、エンジン始動設定キーの入力画面が、表示されます。



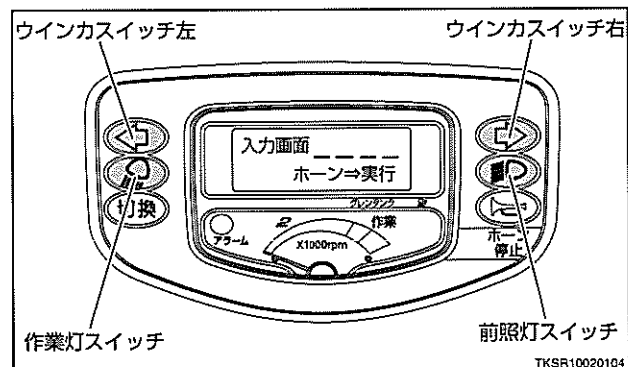
エンジン始動設定キーは、4つのスイッチの組み合わせにより、任意に選択することができます。

エンジン始動設定キーの入力は、

- [1] ウィンカスイッチ左……◀
- [2] ウィンカスイッチ右……▶
- [3] 作業灯スイッチ……💡
- [4] 前照灯スイッチ……🔦

の4つのスイッチを使用します。

スイッチを押すと、押されたスイッチの画像が表示されます。



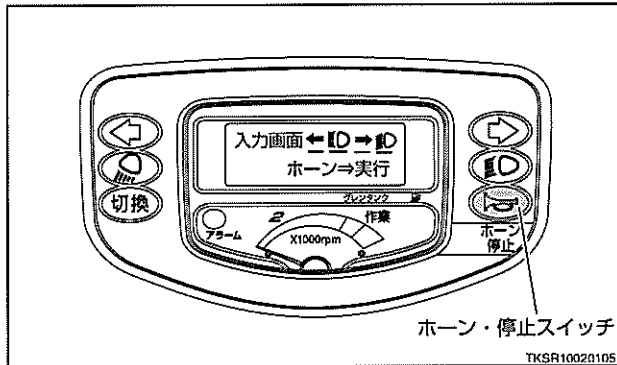
《重要》

- 設定したスイッチの順番を忘れると、次回からエンジンの始動が、できなくなります。
- エンジン始動設定キーを忘れた場合は、「お買い上げ先」に、御相談ください。

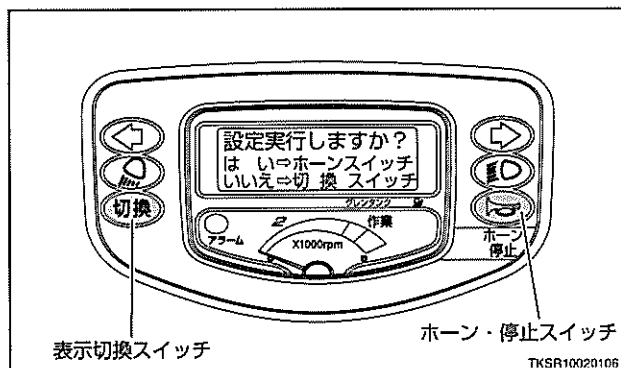
《参考》

エンジン始動設定キーのスイッチ入力数は、1～4までです。

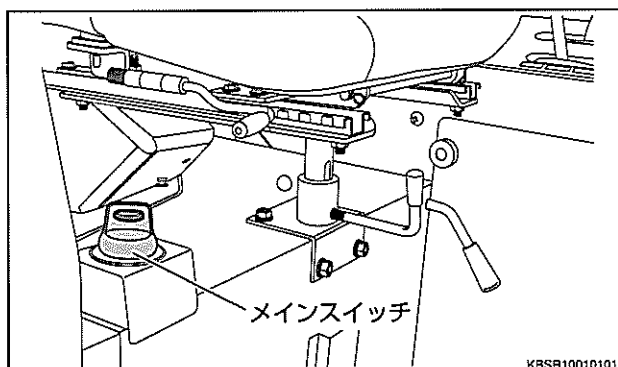
- (4) スイッチ入力後、入力画面でホーン・停止スイッチを押すと、設定確認画面が表示されます。



登録する場合は、設定確認画面で、ホーン・停止スイッチを押すと設定が記憶され、「設定完了です」画面が表示され、通常画面へ戻ります。登録を中止する場合は、設定確認画面で、表示切換スイッチを押すと登録は中止され、「エンジン始動設定」画面へ戻ります。



- (5) メインスイッチを「切」位置にしてください。



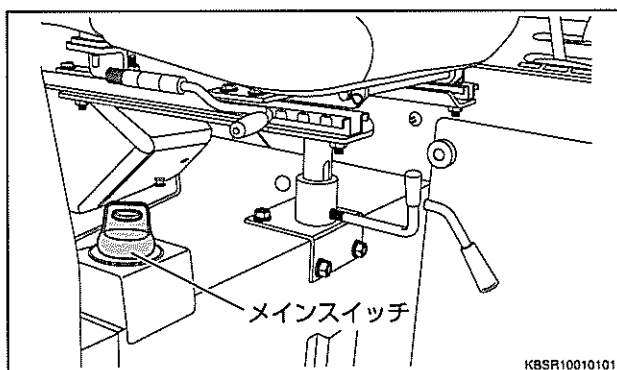
10. メンテナンスモード

10.2.2 エンジン始動設定時のエンジン始動のしかた

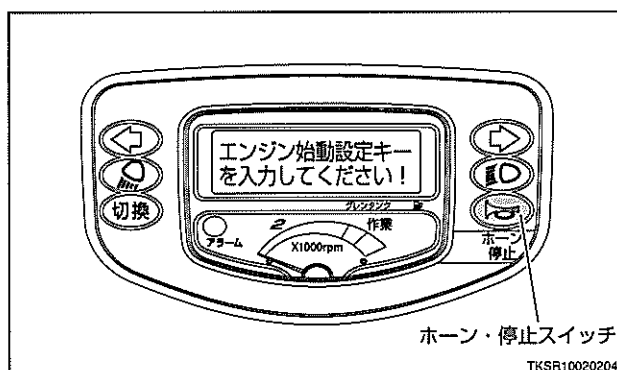
▲ 警告

- 始動する前に、周囲の人にホーンで合図してください。
※守らないと、機械に巻き込まれる等、傷害事故を引き起こす原因になります。
- 保護カバー類が取り付けられているか確認してください。外れている場合は、必ず取り付けてください。
※守らないと、機械に巻き込まれる等、傷害事故を引き起こす原因になります。
- 主変速レバーを「中立」位置、各クラッチレバーを「切」位置にして始動してください。
※守らないと、機械に巻き込まれる等、傷害事故を引き起こす原因になります。
- 屋内で始動する場合は、窓や戸を開け、十分に換気をしてください。
閉め切った屋内等ではエンジンを始動しないでください。
※守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあります。

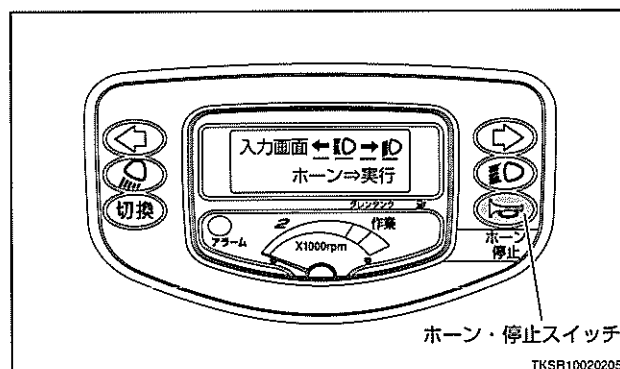
(1) メインスイッチを「入」位置にしてください。



(2) マルチアイに「エンジン始動設定キーを入力してください!」と画面に表示され、ホーン・停止スイッチを押すと、エンジン始動設定キーの入力画面が表示されます。



(3) エンジン始動設定キーを、登録した順番通りに入力し、ホーン・停止スイッチを押すと、エンジン始動牽制が解除され、エンジン始動が可能になります。



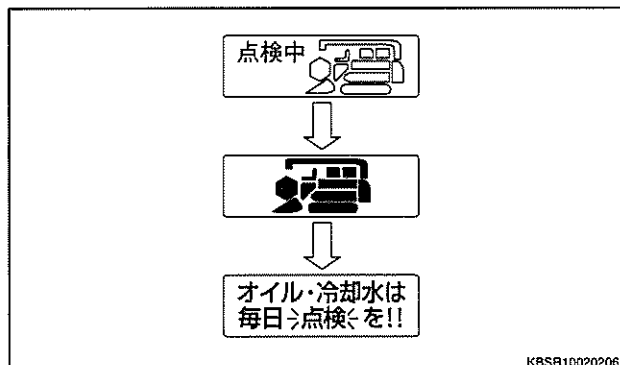
《重要》

- エンジン始動設定キーの入力を間違えると、「設定キーが違います」と表示され、メインスイッチを「切」位置にするまでブザーが鳴ります。
- エンジン始動設定キーは、エンジン始動牽制を解除するたびにリセットされるので、次もエンジン始動設定キーを設定する場合は、エンジン始動設定キーの登録を再度行ってください。
- エンジン始動設定キーを設定しない場合は、通常のエンジン始動方法と同じになります。

(4) 画面が順番に表示されます。

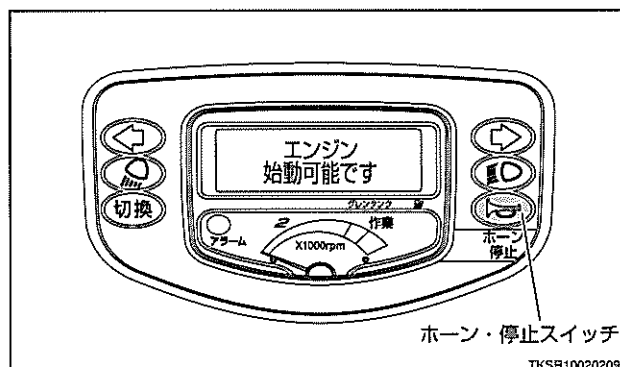
各センサー関係の点検確認をおこないます。

異常個所があれば、マルチアイに表示します。



(5) マルチアイに「エンジン始動可能です」と表示されたら、予熱完了です。

周囲に人がいないことを確認して、ホーンを鳴らしてください。



(6) 駐車ブレーキを強く踏み込んで、メインスイッチを「始動」位置にし、エンジン始動後は、アクセルレバーをゆっくり戻し、約5～10分間暖機運転をしてください。(56 ページ)

10. メンテナンスモード

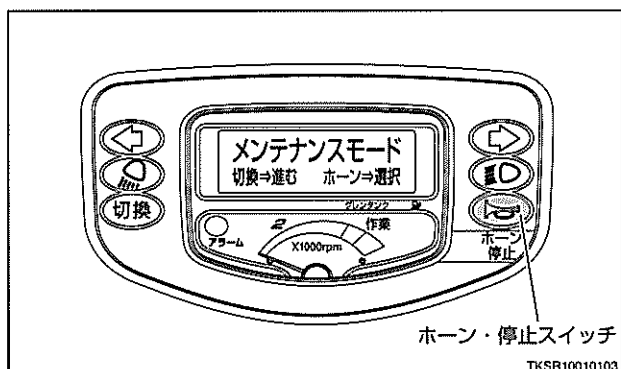
10.3 液晶コントラスト調整のしかた

《参考》

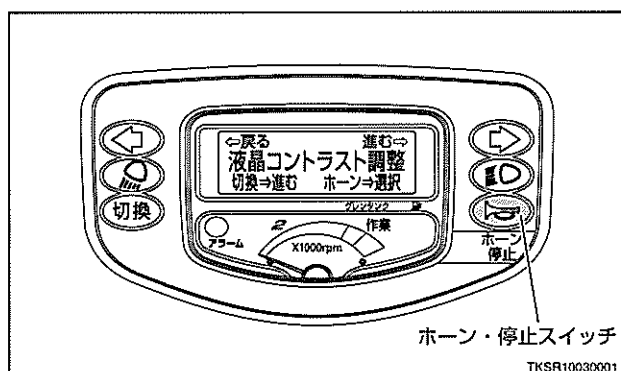
真夏・真冬時、画面表示が見づらい場合に、マルチアイのコントラストの調整をすることができます。

- (1) 「メンテナンスモード」画面を表示させます。
(97 ページ)

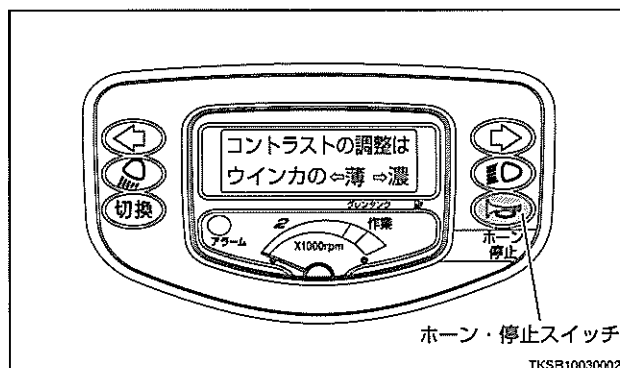
- (2) 「メンテナンスモード」画面で、ホーン・停止スイッチを2回押すと、「液晶コントラスト調整」画面になります。



- (3) 「液晶コントラスト調整」画面で、ホーン・停止スイッチを押すと、コントラスト調整の案内画面が表示されます。



- (4) コントラスト調整の案内画面で、ホーン・停止スイッチを押すと、「液晶コントラスト調整画面」が表示されます。



コントラスト調整の入力は、

[1] ウインカスイッチ左……薄

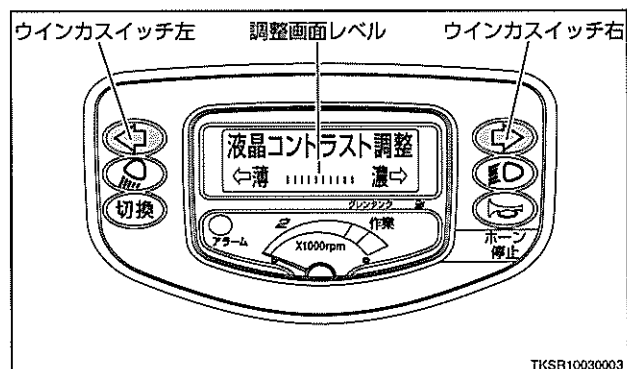
[2] ウインカスイッチ右……濃

の2つのスイッチを使用します。

ウインカスイッチ左を押すと、コントラストが薄くなります。

ウインカスイッチ右を押すと、コントラストが濃くなります。

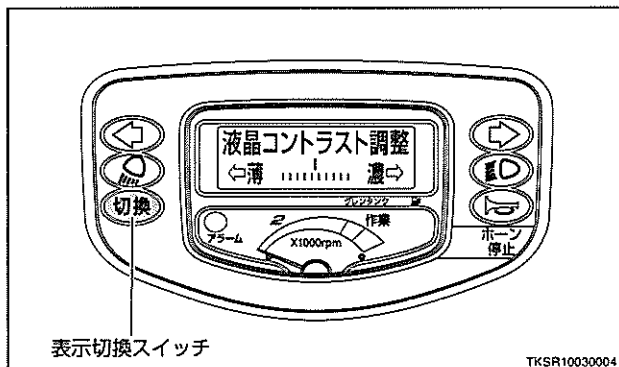
スイッチを押すたびに、調整画面のレベルが移動し、コントラストが変化していきます。



《参考》

コントラストの調整には、時間が掛かる場合がありますので、画面の状態を確認しながらレベルの調整を行ってください。

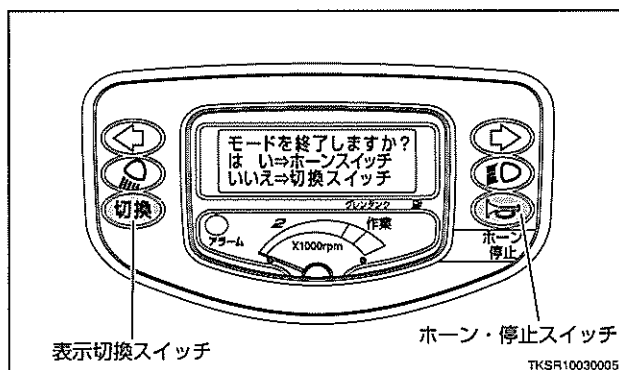
- (5) コントラスト調整後、「液晶コントラスト調整画面」で、表示切換スイッチを押すと、設定確認画面が表示されます。



登録する場合は、設定確認画面で、ホーン・停止スイッチを押すと、設定が記憶され、通常画面へ戻ります。

登録を中止する場合は、表示切換スイッチを押すと、設定は中止され、「液晶コントラスト調整画面」へ換わります。

または、メインスイッチを「切」位置にすると、メンテナンスモードを終了します。



10. メンテナンスモード

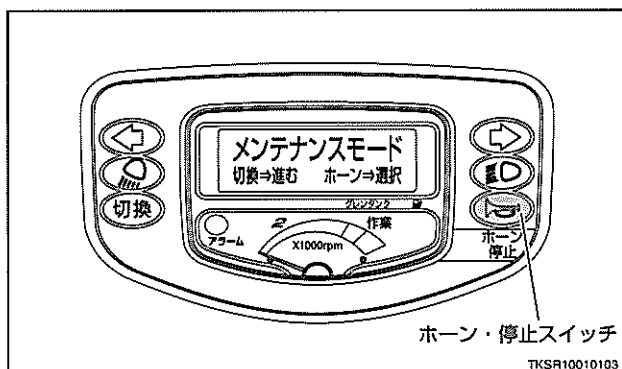
10.4 メンテナンス情報表示のしかた

《参考》

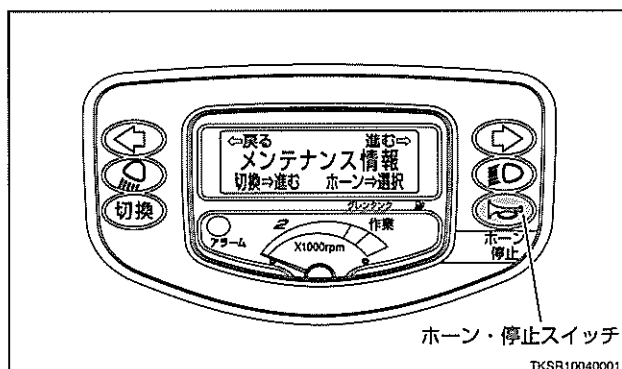
日常点検・格納点検・メンテナンス時間の確認
することができます。

- (1) 「メンテナンスモード」画面を表示させます。
(97 ページ)

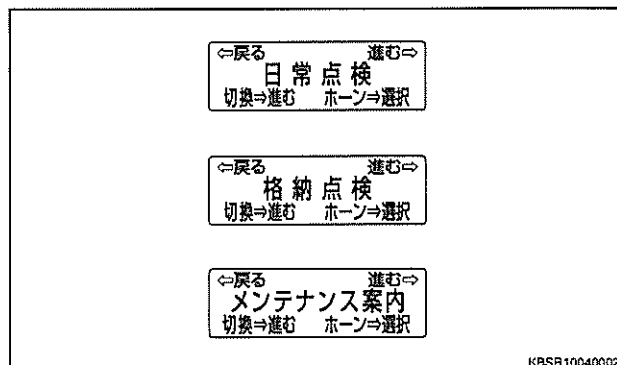
- (2) 「メンテナンスモード」画面で、ホーン・停止スイッチを3回押すと、「メンテナンス情報」画面になります。



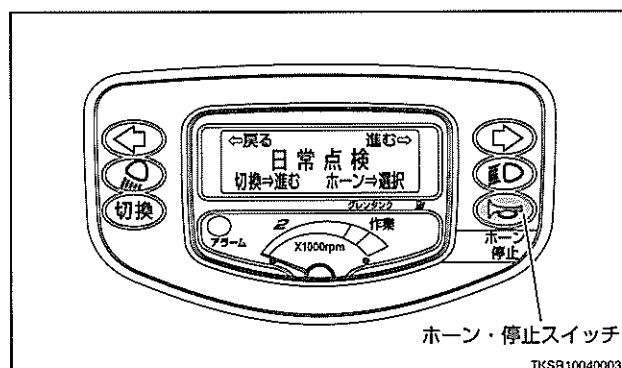
- (3) 「メンテナンス情報」画面で、ホーン・停止スイッチを押してください。



- (4) 画面表示が切り換り、表示切換スイッチを押すたびに、各案内画面に切り換ります。



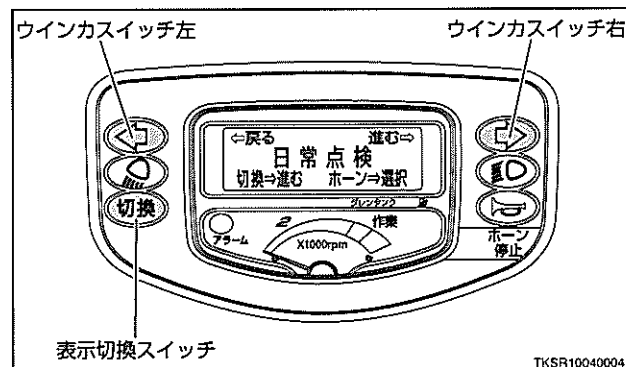
- (5) 各案内画面で、ホーン・停止スイッチを押すと、各メンテナンスの案内画面が表示されます。



画面表示の切り換えは、

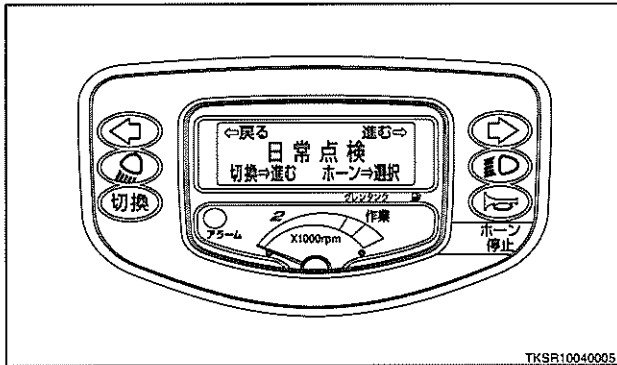
- [1] ウィンカススイッチ左……戻る
 - [2] ウィンカススイッチ右……進む
 - [3] 表示切換スイッチ……進む
- の3つのスイッチを使用します。

スイッチを押すたびに、「日常点検」、「格納点検」、「メンテナンス案内」の画面に切り換ります。



- (6)「日常点検」画面は、日常点検の簡易案内を確認することができます。

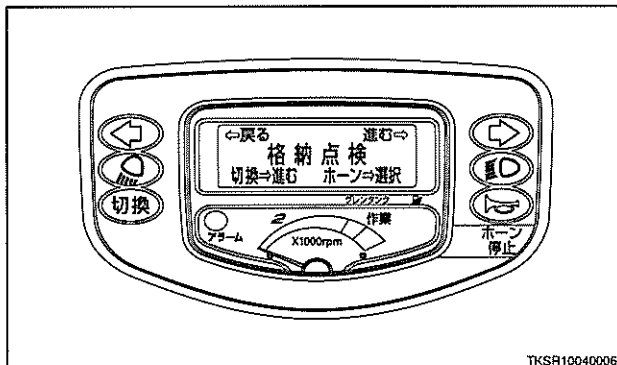
日常点検 (140 ページ)



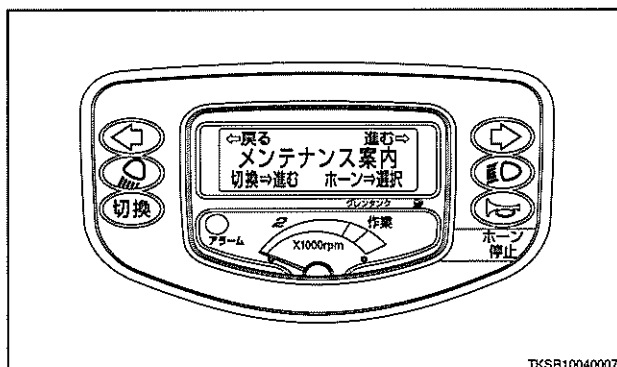
- (7)「格納点検」画面は、格納点検の簡易案内を確認することができます。

日常の格納点検 (193 ページ)

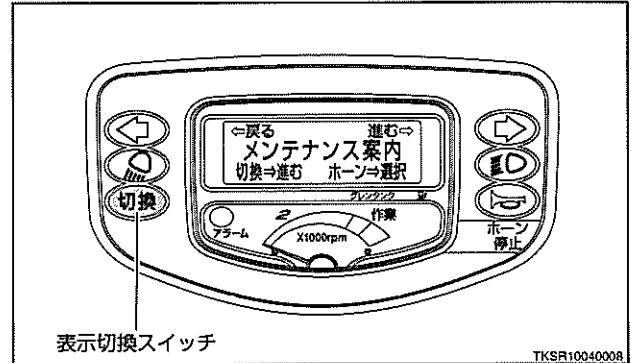
長期の格納点検 (195 ページ)



- (8)「メンテナンス案内」画面で、案内済み時間の確認と、次回の定期点検時間の確認ができます。

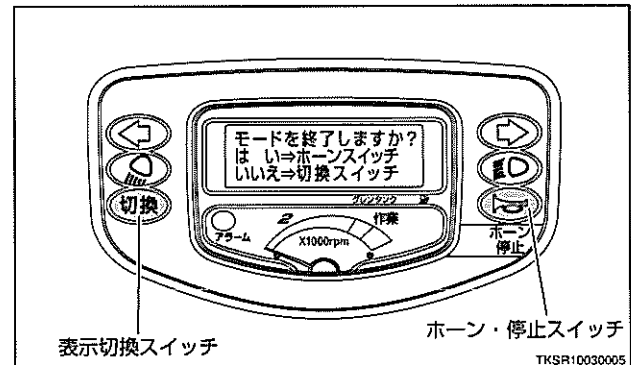


- (9)「メンテナンス案内」画面で、表示切換スイッチを押すと、「モードを終了しますか？」画面が表示されます。



モードを終了したい場合は、「モードを終了しますか？」画面で、ホーン・停止スイッチを押すと、通常画面へ戻ります。

モードを終了しない場合は、「モードを終了しますか？」画面で、表示切換スイッチを押すと「メンテナンス情報」画面へ戻ります。

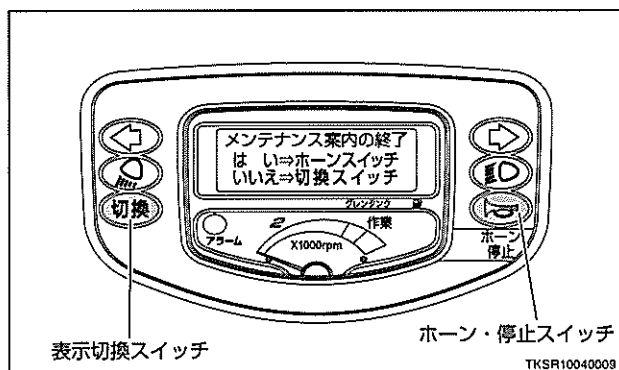


10. メンテナンスモード

(10) 各案内画面の最後に、「メンテナンス案内の終了」画面が表示されます。

モードを終了する場合は、「メンテナンス案内の終了」画面で、ホーン・停止スイッチを押すと、通常画面へ戻ります。

モードを終了しない場合は、「メンテナンス案内の終了」画面で、表示切換スイッチを押すと「メンテナンス情報」画面へ戻ります。

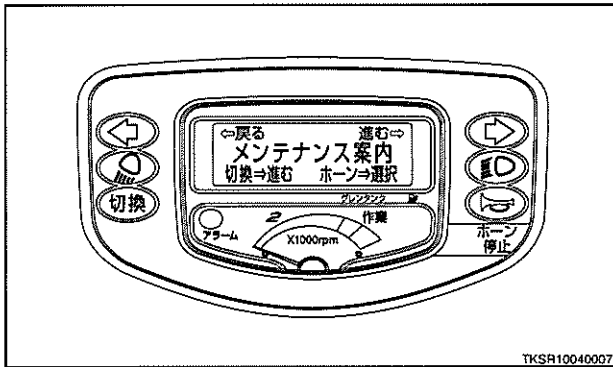


10.5 メンテナンス案内について

《 参考 》

各部の定期点検の時間が近くなると、メインスイッチ「入」位置のときに、マルチアイに「メンテナンス案内」画面が表示されます。

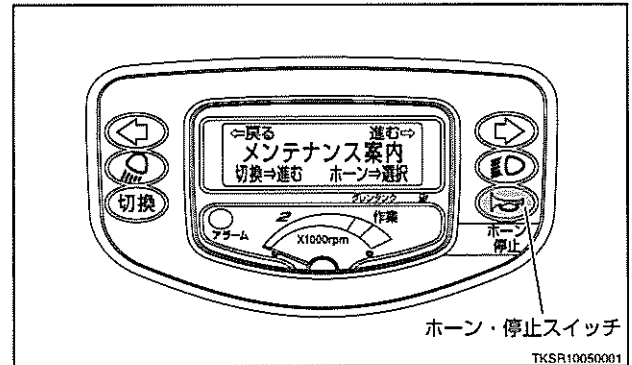
- (1)「メンテナンス案内」画面は、定期点検時間の5時間前にメインスイッチを「入」位置にした時に、マルチアイに表示されます。



《 参考 》

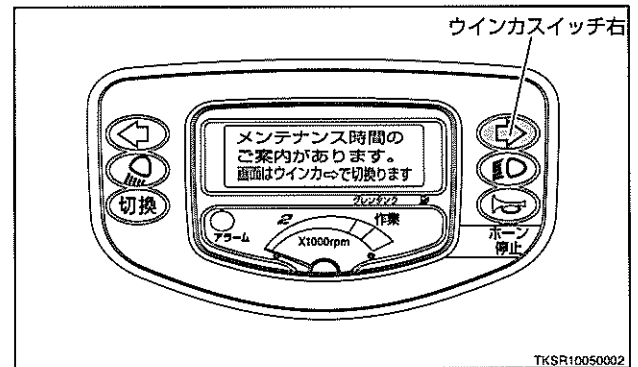
作業中に、アワメータが点検時間の5時間前に達した場合は、エンジン停止後、次のメインスイッチ「入」位置のときに、マルチアイに「メンテナンス案内」画面が表示されます。

- (2)「メンテナンス案内」画面で、ホーン・停止スイッチを押すと、各メンテナンスの案内情報が表示されます。



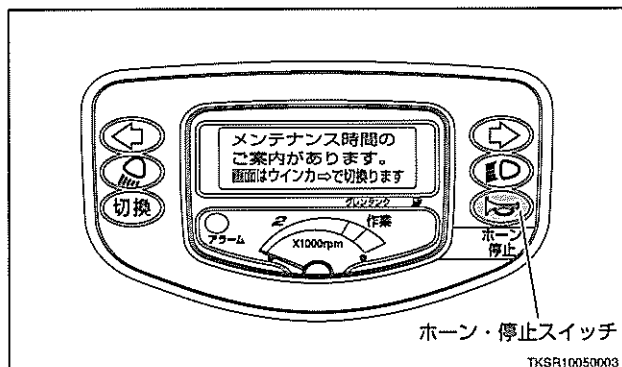
画面表示の切り換えは、

- [1] ウィンカススイッチ右……進むのスイッチを使用します。

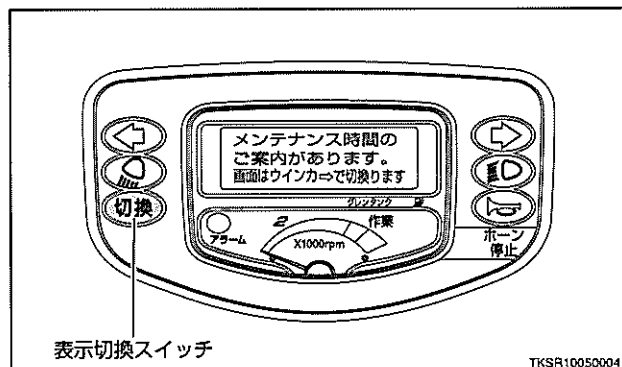


10. メンテナンスモード

- (3) メンテナンス案内の確認を終了するには、各メンテナンスの案内情報が表示された状態で、ホーン・停止スイッチを押すと、「次回定期点検時間毎に表示」が出なくなります。



表示切換スイッチを押すと、次のメインスイッチ「入」位置のときに、再度「メンテナンス案内」の確認することができます。



定期点検の詳細については
13章「点検整備」(140 ページ)を参照してください。

10.6 メーカーセッテイモードについて

10.6.1 メーカーセッテイモードの内容

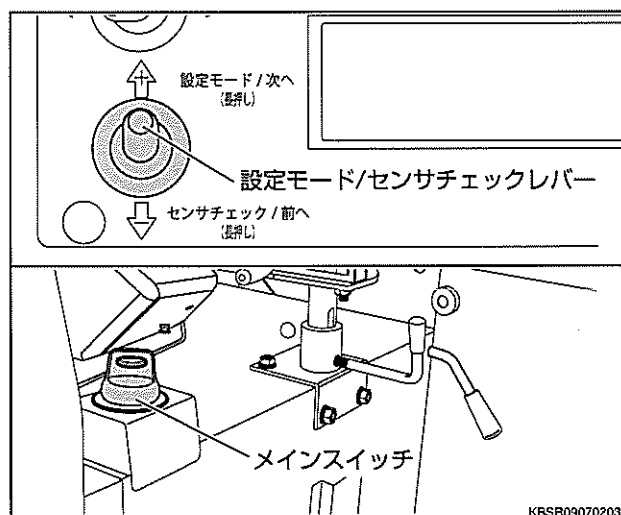
出荷時の設定から、一部の設定項目のみを、変更することができます。

《重要》

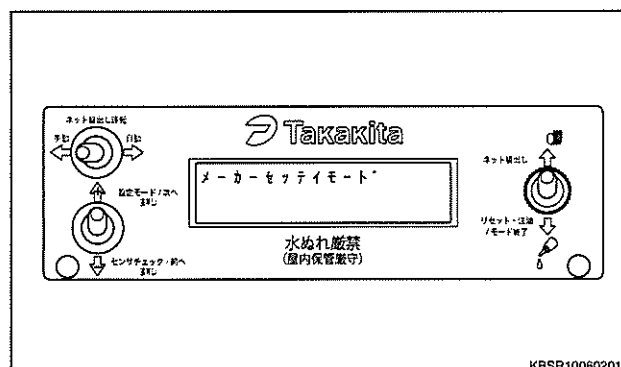
- 設定を変更すると、本機が不調になるおそれのある項目があります。
- 設定を変更したい場合は、「お買い上げ先」にご連絡してください。

10.6.2 メーカーセッテイモードへの切り換えかた

- (1) 設定モード / センサチェックレバーを「設定モード / 次へ」側に押しながら、メインスイッチを「入」位置にしてください。

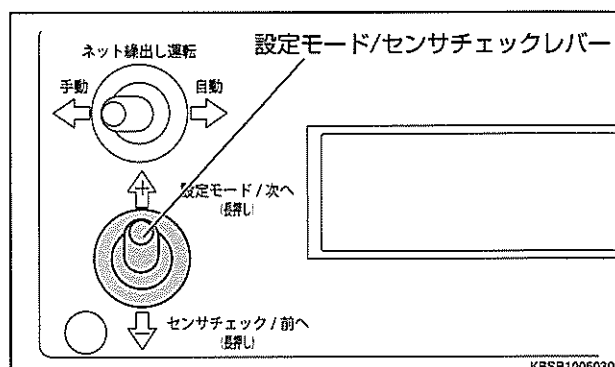


- (2) ディスプレイに「メーカーセッテイモード」と表示されます。

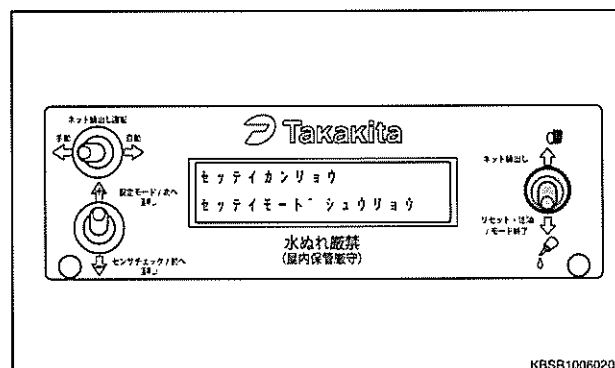


10.6.3 画面表示の切り換えかた

- (1) 設定モード / センサチェックレバーを「設定モード / 次へ」側に長押しすると、表示が切り換ります。



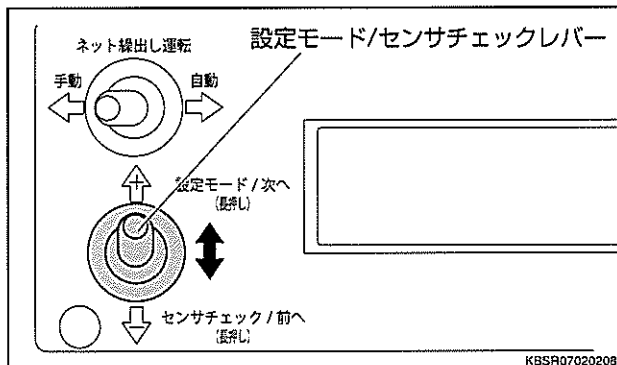
- (2) ネット繰出し / リセット・注油 / モード終了レバーを「リセット・注油 / モード終了」側へ押すと、「セッテイカンリョウ セッテイモードシュウリョウ」と表示され、初期画面へ戻ります。



10. メンテナンスモード

10.6.4 設定値の変更のしかた

- (1) 設定モード / センサチェックレバーを上下に押すことで、設定値を変更することができます。



◆ 各設定項目について

ディスプレイ画面	設定内容	変更※ 1 可能・不可能	設定範囲 (初期値)
クリタ [®] シリョウ: 0.5 ソウ ショキチ: 0.5 ソウ 1.7 m	ネットをチャンバーへ繰り出すときの長さを、調整することができます。	×	0.0 ~ 9.9 ソウ (0.5 ソウ)
カンチキョリ: 20 mm ショキチ: 20 mm	ボールが 100% になる前に、残り何mmでブザーで警告するかを、調整することができます。	○	0 ~ 60mm ※ 2 (20mm)
テイテンアラフ: 1.00 V ショキチ: 1.00 V	タイトチェンの張りを感知する位置(最低値)を、調整することができます。	×	0.00 ~ 2.00V (1.00V)
テイテンアラフ: 4.30 V ショキチ: 4.30 V	タイトチェンの張りを感知する位置(最大値)を、調整することができます。	×	3.00 ~ 5.00V (4.30V)

※ 1…○…本機の使用条件により、変更することができます。

X…設定を変更すると、本機が不調になるおそれがあります。

設定を変更したい場合は、「お買い上げ先」にご連絡ください。

※ 2…最大値は 60mmです。

「セッテイモード」で「カンチキョリ」を変更した場合は、変更した数値が最大値となります。

ディスプレイ画面	設定内容	変更※ 1 可能・不可能	設定範囲 (初期値)
PTソクテイカンカク1: 0.1s ショキチ: 0.1s	タイトチェンの張りを感知するセンサーが、張りの変化をチェックするタイミングを調整することができます。	×	0.0 ~ 9.9s (0.1s)
カンリョウブザー: 1.0s ショキチ: 1.0s	ネットを巻き終えたときの、ブザー吹鳴秒数を調整することができます。	○	0.0 ~ 9.9s (1.0s)
ネットケツクヨブシ: 0.80m ショキチ: 0.80m	ネットを結束して切断する間に、余分にチャンバーへ送られるネット量を、調整することができます。	×	0.00 ~ 9.99m (0.80m)
チャンバー開閉: 2.0s ショキチ: 2.0s	チャンバーが開いているかを、チェックするタイミングを調整することができます。	×	0.0 ~ 9.9s (2.0s)
カウントエラーシカン: 5.0s ショキチ: 5.0s	センサーが、何秒で繰り出し・結束エラーとして感知するかを、設定することができます。	×	0.0 ~ 9.9s (5.0s)
カムエラーシカン: 10s ショキチ: 10s	センサーが、何秒でカムエラーとして感知するかを、設定することができます。	×	0.0 ~ 99s (10s)
チャンバーキーネリ: ON ショキチ: ON	チャンバーが開いているとき、ブザーが鳴らないように、設定することができます。	○	ON・OFF (ON)

※ 1…○…本機の使用条件により変更することができます。

×…設定を変更すると、本機が不調になるおそれがあります。

設定を変更したい場合は、「お買い上げ先」にご連絡ください。

10. メンテナンスモード

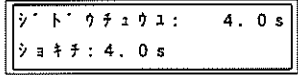
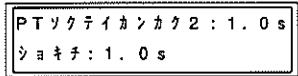
ディスプレイ画面	設定内容	変更※1 可能・不可能	設定範囲 (初期値)
マンリョリカンチホーン: ON ショキチ: ON	ロールベールの作業が終了したときに、ホーンが鳴らない設定にすることができます。	○	ON・OFF (ON)
ネットクリタ[*]シオクレ: 2.0s ショキチ: 2.0s	ネットをチャンバーに繰り出すとき、繰出し遅れのタイミングを調整することができます。	○	0.0 ~ 9.9s (2.0s)
ネットカウント: 0.314m ショキチ: 0.314m	ネットを繰り出すとき、ローラー1回転のネット搬送量を、変更することができます。	×	0.000 ~ 9.999m (0.314m)
ロール径: 1.000m ショキチ: 1.000m	ロール直径の初期値を、変更することができます。	×	0.00 ~ 9.99m (1.000m)
バックアップモード: OFF ショキチ: OFF	センサーが故障した時に、バックアップモードに移行できるように、設定することができます。	○	ON・OFF ※3 (OFF)
バックアップクリタ[*]シ: 5s ショキチ: 5s	センサーが故障した時に、ネットを繰り出すタイミングを、タイマー設定することができます。	○	0 ~ 9s (5s)
バックアップケツソク: 10s ショキチ: 10s	センサーが故障した時に、ネットを結束するタイミングを、タイマー設定することができます。	○	0 ~ 99s (10s)

※1…○…本機の使用条件により変更することができます。

X…設定を変更すると、本機が不調になるおそれがあります。

設定を変更したい場合は、「お買い上げ先」にご連絡ください。

※3…「バックアップモード」を「ON」にした場合のみ、ネット繰出しとネット結束のタイマー設定が適用されます。

ディスプレイ画面	設定内容	変更※1 可能・不可能	設定範囲 (初期値)
	自動でタイトチェンに注油を行うときの、オイル噴射時間を、変更することができます。	×	0 ~ 99.9s (4.0s)
	各センサーをチェックして、ディスプレイに表示させるまでのタイミングを、調整することができます。	×	0.0 ~ 9.9s (1.0s)

※ 1…○…本機の使用条件により変更することができます。

×…設定を変更すると、本機が不調になるおそれがあります。

設定を変更したい場合は、「お買い上げ先」にご連絡ください。